

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田

事業名	北九州環境みらい学習システム推進事業				施策番号	
					I - 3 - (3) - ①	
事業概要	本市の恵まれた自然や充実した環境関連施設等をつ結び、多世代の市民が意欲や能力に応じて、エコツアーなどまち全体で楽しく環境学習が行える仕組みづくりを行います。					事業手法
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10 人	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	18,441 千円	8,150 千円				

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	「環境未来都市」の基盤となる持続可能な社会づくりに向けて、原動力となる「市民環境力」の醸成・向上を目指し、低炭素社会の基礎知識から実践フィールドまでを学ぶことを通じて、ライフスタイルの変革などの行動を起こすことのできるあらゆる世代の人財を育成します。			成果実績	豊富な環境学習施設や自然フィールド、またそれらを活かした多様なプログラムなど、本市の資源を再発見するとともに、地域で活躍する人材の養成を通じて、市民環境力向上への一助となりました。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	行動変革を実行する市民環境力を醸成・向上させる	65.7 %	70.5 %	73.1 %			大変順調
	環境への取組において行動変革を実行することは、市民一人ひとりが日々の生活の中で身近にできることから始めることが重要となることから、「アンケート調査」内の毎日の暮らしの中で環境活動を実行している人の比率 (各取組の平均) を指標として設定しました。 (最終目標と目標年度) 80% (H26年度)			103.7 %	やや遅れ	順調	

活動計画	今年度は昨年度に引き続き、平成22年度に開催した有識者等からなる検討会の意見を参考に、 ○システムを支えるエコツアーガイド等の人材育成 ○充実した環境学習(エコ)ツアーの企画・開催 ○視察などで本市を訪れる外国人に発信するための、環境に精通した環境通訳の育成 ○環境情報拠点として、ホームページ等による発信及び観光案内所での試行的「環境情報コーナー」の設置 ○エコツアーガイドブック(外国語版を含む)等の広報誌の作成 などをを行います。			活動実績	本市の豊富な資源を活用し、国内外の人も含めたあらゆる世代が環境学習を行える仕組みを構築するため、エコツアーガイドの育成等を行い、エコツアーなどを実施しました。また、ホームページ運営を通じ、環境情報の発信拠点としての集約を図りました。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	エコライフステージ・企画運営への参画者数	6,363 人	8,200 人	6,615 人			大変順調
	本システムのアウトプットである、行動変革を伴う市民環境力を示す指標です。			80.7 %	やや遅れ	順調	
	エコツアー参加者数	2,800 人	3,700 人	5,611 人			
	エコライフの推進などの行動変革に向け、導入となる環境学習への関心・意欲を示す指標です。今後はツアーのビジネス化等民間事業者などが主体的に実施する仕組みづくりを推進します。			151.6 %			

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動計画どおりに事業を実施し、エコツアーに関しては、関心が高く予想を上回る参加があるなど成果がありました。また、各施設の情報や学習プログラムなどをホームページで紹介することなどにより、環境情報の総合的な発信を行うことができました。さらに、視察などで本市を訪れた外国人の方々に、本市の強みである環境の取組みや歴史などを正確に伝え、発信できる本市の環境に精通した環境通訳の育成に取り組みました。今後さらに、多世代の市民等が参加し、環境に関する知識や行動力を身に付けることができるよう、人材育成などの仕組みづくり等について準備を進めていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	エコツアー実施については、イベントやツアーなどの実績や広いネットワークを持った事業者・団体に事業委託することで、効率的かつ有意義な学習ツアーが実施できました。また、ガイドの育成については、バスガイドや環境ボランティア、通訳等素養を持った人材に研修を行うことで、効果的な人材育成を実施できました。 将来的に、各企業やNPO法人等による、エコツアーのビジネス化や効果的な環境人材育成事業などにつなげられるよう、手法の検討を進めます。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田

事業名	環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理事業				施策番号	
					I - 3 - (3) - ②	
事業概要	環境ミュージアム及びエコハウスは、北九州市全体の環境力を高めるための重要な施設です。地球温暖化や廃棄物問題などの環境問題の原因の多くは、市民一人ひとりの日常生活の積み重ねにあります。環境にやさしい持続的な社会を実現するためには、学校、企業、市民、市民団体、行政それぞれが主体となり、相互に連携して取り組む必要があります。					事業手法 ( ) <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	
	74,476 千円	74,273 千円			課長 0.15 人 係長 0.15 人 職員 0.30 人	(人件費備考)

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	環境ミュージアムを拠点として、来館者に公害克服の歴史を始め、廃材を活用したエコ工作やごみの分別の仕方、3Rに関する紙芝居などアクティビティ(体験活動)の実施を通して、環境について分かりやすく説明を行うことで、市民ボランティアである環境学習サポーターを地域の環境リーダーへと育成します。	成果実績	地域での活動が90回に上り、環境リーダー育成が推進されました。また、このことにより環境意識が高まり、地域で環境活動を牽引する人材の育成にも繋がることを期待します。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	環境学習サポーターによる出張ミュージアム回数 育成されたサポーターは、地域の環境リーダーとして、学校や市民センターなど地域に出かけて活動します。ミュージアム外の活動である「出張ミュージアムの回数」を指標としました。目標については、H21-23の3か年の平均(97回)を基準としました。 (最終目標と目標年度)H24~28年度累積:485回 [実績H24:90回]	99 回	97 回	90 回 92.8 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック    <b>順調</b>

活動計画	環境人材を育成し、地域の環境リーダーとして活動してもらおうと、月に1回の学習会を行い、知識面でのレベルアップを図ります。また、サポーター同士で工作等の技術を教えあうことで、技術面でのレベルアップを図ります。サポーターの高齢化が進んでいるため、多様な世代の取り込み、養成方法について検討していきます。	活動実績	月例学習会に参加し研鑽を積み、また、様々な環境イベントに参加することで、本市の環境学習の担い手として、成長しています。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	環境学習サポーター月例学習会参加者数 出前講演を利用するなど、本市の施策等様々な分野について、サポーター会及び各サポーターの向学のための自主的な学習の場として機能しており、今後の活動にさらなる拡がりを持たせているため、その参加人数を指標としています。目標値は月平均30名の参加を見込んだものです。	295 人	360 人	360 人 100.0 %	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	環境学習サポーター館内活動延べ人数 館内で、様々なエコ工作や環境実験などのアクティビティを通じて、来館者へ環境問題にかかる「気づき」を与える活動への参加者数で、人材活用を表す指標です。目標値は、一日平均7~8人の参加を見込んだものです。	2,520 人	2,200 人	2,488 人 113.1 %	やや遅れ 遅れ	<b>順調</b>

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	月例学習会によりスキルアップを図りながら、活動拠点である環境ミュージアムにおいて目標を超える活動を実施しています。また、目標に達していませんが年間90回を超える館外活動にも取り組むなど、環境学習サポーターの活動は概ね順調といえます。一方で、サポーターの高齢化が進んでおり、多様な世代を取り込むことが課題といえます。今後とも、サポーター育成を図るとともに、館内外活動を充実させ、地域の環境リーダー育成につなげていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	環境学習サポーターの活動については、現在、指定管理により、すでに民間活力を導入しているため、効率的に行われていると考えています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田

<b>事業名</b>	ESD推進事業					施策番号	
						I - 3 - (3) - ②	
<b>事業概要</b>	持続可能な社会の構築を図るため、国連など世界規模で進められている「持続可能な開発のための教育(ESD)」を、北九州ESD協議会を中心に、市民、企業、大学等と連携しながら推進します。具体的には、あらゆる人々が地域等における様々な課題に気付き、つながり、既実践している活動等にESDの視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていく人づくり・学びあいの場づくりを進めます。					<b>事業手法</b>	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
							( )
<b>コスト</b>	<b>事業費</b>	24年度執行額 14,477 千円	25年度当初予算額 15,300 千円	(事業費備考)	人件費	目安の金額 13,950 千円	課長 0.30人 係長 0.60人 職員 0.60人
	(人件費備考)						

## 【Plan】計画 →      【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を) どのような状態にしたいのか 「世界の環境首都」の実現を目指し、その基盤となる「持続可能な社会づくり」を担う、ESDの視点をもちた人づくりに取り組みます。また、それらの活動や本市のこれまでの取組みを国内外に向けて広く情報発信し、世界的な環境教育・開発教育の拠点を目指します。	<b>成果実績</b>	抽象的であるESDの概念を分かりやすく普及するため、広報誌や市政テレビなどによる紹介などを通じ、認知度は昨年度から若干の伸びが見られました。また、市内10大学の連携により、平成25年3月小倉の中心市街地に「まなびとESDステーション」が開設されたことなどからも、今後認知度をはじめ、活動の活発化が期待されます。
-----------	--	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	実績	→	【成果の状況】
		市民のESD活動の認識の向上と活動の普及 <small>ESDとは、あらゆる人々が地域等の様々な課題とそつながりに気付き、地域で既実践している活動等に、持続可能性という視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていくための学びあいの場、人づくりの場のことです。本市が目指す環境未来都市及び世界の環境首都を実現するためには、このESDの視点が不可欠です。一方で、ESD活動は多種多様にわたっていることから、活動数を把握し、数値で表すことは困難です。</small>	-	認識の向上と活動の普及	-	
アンケート調査におけるESD認知度 <small>活動を推進する上で、まずはESDについての認知度を高めるための取組みが重要であり、認知度の把握は不可欠であることから、「アンケート調査」内のESDIについての認知度を指標として設定しました。</small>		4.1 %	6.0 %	4.5 %		やや遅れ
	(最終目標と目標年度) (最終目標と目標年度)(20% H26年度)			75.0 %	遅れ	順調

<b>活動計画</b>	2014年に、日本で開催予定の「ESDの10年・最終年合」に向けて、ESD活動の推進拠点であるRCE地域の一つとして、活動を一層活性化させるため、これまでの取組みに加え、 ○地域におけるESD普及の鍵となる「ESDコーディネーター」の育成 ○国内外のRCEとのネットワーク強化も目指した最終年合を盛り上げるイベントの開催 などを行います。	<b>活動実績</b>	地域活動の核となる市民センター館長や社会教育主事などを対象に、ESDコーディネーター研修を実施し、当初の見込みを上回る46名の参加がありました。また、2013年のアジア太平洋RCE地域会議の本市での開催が決定しました。
-------------	---	-------------	---

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		活動団体登録数 <small>本市のESD活動の中心となっているESD協議会への登録団体数を、活動の指標として設定しました。目標については、環境モデル都市地域推進協議会メンバー(約380団体)の2割程度の数字としています。</small>	72 団体	74 団体	74 団体	
				100.0 %		順調
					やや遅れ	遅れ

## 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<p><b>【成果の状況】</b>  <b>【活動の状況】</b>          を踏まえた分析          ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>ESDの認知度については、ESDの概念が抽象的で分かりにくいことなどから、アンケート調査における認知度が目標に達していません。一方で、市内10大学連携により平成25年3月にオープンした「まなびとESDステーション」における地域と協働の学生の取組みをはじめ、ESD活動の普及を担うつなぎ役・まとめ役たる「ESDコーディネーター」の育成を通じ、今後ESDの認知度向上をはじめ、活動の活発化が期待されます。また、2013年のアジア太平洋RCE地域会議の開催を通じ、世界に本市の取組みを発信するとともに、これまでESDを認知していなかった市民が新たに認識し、活動に参加できるよう取組みを進めます。</p> <p><b>「経済性」</b>(同成果を低コストで)  <b>「効率性」</b>(同コストで高成果を)の分析          ※民間活力導入の視点</p> <p>地域におけるESD普及の鍵となる「ESDコーディネーター」の育成については、市民活動団体の発想や専門性等を活かした提案を、市と協働で実施する「市民活動団体等による環境未来都市推進支援事業」で行うことにより、相互の利点を活かした効果的な取組みとなりました。</p>
------------------	---

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	<b>課題</b>	26年度の活動計画(見直し内容)  その結果目指す成果(26年度の成果目標)
---------------	-----------	--

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田

事業名	北九州市環境首都検定			施策番号	
				I - 3 - (3) - ②	
事業概要	北九州市の「美しき世界の環境首都」への取組を実現するために、市民の“環境力”を高めるきっかけづくりを行うものです。ジュニア編(主に小学生対象)は25問、一般編は40問、上級編は50問あり、70点以上を合格としています。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.15 人
	7,407 千円	8,410 千円		6,600 千円	係長 0.30 人 職員 0.25 人

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	検定の実施により、市民の環境についての学習機会を増やし、環境意識のレベルアップや環境に関心を持つ市民の裾野を広げます。市民をはじめ、人々が北九州市の環境について精通するようにします。	成果実績	目標を上回る受検者数を達成、環境人材の育成に寄与できました。また、今回より上級編を新設し環境人材のスキルアップの仕組みを進めることができました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	北九州市環境首都検定の受検者数(単年度) 北九州市環境首都検定の受検者数を増加させ、環境について自己啓発に励む市民の創出を目指します。 単年度受検者数における達成目標[目標]H25年度: 3,000人(H24: 2,000人)[実績(達成率)]2,024人(101.2%) [目標]H20~H25年度累積: 9,000人[実績(達成率)]H20~H24年度累積: 6,249人(69%) H28年度 5,500人	1,879 人	2,000 人	2,024 人 101.2 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック  <b>順調</b>

活動計画	目標の達成と、検定制度の定着化に向けて、平成24年度も検定PRに力を入れます。また、前回受検者へのDMや企業・大学・教育委員会を通じた受検呼びかけなど、効果的なPRを実施します。	活動実績	効果的な団体等への呼びかけにより、団体受検の増加につながりました。また、学校で受検できる「学校受検制度」を新設できたことは、今後に繋がる大きな成果でした。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	受検啓発の実施 北九州市環境首都検定の受検者数を増加させ、環境について自己啓発に励む市民の創出を目指します。市民力レッジでは「環境首都検定合格応援講座」を実施し講義形式で検定対策を行い、エコライフステージでは検定のPR活動を行います。	4 日	5 日	4 日 80.0 %	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	団体受検増加への取り組み 学校や企業、市民団体等、グループの受検を推奨することで、受検者増を促進します。	105 団体	90 団体	92 団体 102.2 %	やや遅れ 遅れ	<b>順調</b>

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	受検者数の増加 → 検定受検者数は2,024人(ジュニア編は594人、一般編は1,296人、上級編は424人、内ダブル290人)と前年度に比べて大きく増加しました。学校や会社、家族などグループでの参加もあり、受検者は子どもから年長者まであらゆる年齢層にわたりました。受検者増加の最も大きな要因は、小学校を会場として受検できる「学校受検制度」の新設です。これによりジュニア編の受検者数が昨年度(86人)に比べ594人と大幅に増えました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	本検定制度が好調な成果をあげているのは受検料が無料によるところが大きいと考えられます。しかしながら、今後は、受検者数の増加に伴うコスト増など課題も出てくると考えられます。民間を活用した効率的な運営方法などを検討していきたいと思ひます。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境科学研究所
課長名	寺師

事業名	環境科学研究所の分析機器の整備				施策番号	
					II - 1 - (2) - ②	
事業概要	市民の生活環境の保全及び健康の保持、増進に関する問題の発生に対処するための行政依頼検査及び調査研究に必要な理化機器を新たに整備するとともに老朽化した機器の更新を行い、検査・研究体制の充実を図っています。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	11,092 千円	2,991 千円		10,325 千円	(人件費備考)	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	環境科学研究所における検査・分析の精度向上、効率化、対象項目の拡大を図るため、限られた事業費の中で緊急性や重要性などを考慮しながら計画的に設備を更新し、市民の安全・安心を守り、地域の快適な環境づくりを進めていきます。			成果実績	現在の水準を維持しました	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	万全な検査体制の維持	-	現在の水準を維持・向上	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	環境科学研究所においては、必要な検査を適切に行えるように、常に計画的な機器の整備更新に努めています。 (最終目標と目標年度)					順調	

活動計画	検査・分析の精度向上、効率化、対象項目の拡大を図るため、常に計画的な設備更新に努めていきます。			活動実績	下記のとおり		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	整備・更新した機器の数	2 台	3 台	3 台	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	
	検査・分析の精度向上等を図っていくには、計画的な設備更新の必要があり、指標として設定しました。(平成24年度は、純水・超純水製造システム、パルスフィールド電気泳動システムと超低温槽を更新)			100.0 %			

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	環境科学研究所における検査・分析の精度向上、効率化、対象項目の拡大を図るために計画し、今年度予定した機器を整備・更新できました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	必要な機器を計画的に整備・更新しています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田

事業名	ESD推進事業				施策番号	
					II - 3 - (4) - ②	
事業概要	持続可能な社会の構築を図るため、国連など世界規模で進められている「持続可能な開発のための教育(ESD)」を、北九州ESD協議会を中心に、市民、企業、大学等と連携しながら推進します。具体的には、あらゆる人々が地域等における様々な課題に気づき、つながり、既実践している活動等にESDの視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていく人づくり・学びあいの場づくりを進めます。				事業手法 ( )	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	14,477 千円	15,300 千円		13,950 千円	(人件費備考)	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	「世界の環境首都」の実現を目指し、その基盤となる「持続可能な社会づくり」を担う、ESDの視点をもった人づくりに取り組みます。また、それらの活動や本市のこれまでの取り組みを国内外に向けて広く情報発信し、世界的な環境教育・開発教育の拠点を目指します。	成果実績	抽象的であるESDの概念を分かりやすく普及するため、広報誌や市政テレビなどによる紹介などを通じ、認知度は昨年度から若干の伸びが見られました。また、市内10大学の連携により、平成25年3月小倉の中心市街地に「まなびとESDステーション」が開設されたことなどからも、今後認知度をはじめ、活動の活発化が期待されます。
----	---------------------	---	------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		市民のESD活動の認識の向上と活動の普及 <small>ESDとは、あらゆる人々が地域等の様々な課題とそのつながりに気づき、地域で既実践している活動等に、持続可能性という視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていくための学びあいの場、人づくりの場のことです。本市が目指す環境未来都市及び世界の環境首都を実現するためには、このESDの視点が不可欠です。一方で、ESD活動は多種多様にわたっていることから、活動数を把握し、数値で表すことは困難です。</small> (最終目標と目標年度)	-	認識の向上と活動の普及	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	アンケート調査におけるESD認知度 <small>活動を推進する上で、まずはESDについての認知度を高めるための取り組みが重要であり、認知度の把握は不可欠であることから、「アンケート調査」内のESDIについての認知度を指標として設定しました。</small> (最終目標と目標年度)(20% H26年度)	4.1 %	6.0 %	4.5 %	109.8 %	

活動計画	2014年に、日本で開催予定の「ESDの10年・最終年合会」に向けて、ESD活動の推進拠点であるRCE地域の一つとして、活動を一層活性化させるため、これまでの取組みに加え、 ○地域におけるESD普及の鍵となる「ESDコーディネーター」の育成 ○国内外のRCEとのネットワーク強化も目指した最終年合会を盛り上げるイベントの開催 などをを行います。	活動実績	地域活動の核となる市民センター館長や社会教育主事などを対象に、ESDコーディネーター研修を実施し、当初の見込みを上回る46名の参加がありました。また、2013年のアジア太平洋RCE地域会議の本市での開催が決定しました。
------	--	------	---

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		RCE活動実績 <small>全世界で活動しているESD推進の地域拠点であるRCEとの交流等を国際的な活動の指標として設定しました。</small>	5 回	6 回	6 回 100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	活動団体登録数 <small>本市のESD活動の中心となっているESD協議会への登録団体数を、活動の指標として設定しました。目標については、環境モデル都市地域推進協議会メンバー(約380団体)の2割程度の数字としています。</small>	72 団体	74 団体	74 団体 100.0 %	順調	

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	ESDの認知度については、ESDの概念が抽象的で分かりにくいことなどから、アンケート市民意識調査における認知度が目標に達していません。一方で、市内10大学連携により平成25年3月にオープンした「まなびとESDステーション」における地域と協働の学生の取り組みをはじめ、ESD活動の普及を担うつなぎ役・まとめ役たる「ESDコーディネーター」の育成を通じ、今後ESDの認知度向上をはじめ、活動の活発化が期待されます。また、2013年のアジア太平洋RCE地域会議の開催を通じ、国内外のRCEとの交流・パートナーシップの強化を図るとともに、これを機としてこれまでESDを認知していなかった市民が新たに認識し、活動に参加できるよう取り組みを進めます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	地域におけるESD普及の鍵となる「ESDコーディネーター」の育成については、市民活動団体の発想や専門性等を活かした提案を、市と協働で実施する「市民活動団体等による環境未来都市推進支援事業」で行うことにより、相互の利点を活かした効果的な取り組みとなりました。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# PDCAチェックシート (平成24年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境国際戦略課
課長名	久保

事業名	環境国際協力推進事業			施策番号		
				Ⅱ - 3 - (4) - ②		
事業概要	途上国技術者を受け入れる国際研修や経験豊かな市内企業技術者等を諸外国都市に派遣し、現地で相手都市も主体的に関わった実践的な技術指導を実施します。また、国内外の関係機関と協働・連携した調査、情報収集や発信を行うとともに、各種都市間ネットワークを活用したプロジェクトを実施します。更には国際機関等と密に連携して、協力対象国や都市の「緑の成長」にも資する環境国際協力を目指すものです。					
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10人
	12,932 千円	96,000 千円			6,650 千円	係長 0.10人 職員 0.60人
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( ) (人件費備考)					

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	国、国際機関等の補助事業を活用しながら、環境国際協力の実施を通じた地球環境保全、地球規模での持続可能な社会実現、北九州地域の活性化に資することにより、世界の環境首都の実現を目指します。			成果実績	・インドネシア・バリクパパンにおいて技術輸出を見据えた環境学習プログラム開発事業を実施 ・マレーシア国における廃棄物管理業務の効率化事業 ・インドネシア・スラバヤ市における分散型排水処理施設整備事業 ・ブラジル国における廃棄物管理推進事業	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	戦略的国際環境協力事業の件数(単年度)						
	本市が有する都市間ネットワークを活用した戦略的な環境分野に関するプロジェクトを実施し、国際機関等と連携を密にして、協力対象国や都市の「緑の成長」にも資する環境国際協力を目指します。  (最終目標と目標年度)H28年度までに年間事業数6件を目指します。	3 件	3 件	4 件 133.3 %	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	(最終目標と目標年度)				やや遅れ 遅れ	大変順調	

活動計画	独立行政法人国際協力機構の草の根事業(地域提案型)及び財団法人自治体国際化協会の自治体国際協力促進事業を活用し、廃棄物分野や環境教育分野において事業を展開して行きます。	活動実績	H24.12にバリクパパン市にて、環境学習に関するワークショップを開催しました。 H25.2にハントワジャヤ特別市にて、環境関連セミナーを現地カウンターパートと共に開催しました。				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	バリクパパン特別市に対する環境教育イベント実施回数			1 回			
	バリクパパン特別市での協力イベントの実施するなど、環境国際協力の推進を図ります。	-	1 回	100.0 %	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	マレーシア国ハントワジャヤ特別市での環境セミナーへの参加者数 ハントワジャヤ特別市で政府、教育機関、市民を対象とする環境関連セミナーを開催し、北九州市の政策発表、マレーシア国での取組事例、環境意識改善を行います。	-	150 人	213 人 142.0 %	やや遅れ 遅れ	大変順調	

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	環境教育の分野においてインドネシア・バリクパパン市の環境意識改善に貢献しました。また、マレーシア国ハントワジャヤ特別市で廃棄物管理の効率化に向けた、専門家の育成や政策提案などを行うなど活動成果も出ていることから、成果の状況、活動の状況ともに大変順調としています。 なお、環境国際協力推進事業において、インドネシア国スラバヤ市で実施した「生ごみ堆肥化事業」などでは、そこで培った友好関係が発展し、平成24年11月12日に同市と「環境姉妹都市(グリーンシスターシティ)」に関する覚書を締結するに至りました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	独立行政法人国際協力機構の草の根事業(地域提案型)及び財団法人自治体国際化協会による補助事業を活用することで、本市の財政負担を軽減しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題
	26年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# PDCAチェックシート (平成24年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境国際戦略課
課長名	久保

事業名	アジアの環境人材育成拠点形成事業			施策番号	
				II - 3 - (4) - ②	
事業概要	アジアの途上国やその都市が自らの力で環境改善の取組を進めることができるよう、人材育成に向けてJICA等国の支援や連携により、実践的な国際環境研修事業を推進していくものです。 本市の環境国際協力の原点である環境人材育成は、「世界の環境首都」を目指す本市の取り組みの一環であり、海外からの研修員を受け入れることにより、世界的規模で進んでいる環境問題解決の一助を担うとともに、現地の環境改善や海外諸都市とのネットワーク構築、ひいては環境国際ビジネスへの事業展開に繋がるものです。				
	事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10人
	2,371 千円	2,435 千円		4,400 千円	係長 0.10人 職員 0.30人 (人件費備考)

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	環境問題に直面しているアジア地域の行政官を対象に研修事業を行い、現地での環境改善において中心的な人材育成を図るとともに市職員・関係機関職員の能力開発を行うことで、アジアの環境人材育成拠点を目指します。			成果実績	平成24年度 900人受入 (内訳 市:479人 KITA:421人)	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	アジアの環境人材育成のための研修員等の受入数			900 人	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	アジアの途上国やその都市が自らの力で環境改善の取組を進めることができるよう、本市において環境人材育成を行います。あわせて、本市の優れた環境人材を海外において指導できるよう育成します。 (最終目標と目標年度)H24年度～H28年度 2,200人受入	431 人	420 人	214.3 %			
					やや遅れ	大変順調	
				遅れ			

活動計画	平成24年度から平成28年度までの5年間に、2,200人の研修員を受け入れるため、国内外での研修誘致活動を行います。	活動実績	研修誘致のため国内外へ職員を4回派遣しました。				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	国内外での北九州市への研修誘致			4 回	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	市職員を国内外に派遣し、公害を克服した本市の技術、ノウハウや環境政策のPR、研修誘致を行います。	-	-				
						やや遅れ	順調
					遅れ		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	研修生受け入れについては、目標である420人を達成しました。環境未来都市・グリーンアジア国際戦略総合特区やOECDグリーンシティプログラムのモデル都市への選定などにより、国内外から注目を集めた結果だと考えており、成果の状況を順調としています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	(公財)北九州国際技術協力協会や(独)国際協力機構などと連携することで、コストの軽減を図りました。また、国内外への出張に併せ、環境政策のPRを行うとともに、本市への研修誘致を行いました。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	業務課
課長名	植木野

事業名	まち美化等啓発事業			施策番号	
				Ⅲ - 1 - (1) - ③	
事業概要	北九州市空き缶等の散乱の防止に関する条例(まち美化条例)に基づき、ポイ捨てのない清潔で美しいまちづくりを推進するため、市民や企業、ボランティア団体等と連携し、春の「『クリーン北九州』まち美化キャンペーン」、秋の「市民いっせいまち美化の日」などのまち美化事業を実施し、市民の環境美化に対する関心及びモラル・マナーの向上を図り、「世界の環境首都」に相応しい清潔で美しいまちづくりを推進します。			事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
コスト	24年度執行額 3,057 千円	25年度当初予算額 3,092 千円	(事業費備考)		

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 北九州市空き缶等の散乱の防止に関する条例(まち美化条例)に基づき、ポイ捨てのない清潔で美しいまちづくりを推進するため、市民や企業、ボランティア団体等と連携し、清掃活動等のまち美化事業を実施することで、まち美化に対する意識の高揚・定着を図っていきます。	成果実績	多くの市民が参加し、市民のまち美化意識の高揚へと繋がりました。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	まち美化ボランティア清掃参加者数(単年度)	119,049 人	125,000 人	122,152 人	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	まち美化意識の高揚を図るため、「『クリーン北九州』まち美化キャンペーン(春)」、「市民いっせいまち美化の日(秋)」を設定し、市内でのまち美化清掃や啓発行事を行い、参加者の増加に努めます。 (最終目標と目標年度) 125,000人(H25年度)			97.7 %		
	アンケート調査における地域でのまち美化清掃実行の割合	54 %	60 %	58 %	やや遅れ 遅れ	順調
市民のまち美化意識の定着を図り、アンケート調査における地域でのまち美化清掃が「常に実行」及び「時々実行」の回答の割合が増えるように努めます。 (最終目標と目標年度) 60%(H25年度)	96.7 %					

活動計画	市民・団体がきれいな環境づくり・モラルマナーの向上に関心を高めることを目的に、いっせいまち美化を北九州市衛生総連合会と共同で呼びかけ清掃参加者数の増加に努めます。	活動実績	・多くの市民が参加し、市民のまち美化意識の高揚へと繋がりました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	まち美化キャンペーン(春)のボランティア団体への呼びかけ数	151 団体	160 団体	172 団体	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	「『クリーン北九州』まち美化キャンペーン(春)」において、キャンペーン期間(5/30~6/30)にボランティア清掃を呼びかけている登録団体数。			107.5 %		
	チラシ作成枚数	108,000 枚	108,000 枚	106,000 枚	やや遅れ 遅れ	順調
「『クリーン北九州』まち美化キャンペーン(春)」と「市民いっせいまち美化の日(秋)」の案内、啓発、参加申込を記載したチラシの作成枚数。	98.1 %					

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	北九州市衛生総連合会と共催することにより、より市民・自治会(衛生協会)とのつながりが強くなり、まち美化に対する関心を持続的に高めることが可能になっています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	現時点で、十分にコストを削減しているが、市民、団体等への広報・PRの方法は依頼文・チラシの配布等が主体のため、インターネットでの清掃申請をもっと利用しやすく、市民の間に浸透することで、より一層のコスト削減が可能と思われます。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田

事業名	北九州エコライフステージ開催事業				施策番号																		
					VI - 1 - (1) - ①																		
事業概要	各地域が主体となって実施する「地域・テーマ別事業」、環境情報の交流の場・発信の場づくりを推進するポータルサイトの運営、その取組みの集大成として、市民・企業・NPO・行政等が集結し、日頃の環境活動やエコライフを発表・提案する環境イベントの開催等を行います。																						
	<table border="0"> <tr> <td rowspan="3">コスト</td> <td>24年度執行額</td> <td>25年度当初予算額</td> <td>(事業費備考)</td> <td rowspan="3">人件費</td> <td>目安の金額</td> <td>課長 0.10 人</td> </tr> <tr> <td>20,873 千円</td> <td>19,485 千円</td> <td></td> <td>6,900 千円</td> <td>係長 0.20 人</td> </tr> <tr> <td colspan="6">(人件費備考)</td> </tr> </table>						コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人	20,873 千円	19,485 千円		6,900 千円	係長 0.20 人	(人件費備考)				
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人																	
	20,873 千円	19,485 千円			6,900 千円	係長 0.20 人																	
	(人件費備考)																						
事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他																							

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 市民一人ひとりが楽しみながら環境活動に参加し、様々なテーマで実践や交流を重ねるための情報交流の場・発信の場をつくることで、また新たな取組を産み出していく「市民環境力」の向上を目指します。	成果実績	域での取組みをはじめ、民間団体の企画によるイベントの増加により、エコライフステージ参加者数は目標を大幅に上回る成果がありました。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	エコライフステージ参加者数(単年度)	73.9 万人	74.0 万人以上	142.4 万人	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	(参加者数とは、各地域が主体となって実施される「地域・テーマ別事業」の参加者数と、シンボル事業「エコライフステージ」(市民・企業・NPO・行政等が集結し、日ごろの環境活動やエコライフを提案するイベント)の来場者数の合計数です。市民の環境活動への参加が市民の環境力につながると考え、設定しました。)			192.4 %		
	(最終目標と目標年度)74万人以上(H28年度)				やや遅れ	大変順調
市民・企業・行政等の交流によるネットワーク構築と拡大	-	市民・企業・行政等の交流によるネットワーク構築と拡大を目指します。	-	遅れ		
「市民環境力」を強化するための情報交流の場・発信の場づくりを推進します。具体的には、環境に配慮したイベント運営の実施、環境をテーマとしたポータルサイトの運営・効果的かつタイムリーな情報発信を行います。						
(最終目標と目標年度)						

活動計画	環境情報・イベントをはじめ、活動団体等の取組み等の効果的かつ積極的な受発信などを通じ、地域や民間団体等が環境に対する意識を高めることにより、自ら企画・実施する環境活動の増加を目指します。また、事業実施にあたっては、行政コスト削減の観点から、協賛金収入増加に向けて取り組みます。	活動実績	各地域が主体となって実施する環境関連の取組数は年々増加傾向にあり、活動の広がりが見られます。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	エコライフステージ行事数	189 行事	190 行事	191 行事	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	(行事数とは、各地域が主体となって実施される「地域・テーマ別事業」及びシンボル事業「エコライフステージ」(市民・企業・NPO・行政等が集結し、日ごろの環境活動やエコライフを提案する環境イベント)の行事合計数です。地域で行われている環境活動の行事数増加が市民の環境力につながると考え、設定しました。)			100.5 %		
					やや遅れ	順調
				遅れ		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	成果の状況・活動の状況ともに大変順調です。「シンボルイベント」は、同時開催イベントや周辺施設との連携により年々拡がりを見せてるとともに、「地域・テーマ別事業」も、本市が目指す民間団体の企画によるイベントの充実などにより、平成24年度の参加者数は過去最高を記録しました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	本事業は、主に市の負担金と協賛金で成り立っており、事業実施にあたって、毎年、市のコストを見直すとともに、協賛金等の収入の増加に努めています。今後もより一層、効率的・経済的な運営に取組みます。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田

事業名	菜の花プロジェクト推進事業				施策番号	
					VI - 1 - (1) - ①	
事業概要	市民が菜の花の栽培や菜種の搾油体験等を通じて、「菜種→食用油→せっけんやバイオディーゼルの資源循環や新エネルギーの利用促進につながることを学習する取組みを推進します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	1,008 千円	1,165 千円		2,575 千円	(人件費備考)	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 菜の花を通じた分かりやすい環境学習を通じて、市民の環境意識の向上を目指します。	成果実績	「菜の花プロジェクト事業」の推進により、市民が身近に分かりやすく、資源循環や新エネルギーの利用促進などを体感できる環境学習として一定の効果が見られました。一方で、菜種の回収団体数が伸び悩むといった課題があります。			
代表的な成果指標	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 菜の花プロジェクト推進事業における菜種の回収団体数(単年度) 菜種の播種から収穫まで、地域や市民センター等市民の目に触れる場所で栽培活動に取り組んだ団体数です。この団体数が増えることで、資源循環をより市民に広く伝えることができると考えます。回収した菜種は、搾油の実演に活用します。目標については、前年度以上の向上を目指しました。 (最終目標と目標年度)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
		17 団体	増加(前年度以上)	8 団体 47.1 %	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民自らの実践による環境意識の向上 菜の花の栽培から廃食用油の再利用の一連の流れの中で、「資源循環」や「新エネルギーの利用促進」を体感し、市民自らの実践による環境意識の向上を目指します。 (最終目標と目標年度)	-	市民自らの実践による環境意識の向上を目指します。	-	やや遅れ 遅れ	やや遅れ

活動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・菜種の配布、回収(保幼・小・中学校、市民センター)</li> <li>・搾油機の貸出、搾油の実演</li> <li>・市民公募イベント「菜の花プロジェクトin河内温泉」実施</li> <li>・菜の花プロジェクト補助金交付</li> </ul>	活動実績	計画どおり、取組みを啓発するイベントの実施や補助金の交付、菜種の配布・回収、搾油機の貸出しなどを行いました。一方で、補助金交付申請団体の固定化などの課題があります。			
活動指標	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 補助金交付件数 地域や市民センター等市民の目に触れる200㎡以上の土地で、菜の花の栽培から菜種油の利用を実施する市民団体・NPO等の自主的な取組みに対して、補助金を交付した団体の数です。この団体数が増えることで、資源循環をより市民に広く伝えることができると考えます。目標については、平成22年度及び平成23年度予算要求団体数で設定しました。	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
		5 団体	5 団体	4 団体 80.0 %	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
					やや遅れ 遅れ	やや遅れ

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 <b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	菜の花の栽培や菜種の搾油体験を通じ、「資源循環」や「新エネルギーの利用促進」につながることを体感・学習することにより、市民の環境意識の向上を図る本プロジェクトも、平成19年度からの6年間の取り組みにより一定の効果を見ることができました。一方で、菜種の回収団体数や補助金交付件数が伸び悩むなどの課題があり、現行の助成制度を市民にとって活用しやすい支援制度に改善するとともに、菜の花を通じた環境学習の取組みをこれまでのように全市的な助成事業としてではなく、他の環境活動とあわせて一体的に推進していきます。 菜種を無料配布し、それをもとに行う事業であるためコストを減らすことは困難です。しかし、河内温泉でのイベントについては実施方法を見直し、市民が多く集まるエコイベントで搾油実演やキャンドル作りなどを委託して行うことにより、低コストかつ効率的に、環境学習に参加していただくことができました。
-----------	---	--

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	循環社会推進課
課長名	敷田

事業名	北九州市民環境パスポート事業				施策番号	
					VI - 1 - (1) - ①	
事業概要	レジ袋発生抑制(リデュース)を図るとともに、市民に楽しみながら環境活動に参加できるきっかけを提供するため、買物の際に参加店でレジ袋を断るとポイントシールがもらえ、20ポイント貯まると参加店で50円の割引券として利用できる「カンパスシール事業」を実施します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	12,445 千円	12,780 千円		3,575 千円	(人件費備考)	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	レジ袋発生抑制(リデュース)を図るとともに、市民に楽しみながら環境活動に参加できるきっかけを提供することにより、家庭ごみの減量化の推進を図ります。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	カンパスシール等によるレジ袋お断り率(単年度)			23.9 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	レジ袋のリデュースによるCO2削減効果に結びつくとともに、市民の身近な環境活動への参加状況を表す指標とします。	23.9 %	27.0 %	88.5 %		
	(最終目標と目標年度)各店舗の独自のサービス(ポイント加算や有料化)を含んだお断り率としてH25年度に27%					順調

活動計画	継続して積極的な広報活動を行い、市民の環境活動への参加を働きかけることにより、平成25年度までに各店舗で独自のサービス(ポイント加算や有料化)を含めたお断り率として27%を目指して取り組んでいきます。	活動実績	活動実績は、下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	広報活動の実施			11 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市民の環境活動への参加を働きかけるために、積極的な広報活動を行います。	9 回	目標設定は ありません			
						順調

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	事業開始時は、9.5%だったレジ袋お断り率は、目標の20%を超えて推移しています。事業者や店舗の統合による参加店の減少等によるお断り率の伸び悩みなどの課題もありますが、お断り率が20%を超えていることから一定の成果をあげていると考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	カンパスシール事業は、参加店舗のシール購入代金を原資にしており、本市が担う部分は運営・参画支援の部分であるため、経済性・効率性は高いと考えます。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	循環社会推進課
課長名	敷田

事業名	古紙リサイクル推進事業				施策番号	
					VI - 1 - (1) - ②	
事業概要	一般廃棄物の減量化・資源化促進のため、回収量に応じた奨励金の支給や、古紙回収用保管庫の貸与などを通じ、町内会等の市民団体による古紙の集団資源回収活動を支援します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (奨励金)
コスト	事業費	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		課長
		254,197 千円	271,776 千円		係長	0.05 人
				人件費	職員	0.30 人
					目安の金額	2,750 千円

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	古紙の集団資源回収活動の支援を通じ、家庭ごみの約15%を占める古紙の減量化・資源化を図ります。			成果実績	成果の状況は下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	年間古紙回収量(単年度)						
	平成23年度に策定した循環型社会形成推進基本計画に掲げたりサイクル率35%以上を目指すため、平成32年度までに1人あたりの古紙回収量の10%増加(対21年度比)を目指します。 (最終目標と目標年度)1人あたり10%回収量の増加(H32年度)	29,106 トン	30,500 トン	28,708 トン	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	古紙回収に取り組むまちづくり協議会数			94.1 %			
古紙回収に取り組むまちづくり協議会の増加を目指します。 (最終目標と目標年度)全136団体の参加(目標年度の設定なし)	123 団体	136 団体	128 団体	やや遅れ 遅れ	順調		
			94.1 %				

活動計画	未回収地域の解消を図り古紙回収量の増加を目指すため、未回収地域における回収等を行っているまちづくり協議会に対し奨励金を支給する地域調整奨励金制度に未登録であるまちづくり協議会に対して、積極的に登録を呼びかけます。また、かえるプレスへの掲載や出前講演、古紙リサイクルバスツアー等を通して、古紙回収についての周知を行います。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	未登録団体への個別訪問件数						
	地域調整奨励金制度に未登録であるまちづくり協議会に対して、個別に訪問説明し、登録を促します。	—	13 (個別訪問件数) 団体	13 団体	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	広報活動の実施			16 回			
かえるプレスへの掲載や出前講演、古紙リサイクルバスツアー等を行い、古紙回収の周知を行います。	4 回	—		やや遅れ 遅れ	順調		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	古紙の流通量の減少や、スーパー等での店頭回収が増加などの影響により、集団資源回収量は微減となっていますが、家庭ごみの減量化に大きく貢献しており、奨励金は地域コミュニティの活性化に寄与していることから、引き続き啓発や周知を行うことにより、回収量の増加に向けた取組みを進めていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	行政回収よりも低コストで、団体は回収業者と自由に契約ができるため利便性が高く、奨励金は町内会等の貴重な活動資金となっていることから、地域コミュニティの活性化を図る上で、大きな役割を担っています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	循環社会推進課
課長名	敷田

事業名	地域特性型(メニュー選択方式)市民環境活動推進事業(剪定枝リサイクル事業)				施策番号	
					VI - 1 - (1) - ③	
事業概要	地域団体等の自主的な活動により回収される家庭から排出された剪定枝及び刈り草について、収集運搬作業及びリサイクル処理を側面的に支援することにより、循環型社会に向けたリサイクルの推進、ならびに地域団体等による自主的な環境活動の拡大及び地域コミュニティの活性化を図ります。				<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
	コスト	24年度執行額 9,862 千円	25年度当初予算額 10,119 千円	(事業費備考)	人件費 目金の金額 6,250 千円	課長 0.10 人 係長 0.10 人 職員 0.70 人 (人件費備考)

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	北九州市循環型社会形成推進基本計画に掲げている「市民等各団体が主体的・協動的に3R・適正処理に取り組むこと通じた持続可能な都市モデル」を目指すため、地域団体が自主的に環境活動を推進します。	成果実績	平成24年度は、地域団体において76回の剪定枝リサイクル活動を行っており、3R意識の醸成に繋がっています。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	剪定枝の回収及びリサイクル(単年度)	159.17 t	単年度の目標設定はありません	163.04 t	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	3Rの意識の醸成		3Rの意識醸成を図ります		やや遅れ	順調
	地域が自主的に取り組むリサイクル活動により、3Rの意識醸成を行い、市民による環境活動を推進します。 (最終目標と目標年度)				遅れ	

活動計画	家庭から排出された枝や刈草を民間の委託業者を活用し、回収、リサイクル処理を行います。また、剪定枝リサイクルを周知するため、広報活動やリサイクルツアーを行います。	活動実績	啓発・広報の実施回数を増やすことにより、広く事業の周知を図りました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	広報活動の実施	4 回	目標設定はありません	10 回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	出前講演やちらし等の配布による広報活動や市民参加型のリサイクルバスツアーを実施します。				順調	順調
					やや遅れ	
					遅れ	

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動は予定通り行い、実施団体が新規に4団体増加しました。また、地域団体が協力して回収を行うことで、地域コミュニティの活性化に繋がりました。剪定枝がリサイクルされることにより、ごみ焼却量の削減につながるとともに、循環型社会の推進に寄与していると考えます。
	【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	地域が自主的に取り組むリサイクル活動であり、市民環境力による3R活動を推進する上で必要と考えます。経費の主な用途は、剪定枝の回収と処理費用ですが、回収業務と処理業務を一括契約することにより、コスト削減に努めています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	循環社会推進課
課長名	敷田

<b>事業名</b>	地域特性型(メニュー選択方式)市民環境活動推進事業(廃食用油リサイクル事業)						施策番号 VI - 1 - (1) - ③	
<b>事業概要</b>	地域団体等の自主的な活動により回収される家庭から排出された廃食用油について、収集運搬作業及びリサイクル処理を側面的に支援することにより、循環型社会に向けたリサイクルの推進、ならびに地域団体等による自主的な環境活動の拡大及び地域コミュニティの活性化を図ります。						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( ) (人件費備考)	
<b>コスト</b>	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長	人	
	221 千円	345 千円			4,875 千円	係長 0.15 人 職員 0.45 人		

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	北九州市循環型社会形成推進基本計画に掲げている「市民等各団体が主体的・協動的に3R・適正処理に取り組むことに通じた持続可能な都市モデル」を目指すため、地域団体が自主的に行う環境活動を推進します。			<b>成果実績</b>	ごみの減量化・資源化に繋がっていますが、回収量が前年度に比べ減少していることから、さらなる3R意識の醸成を図る必要があります。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	廃食用油の回収及びリサイクル(単年度)	6,298 ℓ	単年度の目標設定はありません	6,152 ℓ	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	地域が市民センター等に設置した回収ボックスを活用し、回収された廃食用油は民間の委託業者によって、バイオディーゼル燃料(BDF)にリサイクルすることにより、家庭ごみ量の減量化を目指します。 (最終目標と目標年度) H32年度に家庭ごみ量の7%削減(対H21年度比)及びリサイクル率35%							
	3Rの意識の醸成	3Rの意識醸成を図ります	遅れ	やや遅れ				
地域が自主的に取り組むリサイクル活動により、3Rの意識醸成を行い、市民による環境活動を推進します。 (最終目標と目標年度)								

<b>活動計画</b>	家庭から排出された廃食用油を民間の委託業者を活用し、回収、リサイクル処理を行います。また、廃食用油リサイクルを周知するため、広報活動やリサイクルツアーを行います。			<b>活動実績</b>	啓発・広報の実施回数を増やすことにより、広く事業の周知を図りました。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】		
	広報活動の実施	4 回	目標設定はありません	10 回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	出前講演やちらし等の配布による広報活動や市民参加型のリサイクルバスツアーを実施します。							
		順調	やや遅れ					

## 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	地域が自主的に取り組むリサイクル活動により、コミュニティ活動の活性化が図られており、また、リサイクルされたものが、市民の身近な市のごみ収集車や市営バスの燃料等として利用されることで、循環型社会の構築に向けた市民啓発のための重要な取り組みの事例として有効ですが、廃食用油の回収量が少ないことから、より一層の広報活動が必要であると考えています。
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	現在は、回収拠点も少ないためルート回収などコスト削減の仕組みまでには至っていませんが、現在の拠点を中心にエリアを拡大し、ルート回収が出来るような対象地域を定めて広報活動を行う必要があると考えます。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	<b>課題</b>	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	循環社会推進課
課長名	敷田

事業名	地域特性型(メニュー選択方式)市民環境活動推進事業(生ごみ処理機設置助成事業)				施策番号 VI - 1 - (1) - ③	
	市民一人ひとりが取り組むことが出来る生ごみの減量化・資源化を目指し、各家庭における電気式生ごみ処理機を使用した生ごみリサイクル活動を推進するため、電気式生ごみ処理機の購入費用を一部助成します。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額		課長
	971 千円	642 千円			係長	0.05 人
				職員	0.10 人	(人件費備考)

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 電気式生ごみ処理機を使用した生ごみリサイクル活動を推進することにより、家庭ごみの約40%を占める生ごみの減量化・資源化の推進を図ります。	成果実績	多数の市民に対し助成を実施したことにより、3R意識の醸成に繋がっています。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
	生ごみの減量化	—	単年度の目標設定はありません	計画の中間目標年度(H27)に、達成率等を精査する予定	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	北九州市循環型社会形成推進基本計画において、家庭ごみ量における生ごみ(厨芥類)の8%削減(対H21年度比)を目指します。 (最終目標と目標年度)H32年度に家庭ごみ量における厨芥類(生ごみ)の8%削減(対H21年度比) (H21年度は、86.044トン)					
	生ごみ減量化を目指した3R意識の醸成		3Rの意識醸成を図ります		順調	
家庭から排出される生ごみの減量を目指し、家庭で出来る3R活動の普及・啓発を行います。						

活動計画	生ごみの資源化・減量化を推進するため、電気式生ごみ処理機の購入を助成します。				活動実績	活動実績は、下記のとおりです。
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	電気式生ごみ処理機の購入を助成台数	57 台	100 台	49 台	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	H24年度は、100台分の生ごみ処理機の購入助成を行います。			49.0 %		
						やや遅れ 遅れ
					順調	

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	節電の推進等外的要因により、助成金申請者数は49台でしたが、平成12年から累計4,700台の助成を行い、電気式生ごみ処理機の普及・啓発という点では一定の成果があったと考えています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	生ごみの減量化は、大規模堆肥化施設等による堆肥化やガス化等が考えられますが、生ごみの分別回収に関するコストや、施設の建設コスト等が発生します。それらと比較して、本事業は低いコストでより高い効果が得られると考えています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	循環社会推進課
課長名	敷田

事業名	地域特性型(メニュー選択方式)市民環境活動推進事業(生ごみリサイクル事業)				施策番号	
					VI - 1 - (1) - ③	
事業概要	市民一人ひとりが取り組むことが出来る生ごみの減量化・資源化を目指し、各家庭における生ごみコンポスト化容器を使用した生ごみリサイクル活動を推進するため、生ごみコンポスト化の基礎知識を学ぶとともに、コンポスト化容器活用のコツや問題発生時の対処方法等を習得する講座を実施します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	5,064 千円	5,980 千円		9,575 千円	(人件費備考)	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	生ごみコンポスト化容器を使用した生ごみリサイクル活動を推進することにより、家庭ごみの約40%を占める生ごみの減量化・資源化の推進を図ります。	成果実績	多数の市民に対し講座を実施したことにより、3R意識の醸成に繋がっています。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	生ごみの減量化	— %	単年度の目標設定はありません	計画の中間目標年度(H27)に、達成率等を精査する予定	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	北九州市循環型社会形成推進基本計画において、家庭ごみ量における生ごみ(厨芥類)の8%削減(対H21年度比)を目指します。					順調
	(最終目標と目標年度)H32年度に家庭ごみ量における厨芥類(生ごみ)の8%削減(対H21年度比) (H21年度は、86,044トン)					

活動計画	生ごみコンポスト化容器活用講座を年3回程度実施します。また、地域における生ごみのリサイクル活動を普及させるため、地域生ごみリサイクル講座を実施します。	活動実績	活動実績は、下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	生ごみコンポスト化容器活用講座等参加者数(延べ数)	834 名	870 名	872 名	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	生ごみコンポスト化容器の普及と活用を推進するため、生ごみコンポスト化容器活用講座(市主催講座)を実施します。			100.2 %		
	地域生ごみリサイクル講座実施地域数	14 地域	17 地域	16 地域	やや遅れ 遅れ	大変順調
生ごみコンポスト化容器の普及と活用を推進するため、地域生ごみリサイクル講座(地域主催講座)を実施します。	94.1 %					

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	個人や地域が自主的に取り組むリサイクル活動であり、かつ生ごみの減量化・資源化を促進する事業です。生ごみコンポスト化容器活用講座及び地域生ごみリサイクル講座の参加者の増加により、地域コミュニティの活性化や家庭ごみの減量化・資源化の市民の環境意識の醸成に繋がっています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	生ごみの減量化は、大規模堆肥化施設等による堆肥化やガス化等が考えられますが、生ごみの分別回収に関するコストや、施設の建設コスト等が発生します。それらと比較して、本事業は低いコストでより高い効果が得られると考えています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田

事業名	北九州エコライフステージ開催事業				施策番号	
					VI - 1 - (2) - ①	
事業概要	各地域が主体となって実施する「地域・テーマ別事業」、環境情報の交流の場・発信の場づくりを推進するポータルサイトの運営、その取組みの集大成として、市民・企業・NPO・行政等が集結し、日頃の環境活動やエコライフを発表・提案する環境イベントの開催等を行います。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	20,873 千円	19,485 千円		6,900 千円	(人件費備考)	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 市民一人ひとりが楽しみながら環境活動に参加し、様々なテーマで実践や交流を重ねるための情報交流の場・発信の場をつくることで、また新たな取組を産み出していく「市民環境力」の向上を目指します。	成果実績	地域での取組みをはじめ、民間団体の企画によるイベントの増加により、エコライフステージ参加者数は目標を大幅に上回る成果があげられました。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
	エコライフステージ参加者数(単年度)	73.9 万人	74.0 万人以上	142.4 万人	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	参加者数とは、各地域が主体となって実施される「地域・テーマ別事業」の参加者数と、シンボル事業「エコライフステージ」(市民・企業・NPO・行政等が集結し、日ごろの環境活動やエコライフを提案するイベント)の来場者数の合計数です。市民の環境活動への参加が市民の環境力につながると考え、設定しました。 (最終目標と目標年度)74万人以上(H28年度)			192.4 %		
	市民・企業・行政等の交流によるネットワーク構築と拡大	-	市民・企業・行政等の交流によるネットワーク構築と拡大を目指します。	-	やや遅れ 遅れ	大変順調
「市民環境力」を強化するための情報交流の場・発信の場づくりを推進します。具体的には、環境に配慮したイベント運営の実施、環境をテーマとしたポータルサイトの運営・効果的かつタイムリーな情報発信を行います。 (最終目標と目標年度)						

活動計画	環境情報・イベントをはじめ、活動団体等の取組み等の効果的かつ積極的な受発信などを通じ、地域や民間団体等が環境に対する意識を高めることにより、自ら企画・実施する環境活動の増加を目指します。また、事業実施にあたっては、行政コスト削減の観点から、協賛金収入増加に向けて取り組みます。	活動実績	各地域が主体となって実施する環境関連の取組数は年々増加傾向にあり、活動の広がりが見られます。			
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	エコライフステージ行事数	189 行事	190 行事	191 行事	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	行事数とは、各地域が主体となって実施される「地域・テーマ別事業」及びシンボル事業「エコライフステージ」(市民・企業・NPO・行政等が集結し、日ごろの環境活動やエコライフを提案する環境イベント)の行事合計数です。地域で行われている環境活動の行事数増加が市民の環境力につながると考え、設定しました。			100.5 %		
					やや遅れ 遅れ	順調

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	成果の状況・活動の状況ともに大変順調です。「シンボルイベント」は、同時開催イベントや周辺施設との連携により年々拡がりを見せてるとともに、「地域・テーマ別事業」も、本市が目指す民間団体の企画によるイベントの充実などにより、平成24年度の参加者数は過去最高を記録しました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	本事業は、主に市の負担金と協賛金で成り立っており、事業実施にあたって、毎年、市のコストを見直すとともに、協賛金等の収入の増加に努めます。今後もより一層、効率的・経済的な運営に努めます。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田

事業名	環境ミュージアム及び北九州エコハウス維持管理事業				施策番号	
					VI - 1 - (2) - ①	
事業概要	環境ミュージアム及びエコハウスは、北九州市全体の環境力を高めるための重要な施設です。地球温暖化や廃棄物問題などの環境問題の原因の多くは、市民一人ひとりの日常生活の積み重ねにあります。環境にやさしい持続的な社会を実現するためには、学校、企業、市民、市民団体、行政それぞれが主体となり、相互に連携して取り組む必要があります。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	74,476 千円	74,273 千円			5,475 千円	(人件費備考)

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市民や国内外の人々が、環境ミュージアムで開かれるイベントや、出張環境ミュージアムに参加し、気軽に「環境」について、見て・感じて・学べ、交流・協働できるようになることを目指します。				成果実績	昨年度よりも2万人以上多くの方に利用していただき、ミュージアムを拠点に多くの人が「環境」をキーワードに交流しました。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	環境ミュージアム利用者数(単年度)	104,973 人	152,000 人	128,464 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	環境教育・学習の中心的な役割を果たし、市内のみならず、国内外、さらに子どもから社会人、お年寄りまでの幅広い年齢層が集まる場であるため、指標としました。掲げた数値は、指定管理者の目標数値です。  (最終目標と目標年度)H25年度 157,000人			84.5 %			
	(最終目標と目標年度)					順調	

活動計画	IT技術を活用し、より楽しく、分かりやすい展示案内を目指します。また市内の豊富な環境素材を利用し「いつでも・だれでも・どこでも」環境について学ぶことができる中核施設としての役割を果たすべく、壁面緑化や風力発電機など低炭素社会の「見える化」「感じる化」を進め、イベントや出張環境ミュージアムを行うことで集客を図ります。	活動実績	イベント・企画展の内容を更新する等工夫し、開催数は目標を上回ることができました。また、「出張環境ミュージアム」では、サポーターが新しいアクティビティを追加する等メニューの更新も行っており、学校等で利用されています。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	イベントや企画展の開催件数	130 回	100 回	134 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	より多くの市民に来館していただき、市民・スタッフ・サポーターが対話を通して交流しながら、情報提供を行うという意味では、より多くの企画展やイベントを開催することが大切であると考え、開催数を指標としました。目標値である100回は、年間の土日の日数です。			134.0 %		
	スタッフ・環境学習サポーターの出張環境ミュージアム回数	123 回	100 回	117 回		順調
学校や市民センター、市の主催するイベント等、様々な場所へも出張し、数々のエコ工作や環境実験などのアクティビティを参加者とともに行うことで、市民に対し、学習機会を提供できると考えました。目標値である100回は、年間の土日の日数です。	117.0 %					

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	利用者数は目標に達することはできませんでしたが、前年度と比べ2万人以上増加することができました。展示内容のリニューアル効果もあり、体験を通して環境についての理解を更に深めることができたと考えています。スタッフが独自に展開する企画展やイベント等も交流や情報発信という意味では効果的であったと考えます。出張環境ミュージアムなど館外での活動を増やすことで、広報活動も同時にでき、集客も見込めるのではないかと考えます。  環境学習を中心とする本館では、日ごろから廃材の再利用に力を入れています。企画展やイベント等でも裏紙や廃材を使い、手作りによる資料や材料を準備しています。環境学習サポーターによるエコ工作なども同じことが言えます。今後も節電など環境に配慮した方法で活動を行っていきます。又、指定管理者制度を既に導入し、経済性、効率性にも最大限取り組んでいます。
-----------	---	---

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田

事業名	ESD推進事業				施策番号	
					VI - 1 - (2) - ②	
事業概要	持続可能な社会の構築を図るため、国連など世界規模で進められている「持続可能な開発のための教育(ESD)」を、北九州ESD協議会を中心に、市民、企業、大学等と連携しながら推進します。具体的には、あらゆる人々が地域等における様々な課題に気付き、つながり、既実践している活動等にESDの視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていく人づくり・学びあいの場づくりを進めます。				事業手法 ( ) (人件費備考)	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額 14,477 千円	25年度当初予算額 15,300 千円	(事業費備考)	人件費		目安の金額 13,950 千円

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 「世界の環境首都」の実現を目指し、その基盤となる「持続可能な社会づくり」を担う、ESDの視点をもった人づくりに取り組みます。また、それらの活動や本市のこれまでの取り組みを国内外に向けて広く情報発信し、世界的な環境教育・開発教育の拠点を目指します。	成果実績	抽象的であるESDの概念を分かりやすく普及するため、広報誌や市政テレビなどによる紹介などを通じ、認知度は昨年度から若干の伸びが見られました。また、市内10大学の連携により、平成25年3月小倉の中心市街地に「まなびとESDステーション」が開設されたことなどからも、今後認知度をはじめ、活動の活発化が期待されます。
----	--	------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標		→	【成果の状況】
	市民のESD活動の認識の向上と活動の普及	ESDとは、あらゆる人々が地域等の様々な課題とそのつながりに気付き、地域で既実践している活動等に、持続可能性という視点を加えて、暮らしや社会のあり方等を変えていくための学びあいの場、人づくりの場のことです。本市が目指す環境未来都市及び世界の環境首都を実現するためには、このESDの視点が不可欠です。一方で、ESD活動は多種多様にわたっていることから、活動数を把握し、数値で表すことは困難です。 (最終目標と目標年度)	-	認識の向上と活動の普及	-	大変順調
アンケート調査におけるESD認知度	活動を推進する上で、まずはESDについての認知度を高めるための取組みが重要であり、認知度の把握は不可欠であることから、「アンケート調査」内のESDについての認知度を指標として設定しました。 (最終目標と目標年度)(20% H26年度)	4.1 %	6.0 %	4.5 %	やや遅れ 遅れ	順調
				75.0 %		

活動計画	2014年に、日本で開催予定の「ESDの10年・最終年会合」に向けて、ESD活動の推進拠点であるRCE地域の一つとして、活動を一層活性化させるため、これまでの取組みに加え、 ○地域におけるESD普及の鍵となる「ESDコーディネーター」の育成 ○国内外のRCEとのネットワーク強化も目指した最終年会合を盛り上げるイベントの開催 などをを行います。	活動実績	地域活動の核となる市民センター館長や社会教育主事などを対象に、ESDコーディネーター研修を実施し、当初の見込みを上回る46名の参加がありました。また、2013年のアジア太平洋RCE地域会議の本市での開催が決定しました。
------	--	------	---

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	活動団体登録数	本市のESD活動の中心となっているESD協議会への登録団体数を、活動の指標として設定しました。目標については、環境モデル都市地域推進協議会メンバー(約380団体)の2割程度の数字としています。	72 団体	74 団体	74 団体 100.0 %	大変順調 順調
					やや遅れ 遅れ	順調

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	ESDの認知度については、ESDの概念が抽象的で分かりにくいことなどから、アンケート調査における認知度が目標に達していません。一方で、市内10大学連携により平成25年3月にオープンした「まなびとESDステーション」における地域と協働の学生の取り組みをはじめ、ESD活動の普及を担うつなぎ役・まとめ役たる「ESDコーディネーター」の育成を通じ、今後ESDの認知度向上をはじめ、活動の活発化が期待されます。また、2013年のアジア太平洋RCE地域会議の開催を通じ、世界に本市の取組みを発信するとともに、これまでESDを認知していなかった市民が新たに認識し、活動に参加できるよう取組みを進めます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	地域におけるESD普及の鍵となる「ESDコーディネーター」の育成については、市民活動団体の発想や専門性等を活かした提案を、市と協働で実施する「市民活動団体等による環境未来都市推進支援事業」で行うことにより、相互の利点を活かした効果的な取組みとなりました。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境学習課
課長名	東田

事業名	北九州市環境首都検定			施策番号	
				VI - 1 - (2) - ②	
事業概要	北九州市の「美しき世界の環境首都」への取組を実現するために、市民の“環境力”を高めるきっかけづくりを行うものです。ジュニア編(主に小学生対象)は25問、一般編は40問、上級編は50問あり、70点以上を合格としています。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	
	7,407 千円	8,410 千円		6,600 千円	課長 0.15 人 係長 0.15 人 職員 0.25 人 (人件費備考)

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	検定の実施により、市民の環境についての学習機会を増やし、環境意識のレベルアップや環境に関心を持つ市民の裾野を広げます。市民をはじめ、人々が北九州市の環境について精通するようにします。	成果実績	目標を上回る受検者数を達成、環境人材の育成に寄与できました。また、今回より上級編を新設し環境人材のスキルアップの仕組みを進めることができました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	北九州市環境首都検定の受検者数(単年度) 北九州市環境首都検定の受検者数を増加させ、環境について自己啓発に励む市民の創出を目指します。 単年度受検者数における達成目標[目標]H25年度: 3,000人(H24: 2,000人)[実績(達成率)]2,024人(101.2%) [目標]H20~H25年度累計: 9,000人[実績(達成率)]H20~H23年度累計: 6,249人(69%) H28年度 5,000人	1,879 人	2,000 人	2,024 人 101.2 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック  <b>順調</b>
	(最終目標と目標年度)					

活動計画	目標の達成と、検定制度の定着化に向けて、平成24年度も検定PRに力を入れます。また、前回受検者へのDMや企業・大学・教育委員会を通じた受検呼びかけなど、効果的なPRを実施します。	活動実績	効果的な団体等への呼びかけにより、団体受検の増加につながりました。また、学校で受検できる「学校受検制度」を新設できたことは、今後に繋がる大きな成果でした。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	受検啓発の実施 北九州市環境首都検定の受検者数を増加させ、環境について自己啓発に励む市民の創出を目指します。市民力レッジでは「環境首都検定合格応援講座」を実施し講義形式で検定対策を行い、エコライフステージでは検定のPR活動を行います。	4 日	5 日	4 日 80.0 %	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	団体受検増加への取り組み 学校や企業、市民団体等、グループで受検することで、受検者増を促進します。	105 団体	90 団体	92 団体 102.2 %	やや遅れ 遅れ	<b>順調</b>

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	受検者数の増加 → 検定受検者数は2,024人(ジュニア編は594人、一般編は1,296人、上級編は424人、内ダブル290人)と前年度に比べて大きく増加しました。学校や会社、家族などグループでの参加もあり、受検者は子どもから年長者まであらゆる年齢層にわたりました。受検者増加の最も大きな要因は、小学校を会場として受検できる「学校受検制度」の新設です。これによりジュニア編の受検者数が昨年度(86人)に比べ594人と大幅に増えました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	本検定制度が好調な成果をあげているのは受検料が無料によるところが大きいと考えられます。しかしながら、今後は、受検者数の増加に伴うコスト増など課題も出てくると考えられます。民間を活用した効率的な運営方法などを検討していきたいと思ひます。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

		担当局	環境局	
		担当課	環境学習課	
		課長名	東田	
事業名	こども環境学習推進事業			
	施策番号 VI - 1 - (2) - ②			
事業概要	次世代を担うこどもたちに環境学習や環境保全活動を行える機会を提供することにより、環境に対する理解や関心を深めます。			
コスト	事業費	24年度執行額 6,425 千円	25年度当初予算額 4,784 千円	(事業費備考)
	人件費	目安の金額 5,600 千円	課長 0.15 人 係長 0.25 人 職員 0.20 人	(人件費備考)
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他			

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 本市の未来を担う子どもたちを対象に環境教育副読本及び環境教育ワークブック「みどりのノート」を作成、配布することで、環境学習を体系的、計画的に実施し、環境意識の高い児童、生徒の育成を目指します。また、こどもエコクラブへの登録呼びかけや啓発授業の実施等を行い、環境学習の機会を提供します。	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)					
	こどもエコクラブ登録団体数 3才から高校生までの子どもたちが、地域の中での主体的な環境学習や実践活動を通じて、将来にわたり環境を大切にすることを意識を持ち、環境にやさしい暮らし方を実践することを目的としたこどもエコクラブに登録し、活動を展開している団体数を指標としました。目標値は福岡県における登録団体(おおよそ100団体)の4割を設定しました。 (最終目標と目標年度)40団体(H28年度)	36 団体	40 団体	20 団体 50.0 %	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
児童・生徒の環境意識の向上 環境ミュージアムに来館する児童・生徒からのお礼の作文や引率教員のアンケート結果などから、児童・生徒の環境意識の向上を確認しています。又、民間団体が毎年主催している児童・生徒対象の「環境作文」からも確認を行っています。 (最終目標と目標年度)	—	今後も継続して環境学習に取り組んだり、さらに活動の視野を広げたりしようとするなどの、環境意識の向上	—	やや遅れ 遅れ	やや遅れ	

活動計画	・こどもエコクラブの推進 ・環境教育ワークブック「みどりのノート」の配布 ・環境カードゲームの作成、配布	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)					
	こどもエコクラブのイベント・広報活動数 すでに活動している子どもたちへの交流・学習機会を提供すべく、イベントを開催し、こどもエコクラブの意義を多くの市民に周知するため、チラシを配ったり、環境カードゲームを活用した広報活動を展開した回数を指標とします。目標数は2か月に1回の割合で行うことを目標とするため6回に設定しています。	7 回	6 回	5 回 83.3 %	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
					やや遅れ 遅れ	やや遅れ

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>	<p>イベントや広報活動は、年間を通して開催しましたが、成果である「こどもエコクラブの登録数」は減少してしまったため「やや遅れ」としました。更新の手続きがなされずに登録外となった団体もあるかと思いますが、イベント等でのPR方法をもう少し工夫すべきではなかったかと思えます。この点を踏まえ、次年度は、PR方法を工夫して、加入促進を図りたいと考えています。環境カードゲームは、環境イベント等で活用し、たくさんの子どもたちが体験、楽しく環境を学ぶことができました。知名度も上がっており、こどもエコクラブのPRツールとしても更に活用していきます。</p> <p>「こどもエコクラブ」は「日本環境協会」が中心となって活動しています。本市は地方事務局として活動しているため事務的な処理は少なく、活動自体もクラブ主体で行うなど効率的に動いています。市としては、夏の交流会や壁新聞教室等を開催したり、エコクラブ便りを作成したり、低コストでお互いの交流が図れており、現状のままの取組でよいと考えます。</p>
-----------	--	---

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	総務課
課長名	渡部

事業名	環境未来都市広報事業			施策番号		
				VI - 1 - (2) - ③		
事業概要	環境未来都市の認知度の向上及び環境広報の強化のため、環境マスコットキャラクター「ていたん」を活用した広報や、イベント等でのPRを継続して行います。					
コスト	事業費	24年度執行額	25年度当初予算額	人件費	目安の金額	課長 0.30 人
		16,878 千円	3,585 千円			8,700 千円
				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
				(人件費備考)		

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	環境マスコットキャラクターを環境広報・PRに活用することによって、「環境未来都市」の認知度の向上を図るとともに、市民の環境意識をさらに高めることを目指します。	成果実績	環境マスコットキャラクターの活動を通じ、若年層や主婦層へのアプローチもでき、「環境未来都市」を知ってもらいきっかけとなりました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	アンケート調査における環境未来都市選定の認知度	-	単年度目標設定なし	74.1 %	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	環境マスコットキャラクターを活用した「環境未来都市」の認知度向上に取り組んでいます。アンケート調査における環境未来都市の認知度を指標に設定し、その向上を図ります。北九州市環境未来都市計画の5年間に実施する取組みの最後となる平成28年度に80%以上を目指します。 (最終目標と目標年度) 80%以上(H28年度)					
					やや遅れ	順調
(最終目標と目標年度)				遅れ		

活動計画	環境マスコットキャラクターの環境関連イベントへの出演や、啓発グッズの制作・配布を通じて、市民の目に触れる機会を増やします。	活動実績	下記の活動のほかに、「ゆるキャラグランプリ」へのエントリーを行い、市内外問わず環境マスコットキャラクターを認知してもらうことができました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	環境マスコットキャラクターイベント参加回数	68 回	144 回	195 回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	環境関連のイベントへの出演日数や、その他イベントでのブースの出展等の参加日数を増やし、環境マスコットキャラクターと併せて本市環境施策の認知度の向上を図ります。					
	環境マスコットキャラクター使用承認申請数	28 件	36 件	45 件	やや遅れ	順調
行政機関以外が環境マスコットキャラクターを使用する機会を増やすことで、市民の目に触れる機会を増やします。						
				125.0 %		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	成果の状況について、アンケート調査で環境未来都市に選定されたことを知っている割合が74.1%ということで、多くの市民に認知されてきているため、順調としました。活動の状況については、「ていたん」が市の代表的なマスコットキャラクターとして定着しつつあり、イベントへの参加件数も増えているため、順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	イベントへの参加は主に業者委託を行っております。市民の認知度のさらなる向上に向けて、イベントの開催やPRノウハウを有する業者への委託は、経済性、効率性において有効であると考えます。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	梶原

事業名	自然・生き物情報整備事業				施策番号		
					VI - 1 - (2) - ③		
事業概要	北九州市の自然環境をいくつかの角度から現地調査を行い、自然環境情報の充実を図り、後世にも多くの恵みをもたらす自然環境の維持に努めていきます。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		人件費	目安の金額
	2,362 千円	1,900 千円			1,365 千円	(人件費備考)	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	都市と自然が共生したまちを目指すとともに、北九州市の多様な自然の保全に努めます。			成果実績	調査を行い、現状の把握ができました。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	北九州市の環境保全		都市と自然が共生したまち、多様な自然の保全	—	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	都市と自然が共生したまちを目指すとともに、北九州市の多様な自然の保全に努めます。 (環境保全が目的のため、数値で示すことが困難) (最終目標と目標年度)						やや遅れ 遅れ
	(最終目標と目標年度)						

活動計画	カブトガニ等希少な動植物が生息し、市民の関心の高い曾根干潟の継続調査に取り組むため生物(鳥類、目視など)調査を行います。また、調査を行っている市民団体などから情報収集を行います。	活動実績	曾根干潟の自然環境を保全していくための生物調査、環境調査により、データを着実に積み上げました。				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	曾根干潟における環境調査		4 回	6 回	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	特に曾根干潟の目視調査や鳥類調査など環境調査を継続することにより、現状を把握しながら保全に努めます。	7 回		150.0 %			やや遅れ 遅れ

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	曾根干潟の生き物調査の結果、環境の大きな変化はありませんでした。継続して調査を行うことで、データを蓄積し、今後の保全活動に役立てていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	市民団体などが行っている調査については、情報収集を行い、調査の重複を避けました。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	山本

事業名	電気自動車等導入及び充電インフラ整備助成事業				施策番号	
					VI - 2 - (1) - ②	
事業概要	環境に優しい電気自動車やプラグインハイブリッド自動車の普及のため、市民や事業者の車両導入経費並びに充電設備工事費の一部を助成します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	13,217 千円	5,000 千円			8,900 千円	(人件費備考)

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	電気自動車等の普及を推進するため、市内事業者を対象に購入費の助成をします。また、電気自動車等の普及に必要な充電インフラ設備の一部を助成をします。			成果実績	市内電気自動車等普及台数【324台】 電気自動車等への転換によるCO2削減量【599t】	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	市内における電気自動車等の普及台数(累計)			324 台	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市内の電気自動車等の普及台数及び普及に必要な充電インフラの設置箇所数 (最終目標と目標年度)H28年度までに市内で6,000台	80 台	130 台	249.2 %			
	電気自動車へ転換した場合のCO2削減量(累計)			599 t	やや遅れ 遅れ	順調	
324台(平成25年3月末の電気自動車等普及台数)×1.85t(ガソリン車から電気自動車へ転換した場合のCO2排出係数) (最終目標と目標年度)H28年度までに11,100t削減	148 t	241 t	248.5 %				

活動計画	電気自動車1台あたり、車両本体価格の8%(上限25万円)の助成を行いました。また充電インフラ工事費の2分の1(上限:急速充電器:100万円、倍速充電器20万円)の助成を行いました。	活動実績	成果の状況は以下の通りです。				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	電気自動車等の助成件数			53 台	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	市内事業者に対する電気自動車等の購入助成を行います。	20 台	50 台	106.0 %			
	充電インフラ整備助成件数			倍速3 基	やや遅れ 遅れ	順調	
市内事業者に対する充電インフラ工事費等の助成を行います。	急速3 基	急速2 倍速5 基	- %				

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	電気自動車等の助成については、応募開始から2ヶ月ほどで目標台数に達し、自動車販売店への聞き取りでも、本事業が普及に對して一定の効果があつたと理解できます。一方、充電インフラ整備助成については、倍速充電器の申請があつたものの、急速充電器の申請はなく、電気自動車の普及がなかなか進まない中での設置者のメリットが、不明確であることの影響が大きいと言えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	電気自動車等の助成については、依然として車両自体が高額であることに加えて、走行可能距離がガソリン車と比較して圧倒的に短いこともあり、助成金額を下げることに對しては、普及を目指す上では、慎重に検討する必要があります。充電インフラに関しては、設置者の費用回収のシステムが確立しておらず、積極的な設置を見込むことが難しいため、引き続き助成制度を継続する必要があると言えます。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	梶原

事業名	市民植樹・美しいまちづくり事業				施策番号	
					VI - 2 - (1) - ③	
事業概要	希望する市民に対し、人生の記念日に苗木を配布し、樹木を育てることを感じてもらいます。また、記念樹植樹をきっかけに各家庭の緑を増やすことで、世界の環境首都にふさわしい都市と自然が共生したうおいのある美しいまちを創ります。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
						( )
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.00 人
	9,906 千円	4,500 千円			2,000 千円	係長 0.05 人 職員 0.20 人

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	希望する市民に対し、人生の記念日に苗木を配布し、樹木を育てることを感じてもらいます。また、記念樹植樹をきっかけに各家庭の緑を増やすことで、世界の環境首都にふさわしい都市と自然が共生したうおいのある美しいまちを創ります。	成果実績	記念樹という身近な切り口により、緑に関心のある人の底上げを図ることができました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	環境首都100万本植樹プロジェクト促進(累計植樹本数)	352,916 本	335,000 本	418,640 本	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民をはじめ、企業やNPO、行政などさまざまな主体が市内各地に植樹活動を行い、緑化を促進することで都市と自然が共生するまちを創ります。(指標は累計で示す)			125.0 %		
	(最終目標と目標年度)100万本植樹、H35年度(累計)					順調

活動計画	記念樹の配付を行うことで、本事業の目的を広くPRし、多くの市民に緑を育てる喜びを伝えます。また、市民をはじめ企業やNPO、行政などさまざまな主体に「環境首都100万本植樹プロジェクト」をPRし、多くの主体による植樹活動を推進します。	活動実績	記念樹の配付を行うことで「環境首都100万本植樹プロジェクト」を広くPRすることができました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	わたし記念日～記念樹における苗木の配布数	4,959 本	5,000 本	4,862 本	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	記念樹配布を希望した市民に対して、年間5,000本を配布し、家庭から緑を増やしていく、市民の手による植樹を推進します。(日々の活動が成果へとつながるため、単年度の配布数を活動指標としました)			97.2 %		
						順調

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	記念樹プレゼントという個人に関わる切り口によって、記念樹を植え、緑を増やすことができました。また、緑化は短期間でできるものではなく、緑化(環境)意識もまた短期間で向上しないため、常に啓発する必要があります。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	企業やNPOなどにも、PRをお願い幅広く広報できるようにしています。また、記念日に関わる写真館などにもポスター掲示します。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	平石

事業名	次世代エネルギーパーク構想推進事業			施策番号	
				VI - 2 - (2) - ①	
事業概要	次世代エネルギーパークとは、新エネルギーに対する国民理解の増進を図ることを目的に経済産業省が提唱したもので、本市を含む48か所が認定されています。本市は、石炭・石油・天然ガスといった化石エネルギーから、太陽光・風力の自然エネルギーやバイオマスエネルギーまで、全国有数の多様なエネルギー関連施設が立地している若松区響灘地区において、「北九州次世代エネルギーパーク」を展開し、市民が次世代エネルギーに触れられる環境を提供するとともに、ビジターズインダストリーとしても活用するものです。				
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)平成25年度からは、省エネ・新エネ推進事業の予算額の一部と重点雇用による予算で、事業を進めます。	目安の金額	課長 0.10 人 係長 0.25 人 職員 0.30 人
	26,936 千円	200 千円		5,900 千円	(人件費備考)
事業費	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他				

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	風力発電や太陽光発電といった、全国有数の多様なエネルギー関連施設が立地している若松区響灘地区において、市民が次世代エネルギーに触れられる環境を構築するとともに、ビジターズインダストリーとしても活用します。また、産業地区として低炭素社会のあり方を示すモデルとなることや、エネルギー関連企業誘致などにつなげることを示します。	成果実績	次世代エネルギーパークの運営やイベント開催により、エネルギーに関する普及啓発やビジターズインダストリーへと貢献しています。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	北九州エコタウン・エネルギーパーク見学者数(単年度)	100,576 人	100,000 人	103,867 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	北九州若松区における環境学習の場をエコタウンと次世代エネルギーパークを一体的に評価するため合計見学者数を指標とします。 (最終目標と目標年度)100,000(H25年度)			103.9 %		
	(最終目標と目標年度)					順調

活動計画	関係企業連絡会を開催します。 パーク運営、イベント実施を行います。	活動実績	夏休み特別イベント(5回)と、春休み特別イベント(1回)を実施しました。また、経済産業省主催の観光とエネルギー学習を合わせたモニターツアーの実施や、展示ルームの改修完了に合わせた、リニューアルオープン記念ツアーを実施しました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	→	【活動の状況】	
	PRイベント等の実施件数	9 件	10 件	20 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	次世代エネルギーパーク関連施設について、見学者増加を目指し、PRを行います。PRイベントや、出前講演、広報物作成等のPRを行った件数を指標とします。			200.0 %		
						大変順調

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	エコタウンセンターの見学者総数は、平成23年度で100,576人、平成24年度で103,867人と若干増加し、年度毎の総延数は、3年連続で10万人を越えており、大変順調です。また、次世代エネルギーパークの総延数は、平成23年度は見学者数は19,128人、平成24年度19,232人と若干増加しました。また、平成24年度末に、展示ルームを改修し、今後も次世代エネルギーパークの運営やPRを続け、エネルギーに関する普及啓発や、ビジターズインダストリーへと活用していく予定です。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	平成24年度は、見学対応業務に関しては、業務委託により民間活力を導入しています。平成25年度は、イベント等や、物品購入などの運営業務の一部を見学対応業務とともに業務委託する予定であり、コスト削減とともに効率良く事業を進めていきます。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)



# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	山本

事業名	環境未来技術開発助成事業				施策番号	
					VI - 2 - (2) - ②	
事業概要	循環型経済社会及び低炭素社会の実現に向け、市内における先進的かつ実現性の高い環境技術の研究を支援することにより、環境産業の振興を図り、我が国ひいては世界的な環境分野の課題の解決に先導的役割を果たすことを目指します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考) 25年度当初予算額のうち、20,000千円はチャレンジ枠(次世代資源循環型産業拠点形成推進事業)分		目安の金額
	73,286 千円	73,818 千円		6,075 千円		(人件費備考)

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	新規性、独自性に優れ、かつ実現性の高い環境技術の実証研究等に対して、その研究開発費を助成することにより、市内中小企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の集積を図ります。	成果実績	23年度末までの事業化数: 14件 ※24年度末の事業化数については現時点では集計不可		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	本助成事業で助成した研究開発の事業化数(累計)	14 件	15 件	現時点では集計不可	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	本事業は、事業化を目指した実証研究等に対する助成であるため、「事業化数」を成果指標に設定します。 (最終目標と目標年度) 16件(H25年度末)			-		
	(最終目標と目標年度)				やや遅れ 遅れ	順調
			-			

活動計画	平成24年度も、市内中小企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の集積を図るため、本助成制度を引き続き実施します。	活動実績	24年度の採択数: 12件 (うち新規: 6件、継続: 6件) ※15年度から24年度までののべ採択件数: 162件			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	本助成事業の採択件数(単年度)	17 件	12 件	12 件	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	上記活動計画の目安とするため、本助成事業の採択件数を活動指標として設定します。			100.0 %		
					やや遅れ 遅れ	順調
			-			

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	成果の状況、活動の状況とも目標を達成していることから、いずれも「順調」としました。 当事業を進めることで、市内中小企業等に技術開発の機会を提供することができ、地域産業の活性化につながっていると考えています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	上記のとおり、事業化数は目標どおり年々増加し、市内環境産業の振興・集積につながっていることから、「順調」としました。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	梶原

事業名	ノーマイカー普及戦略事業				施策番号	
					VI - 2 - (3) - ①	
事業概要	過度なマイカー利用を抑制し、環境にやさしい公共交通機関を積極的な利用を促進します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
						( )
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人
	3,597 千円	500 千円			465 千円	係長 0.20 人 職員 0.20 人

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	過度なマイカー利用を抑制し、環境にやさしい公共交通機関を積極的な利用を促進し、自動車から排出されるCO2を削減します。				成果実績	成果の状況は以下の通りです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	ノーマイカーデー参加者の数(単年度)			75 社	大変順調			
	マイカー通勤者を主な対象として、参加企業数及び参加者の増加を図ります。 (最終目標と目標年度)	74 社	74 社	101.4 %	順調			
	ノーマイカーデー実施によるCO2削減量(単年度)			120 t	やや遅れ			
マイカー利用から公共交通機関を利用したことによるCO2の削減量 (最終目標と目標年度)	71 t	71 t	169.0 %	遅れ	【成果の状況】	順調		

活動計画	H23年度の10月から毎週水曜日をノーマイカーデーとしており、市内企業及び市民に広く参加を呼びかけます。特に10月・11月の推進月間には市内飲食店で割引などの特典が受けられるなど楽しみながら取り組む仕組みとします。				活動実績	H24年度は回覧板へのチラシの折り込みやドライバーにPRするため主要道路の歩道橋に横断幕を設置など新たなPRを行いました。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	市内企業や飲食店、交通事業者などへの協力依頼	市内企業への参加依頼	効果的なPR	様々な媒体を利用した効果的なPRを行った	大変順調			
	ノーマイカーデー参加者を募るために市内企業への参加依頼や、JRやモレール、バスなどの駅や駅周辺でのチラシ・ポスターの掲示やのぼり旗の掲示など幅広く普及啓発を行います。				順調			
					やや遅れ			
				遅れ	【活動の状況】	順調		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	上記のPRに加え、更なる普及啓発策として、H24年度は回覧板へのチラシの折り込みやドライバーにPRするため主要道路の歩道橋に横断幕を設置など新たなPRを行いました。その結果、CO2の削減量は増加しており、活動の状況は「順調」といえます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	H24年度は、PRの手段としていろいろな方法を施行してみました。今後は、どの手法がよいか内容を精査しコストがかからずPRできる方法を継続していきます。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	梶原

事業名	エコドライブ推進事業				施策番号	
					VI - 2 - (3) - ①	
事業概要	自動車から排出されるCO2削減のため、企業内でのエコドライブ活動を支援するとともに市民へのエコドライブの普及啓発を図ります。					事業手法
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10 人	(人件費備考)
	5,024 千円	765 千円		8,900 千円	係長 0.50 人 職員 0.40 人	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	自動車から排出されるCO2の削減			成果実績	成果の状況は以下の通りです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	エコドラ北九州プロジェクト参加事業者のCO2削減量(単年度)			216 t			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	参加事業者のCO2の削減量 (最終目標と目標年度)	196 t	196 t	110.2 %	順調		

活動計画	市内事業者へのエコドライブ活動の普及のため、「エコドラ北九州プロジェクト」を実施し、エコドライブ活動の支援を行います。優良活動企業には市からの認定や表彰を実施します。また市民向けに「エコドラ燃費グランプリ」や出前講演、アイドリングストップ運動を行います。				活動実績	成果の状況は以下の通りです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	エコドラ北九州プロジェクト参加事業者数			40 社			大変順調 順調
	エコドライブ活動に取り組む市内事業者数	36 社	36 社	111.1 %	やや遅れ 遅れ	順調	
	市民向けのエコドライブの普及啓発(各活動の参加者の合計)			980 人			
アイドリングストップ運動への参加者数、個人向け燃費グランプリ参加者数、出前講演の受講者数	532 人	-	- %				

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	エコドラ北九州プロジェクトの参加事業者が増加しCO2削減効果も向上しました。また表彰を実施することで事業者の意欲が高まりました。今年度から県警主催の「安全運転管理者講習会」での講演やエコアクション21取得予定事業者や取得事業者向け講習会での講演を行い、活動参加事業者の拡大を図りました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	H19年度から5カ年計画で構築したモデル普及のため、必要最小限の経費でセミナー等を実施し普及啓発を行いました。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	山本

事業名	中小企業省エネ設備導入促進事業				施策番号	
					VI - 2 - (3) - ①	
事業概要	工場や事業所における一層の省エネルギー対策を推進するため、省エネ設備や新エネ設備を設置する市内の中小企業等に対し、設置費用の一部を補助する事業を実施しています。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	200,356 千円	150,000 千円			4,825 千円	(人件費備考)

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	エネルギー消費の削減及び新エネルギーの普及拡大に必要な省エネルギー型設備及び新エネルギーを利用した発電設備を設置する市内の中小企業等に対し、導入経費の一部を補助し、低炭素社会づくりを推進します。また、市内における投資を促進し、地域産業の活性化を図ります。	成果実績	事業実施前(H23)と実施後(H25)を比較し、効果検証を行います。市内中小企業の補助金へのニーズが非常に高いので、今後省エネ効果が見込まれます。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	省エネルギー効果	195,912 kWh	600,000 kWh	現時点では集計不可 (H26.5末に集計)	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	省エネルギー型設備及び新エネルギーを利用した発電設備の導入による省エネルギー効果を成果指標としました。補助事業者の平成23年度と平成25年度の使用電力量から省エネ効果を算出します。 (最終目標と目標年度)			- %		
(最終目標と目標年度)					遅れ	大変順調

活動計画	省エネルギー型設備(高効率空調、高効率照明、高効率ボイラー、節水型便器等)、新エネルギー(太陽光発電、小型風力発電等)を利用した発電設備を複合的に導入する市内の中小企業等に対し、補助対象経費の3分の1以内、1件あたりの限度額300万円で助成を行います。 24年度の目標について、当初60件としていましたが、9月に補正予算を計上する際に120件に修正しました。	活動実績	200件の補助金申請に対し、126件の交付決定を行いました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	補助金交付件数	41 件	120 件	126 件	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	省エネ設備及び新エネ設備の導入により低炭素社会づくり及び地域産業の活性化を目指します。			105.0 %		
					遅れ	大変順調

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	成果や活動は予定どおり目標を達成しました。 当初予算額9,000千円に対し、予算をはるかに上回る184,910千円の応募があり、9月に補正予算を計上するなど、事業者の省エネ・節電への取り組みの意識は非常に高くなりました。 今後は、事業者の多様なニーズをいかに取り込み、投資効果を高めることが課題であると考えています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	目標を上回る件数の応募があり、市内の低炭素型社会づくり及び地域産業の活性化につながっていると考えています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	平石

事業名	グリーン電力普及拡大事業			施策番号	
				VI - 2 - (3) - ①	
事業概要	太陽光などの自然エネルギーから生まれた電力(グリーン電力)は、CO2を排出しないため、環境負荷を与えないという「環境価値」をもつ電力です。本事業では、第三者機関(グリーンエネルギー認証センター)によって認証された、本市の「環境価値」を、「グリーン電力証書」として発行し、証書の売買によって「環境価値」を取引するものです。グリーン電力証書の販売収益は、本市の環境事業等に活用されます。				事業手法
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)平成25年度からは、省エネ・新エネ推進事業の予算額の一部が、グリーン電力普及拡大事業を進める予算額となっている。	目安の金額	課長 0.10人 係長 0.15人 職員 0.20人
	890 千円	455 千円		4,150 千円	(人件費備考)

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	グリーン電力証書をイベントや商品開発に利用することで、環境配慮したエコ商品やエコイベントを、誰でも容易に行うことができます。グリーン電力証書をツールとして普及させ、市内で環境配慮型イベントやエコ商品を増やすことが、本事業の目的です。			成果実績	グリーン電力証書の販売により、環境配慮したイベント等を容易に実施することができるようになりました。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	市内環境配慮型イベントで活用されたグリーン電力(グリーン電力証書発行実績・累計)	92,904 kWh	293,172 kWh	133,236 kWh		
	イベント等が実施される際に、実施団体からグリーン電力証書を購入してもらい、購入量(kWh)を指標とします。目標値は、H22、H23年の北九州市立自然史・歴史博物館太陽光発電所における認証量の平均値の累積年数分(基準年平均値97,724; 97,724kWh × 3 = 293,172kWh)とします。 (最終目標と目標年度)H26年度までに488,620kWhを販売			45.4 %	やや遅れ 遅れ	順調
	グリーン電力証書販売件数	17 件	26 件	28 件		

活動計画	グリーン電力の認証と販売を行います。また、グリーン電力証書の周知を図るため、ホームページやイベントのチラシ等を利用し、PRを行います。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	グリーン電力証書のPR			①ちらし改訂②ノベルティ考案・イベントでの活用以上を実施		
	市内でイベント等が実施される際に、実施団体に対してグリーン電力証書を購入してもらうようPRを実施します。証書を活用したノベルティの提案や、ノベルティのイベントでの活用により、認知度向上を目指したPR活動を実施します。				40,332 kWh	やや遅れ 遅れ
グリーン電力証書発行実績	53,532 kWh	97,724 kWh	41.3 %			

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	成果指標について、市内で実施された全てのイベントや商品開発におけるグリーン電力使用量を把握することは困難であるため、北九州市が発行したグリーン電力証書発行量を評価基準としています。他事業者から購入したグリーン電力証書販売量は、平成23年度に比べ、平成24年度は減少したものの、販売件数は増加しました。この理由として、購入側の予算状況や、一件当たりのイベントで必要とする環境価値量が少ないことにより、前年度に比べ、一件あたりの購入電力量が減っていることがあげられ、イルミネーション等でLEDが使用されるなど、設備の省エネ化が図られていることなどが考えられます。一方で、ちらしの更新や、省エネイベントとのコラボレーション、証書を活かしたノベルティの提案など、積極的に証書のPRを行ったことで、販売件数は目標値を達成することができたと考えられます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	コスト自体は、グリーン電力認証センターとの契約料やマーク使用料に必要なものとなっています。なお、証書販売による収入は3年連続で、支出を上回っています。証書の販売価格に関し、変動価格を採用しているため、同じコストでより大きな収入をあげるためには、小口による証書販売件数を増やすことは有効だと考えられます。今後も販売件数、販売量の向上を目指し、積極的にPRを行っていく予定です。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	平石

事業名	北九州市役所環境・エネルギープロジェクト推進事業				施策番号	
					VI - 2 - (3) - ①	
事業概要	環境モデル都市としての市役所の率先垂範を実践するため、また、省エネ法及び温対法の規制へ対応するため、平成23年度から本事業により市役所の環境・エネルギー対策として、省エネ・節電を推進します。また、市民等に省エネ・節電を広く浸透させます。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	27,228 千円	18,900 千円		6,150 千円	(人件費備考)	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	環境モデル都市としての市役所の率先垂範を実践するため、また、省エネ法及び温対法の規制へ対応するため、平成23年度から本事業により市役所の環境・エネルギー対策として、省エネ・節電を推進します。また、市民等に省エネ・節電を広く浸透させます。			成果実績	現在集計中であるが、把握できている本庁舎では、5.2%、区役所では、6.0%の節電効果があることから成果の状況は順調と判断しています。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	エネルギー消費原単位の改善			現在集計中	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	省エネ・節電の評価指標として、市有施設の総エネルギー使用量の年1% (前年比)の以上の改善を指標としました。 (最終目標と目標年度)H27年度までに総エネルギー使用量H22年度比5%減	10 %	前年度比 減1 %			
					やや遅れ	順調
				遅れ		

活動計画	環境モデル都市としての市役所の率先垂範を実践するため、全体会議を開催し、各局における省エネ・節電の全庁的な取組を推進します。また、市民等に省エネ・節電を広く浸透させます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	節電推進本部会議開催回数			9 回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	全庁的な省エネ・節電を推進するため、北九州市節電推進本部を設置し、本部会議を開催します。	6 回	6 回	150.0 %		
	省エネ王コンテスト参加人数			761 人	やや遅れ	大変順調
市民向けに家庭での省エネ・節電を推進するため、消費電力削減率により選考する省エネ王コンテストを開催します。	95 人	200 人	380.5 %			

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	市役所における成果については、現在集計中であるが、把握できている本庁舎では、5.2%、区役所では、6.0%の節電効果があることから、有効な取組みであると判断しています また、省エネ王コンテストについては、700名の小学生の参加があり、参加者が大幅に増加しました。今後は、教育委員会と協力し、さらに周知を図り、より多くの市民に参加してもらえるように検討しています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	引き紐スイッチの設置や、高効率空調設備への更新など、節電による経済的にも効果の高いものから効率的に取り組んでいます。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	平石

事業名	地球環境にやさしい「太陽光発電」・「屋上緑化」導入支援事業				施策番号	
					VI - 2 - (3) - ②	
事業概要	市民による太陽光発電システムの設置や事業者による屋上緑化事業に対し費用の一部を補助することで、当該機器および設備の導入を推進します。					事業手法
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考) ※H24年度は太陽光・エネファーム・屋上緑化の補助事業執行額。H25年度当初予算額はエネファームのみ。	人件費	目安の金額	課長 0.10 人 係長 0.20 人 職員 0.65 人
	91,239 千円	10,500 千円			8,025 千円	(人件費備考)

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 市民による太陽光発電システムの設置や事業者による屋上緑化事業に対し費用の一部を補助することで、市民や事業者の自主的な取組による地球温暖化対策を促進します。市内における家庭部門・業務部門におけるCO2排出を削減します。また、平成24年度より、家庭用燃料電池(エネファーム)の導入費用の一部補助をする事業を新設し、市内の家庭部門における更なるCO2排出を削減します。	成果実績	国・市の働きかけにより、太陽光発電・屋上緑化共に、導入目標を大幅に超える結果となりました。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	太陽光発電システム導入量(全市分のうち、九州電力が把握しているもの)(累計)	25,800 kW	28,800 kW	37,573 kW	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	地球温暖化対策を推進していくためには、温室効果ガスを排出しない新エネルギーの導入が必要です。市内における太陽光発電システム導入量を把握するものです(九州電力に照会依頼し、得られたデータです)。 (最終目標と目標年度) H25年度までに32,000kW設置(GFPより)			130.5 %		
	屋上緑化面積(全市分のうち、市が把握しているもの)(累計)	7,248 m <sup>2</sup>	5,400 m <sup>2</sup>	7,405 m <sup>2</sup>	やや遅れ	大変順調
地球温暖化対策を推進していくためには、温室効果ガスを排出しない新エネルギーの導入が必要です。国や市の補助金交付を受けたものも含め、市内における屋上緑化面積を把握するものです。 (最終目標と目標年度)H25年度までに6,000m <sup>2</sup> 設置(GFPより)	137.1 %					

活動計画	一昨年度より急増した「太陽光発電システム」においては、補助件数を増強して事業を実施します。屋上緑化設備を導入する事業者に対する補助事業については、継続して実施します。平成24年度より、家庭用燃料電池(エネファーム)の導入に対する補助制度を新設します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	太陽光発電システム導入量(市が補助を行ったもの)	13,962 kW	23,162 kW	19,840 kW	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	地球温暖化対策を推進していくために必要な、温室効果ガスを排出しない新エネルギーの導入を補助金交付により推進し、その導入量を把握します。※目標値は、前年度実績に補助予定分の導入量を加えたものです。			85.7 %		
	屋上緑化面積(市が補助を行ったもの)	2,554 m <sup>2</sup>	5,400 m <sup>2</sup>	2,711 m <sup>2</sup>	やや遅れ	順調
地球温暖化対策を推進していくために必要な、温室効果ガスを排出しない取組を補助金交付により推進し、その屋上緑化面積を把握します。※目標値は、前年度実績に補助予定分の導入量を加えたものです。	50.2 %					

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	補助金交付においては、予定を下回る結果となりましたが、域全体で当該機器・当該設備の導入が進んでおり、目標値を大きく上回る結果となっています。補助金交付事業を実施することで、市民が太陽光発電・屋上緑化を導入する際の初期経費の軽減を行うことができ、これらの導入が推進されることで、市民の目に触れる機会も増加し、新エネルギー導入に対する理解・意欲に繋がりました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	当該設備・機器の導入需用が増えることで、地場の工務店・造園業者を始めとする企業の活動機会が増え、経済対策に繋がりました。一方、本補助事業実施に当たり、担当職員の事務負担が年々増大しており、多大な人件費がかかっています。エネファームは平成25年度も継続予定ですが、太陽光発電は、売電収益等の試算より法定耐用年数内に初期投資費用の回収を終えられること、また、屋上緑化は屋上直下階の空調負荷軽減を太陽光発電設置でも代用できること、都心部緑化によるヒートアイランド対策を街路等の緑化増強による代用策を講じることもできることから、H25年度より廃止しました。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	平石

事業名	関門海峡潮流発電設置推進事業			施策番号		
				VI - 2 - (3) - ②		
事業概要	速く強い関門海峡の潮流は、“潮流エネルギー”として、ポテンシャルを有している。本市固有の潮流エネルギーを利用した潮流発電の実現可能性を調査するため、大学等と連携し、実証実験を進めています。本事業では、潮流発電に関する技術開発を進めるとともに、潮流エネルギーという新しい再生可能エネルギーについて、市民や事業者にも広く周知してもらうために、潮流エネルギーの「見える化・感じる化」を行います。					
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)平成25年度は、省エネ・新エネ推進事業の予算額の一部が、事業を進める予算額となっている。	人件費	目安の金額	課長 0.15 人 係長 0.20 人 職員 0.25 人
	3,573 千円	3,200 千円			5,600 千円	(人件費備考)
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <small>(九工東大、高専、ニッカウキスキー協会の協力による)</small>					

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 本市固有の再生可能エネルギーである関門海峡の潮流エネルギーを活用した潮流発電の実用化に向け、課題抽出・最適化のための実証研究及び市民の「見える化・感じる化」を図るための情報発信を行います。	成果実績	本実証実験では、潮流エネルギーから電力を取り出し、活用することに成功しました。これらの成果は、実用化への可能性を判断する、貴重なデータとなる可能性があります。			
代表的な成果指標	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 潮流発電の技術開発、コスト、保守に関するデータの取得 ①技術開発に関するデータ: 潮流速度や水車単独回転、発電回路の最適化、発電電力等の最大化 ②コストに関するデータ: 設置・定期点検や、緊急対応等の維持・管理費用等 ③保守に関するデータ: 装置設置後の保守内容、頻度等の保守データ (最終目標と目標年度)H25年度末までに必要なデータを全て収集。	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		-	①②③の24年度分のデータ取得	24年度分データ取得完了	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック    <b>順調</b>

活動計画	門司区大里のニッカウキスキー(株)門司工場棧橋に潮流発電実験装置を設置し、設置維持管理をしながら実証研究を実施するとともに、潮流エネルギーの「見える化・感じる化」を進めます。	活動実績	実証のデータ収集、見える化・感じる化のためのイルミネーションを設置等を実施しました。			
活動指標	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 見える化・感じる化に関する取り組み ①潮流エネルギーを見える化するためのイルミネーション設置 ②PRパネル設置 ③見える化スタートイベント(点灯式)の実施 ④撤去後の発電装置モニュメント化 メディアによるPR件数 見える化・感じる化に関する指標として、新聞やテレビなどのメディアから取り上げてもらい、PRします。	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		-	①②③の実施	①②③の実施完了	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック    <b>大変順調</b>
		19 件	15 件	15 件 100.0 %		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	平成23年度末に実証装置を設置し、平成24年度は、実証実験を開始しました。漂流物や海生生物の付着等、当初予期しなかった水車停止等トラブルがあり、計画は遅れたものの、水車単独回転に関するデータや、発電データ、蓄電データ、保守にかかる費用など、データ収集は順当に進めています。また、平成24年12月には、潮流エネルギーをイルミネーションに活用した、見える化・感じる化のPRイベント、PR看板の設置を行いました。平成25年度は、発電効率の向上を目指した検討を進めると同時に、引き続きデータの収集を行う予定です。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	平成24年度実証開始後のコストとしては、保守点検・緊急対応にかかる費用、イルミネーション等の見える化・感じる化に要した費用等が挙げられます。水中点検時に海洋生物の除去作業を追加することで、緊急対応による支出を軽減できると考えられます。平成25年度は、それを踏まえた保守点検の委託仕様書の見直しを行い、コスト削減を目指します。また、PR看板やイルミネーションは、事業終了後まで引き続き使用し、無駄なく有効活用する予定です。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	循環社会推進課
課長名	敷田

事業名	3R活動推進事業				施策番号	
					VI - 3 - (1) - ①	
事業概要	市内の一般廃棄物大量排出事業者や大規模事業所等の所有者等に対する資源化・減量化計画書の提出による一般廃棄物の減量化・資源化、適正処理の推進や、個人、市民団体、事業者が行う3R活動を奨励する3R活動推進表彰など、廃棄物の発生抑制(Reduce)・再利用(Reuse)・再生使用(Recycle)の3R(スリーアール)活動を推進します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額		課長 0.05 人 係長 0.15 人 職員 0.70 人
	805 千円	1,176 千円		7,325 千円		

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	3R活動推進表彰の実施や事業者に対する減量化・資源化に関する計画書の提出等を通じ、3R活動に対する意識の向上やリサイクル率の向上を図ります。			成果実績	事業所の資源化・減量化等の定期的な点検や3R活動に対する表彰を行うことで、3R活動の意識を醸成し向上することに繋がっています。
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】
	事業所から排出される一般廃棄物の資源化率の向上	—	単年度の目標設定はありません	計画の中間目標年度(H27)に、達成率等を精査する予定	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	事業所に係る資源化・減量化計画書を作成することで、各事業所から発生する廃棄物の減量化・資源化や適正処理を定期的に点検し、廃棄物の減量化・資源化率の向上を図ります。 (最終目標と目標年度)H32年度に事業系ごみの8%削減、及び資源化物(事業系)20%増(対H21年度比)	—	3R意識の醸成を図ります	—	やや遅れ	遅れ
ごみの減量やリサイクルなどの3R活動の推進						
廃棄物の発生抑制(Reduce)・再利用(Reuse)・再生使用(Recycle)の3R(スリーアール)活動を積極的に取り組んでいる個人、市民団体、事業者を表彰し、これらの活動を奨励します。 (最終目標と目標年度)						

活動計画	事業所から排出される一般廃棄物のリサイクル率の向上を図るため、提出対象事業所の全事業所に資源化・減量化計画書の提出を求めるとともに、訪問調査を行います。また、3R活動に対する意識の向上を図るため、3R活動推進表彰を実施します。	活動実績	活動実績は、下記のとおりです。			
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】
	事業所から排出される一般廃棄物の適正処理の点検	25 団体	目標設定はありません	32 団体	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	資源化・減量化計画書の提出に加え、必要に応じて訪問調査を行います。					
3R活動推進表彰に関する市民への広報活動	10 団体	目標設定はありません	6 団体	やや遅れ	遅れ	順調
募集時に、各区・市民センター等へのリーフレット配布のほか、かえるプレス等で3R活動推進賞受賞団体を紹介します。						

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 <b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	H24年度は、受賞団体3団体が子どもの団体や学校関係であり、子ども達の日常生活に3Rが定着してきており、今後の活動の広がりが窺われました。また、条例対象事業所については、訪問調査を実施し、他事業所の取り組み等を紹介することにより、3R意識がさらに高まっていると考えています。 条例対象事業所に対する減量化・資源化に関する計画書の提出については、市内事業系一般廃棄物排出の主である大量排出事業所や大規模事業所等の事業者が、計画書作成により廃棄物排出の振り返りを行う機会となっており、事業者への廃棄物適正処理の啓発や3R活動の周知・普及の手段として、費用対効果は高いと考えています。また、3R活動推進表彰については、表彰式を単独で行わず、市主催事業(エコライフステージ)の一環として行うなど、事業を遂行するにあたって、コスト削減に努めています。
-----------	---	---

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	循環社会推進課
課長名	敷田

事業名	古紙リサイクル推進事業				施策番号	
					VI - 3 - (1) - ①	
事業概要	一般廃棄物の減量化・資源化促進のため、回収量に応じた奨励金の支給や、古紙回収用保管庫の貸与などを通じ、町内会等の市民団体による古紙の集団資源回収活動を支援します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (奨励金)
コスト	事業費	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		人件費
		254,197 千円	271,776 千円			課長 0.00 人 係長 0.05 人 職員 0.30 人

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	古紙の集団資源回収活動の支援を通じ、家庭ごみの約15%を占める古紙の減量化・資源化を図ります。			成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	年間古紙回収量(単年度)							
	平成23年度に策定した循環型社会形成推進基本計画に掲げたりサイクル率35%以上を目指すため、平成32年度までに1人あたりの古紙回収量の10%増加(対21年度比)を目指します。 (最終目標と目標年度)1人あたり10%回収量の増加(H32年度)	29,106 トン	30,500 トン	28,708 トン	94.1 %	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	古紙回収に取り組むまちづくり協議会の増加 古紙回収に取り組むまちづくり協議会の増加を目指します。 (最終目標と目標年度)全136団体の参加(目標年度の設定なし)	123 団体	136 団体	128 団体	94.1 %	順調 やや遅れ 遅れ	順調	

活動計画	未回収地域の解消を図り古紙回収量の増加を目指すため、地域調整奨励金制度に未登録であるまちづくり協議会に対して、積極的に登録を呼びかけます。また、かえるプレスへの掲載や出前講演、古紙リサイクルバスツアー等を通して、古紙回収についての周知を行います。			活動実績	下記の活動指標のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	未登録団体への個別訪問件数	—	13 団体 (個別訪問件数)	13 団体	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	地域調整奨励金制度に未登録であるまちづくり協議会に対して、個別に訪問説明し、登録を促します。						
広報活動の実施	4 回	目標設定はありません	16 回	やや遅れ 遅れ	順調		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 <b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	古紙の流通量の減少や、スーパー等での店頭回収が増加などの影響により、集団資源回収量は微減となっていますが、家庭ごみの減量化に大きく貢献しており、奨励金は地域コミュニティの活性化に寄与していることから、引き続き啓発や周知を行うことにより、回収量の増加に向けた取組みを進めていきます。 行政回収よりも低コストで、団体は回収業者と自由に契約ができるため利便性が高く、奨励金は町内会等の貴重な活動資金となっていることから、地域コミュニティの活性化を図る上で、大きな役割を担っています。
-----------	---	---

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# PDCAチェックシート（平成24年度実績評価）

		担当局	環境局		
		担当課	循環社会推進課		
		課長名	敷田		
<b>事業名</b>	地域特性型(メニュー選択方式)市民環境活動推進事業(剪定枝リサイクル事業)				施策番号
					VI - 3 - (1) - ①
<b>事業概要</b>	地域団体等の自主的な活動により回収される家庭から排出された剪定枝及び刈草について、収集運搬作業及びリサイクル処理を側面的に支援することにより、循環型社会に向けたリサイクルの推進、ならびに地域団体等による自主的な環境活動の拡大及び地域コミュニティの活性化を図ります。				<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
					( )
<b>コスト</b>	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		人件費
	9,862 千円	10,119 千円			目安の金額 6,250 千円
				課長	人
				係長	0.10 人
				職員	0.70 人
				(人件費備考)	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	北九州市循環型社会形成推進基本計画に掲げている「市民等各団体が主体的・協動的に3R・適正処理に取り組むこと通じた持続可能な都市モデル」を目指すため、地域団体が自主的に環境活動を推進します。			<b>成果実績</b>	平成24年度は、地域団体において76回の剪定枝リサイクル活動を行っており、3R意識の醸成に繋がっています。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	<b>【成果の状況】</b>		
	剪定枝の回収及びリサイクル(単年度)	159.17 t	単年度の目標設定はありません	163.04 t	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	地域団体等の自主的な活動により回収される家庭から排出された剪定枝及び刈草について、収集運搬作業及びリサイクル処理を側面的に支援することにより、家庭ごみ量の減量化及びリサイクル率の向上を目指します。 (最終目標と目標年度) H32年度に家庭ごみ量の7%削減(対H21年度比)及びリサイクル率35%以上							
	3Rの意識の醸成		3Rの意識醸成を図ります		やや遅れ	<b>順調</b>		
地域が自主的に取り組むリサイクル活動により、3Rの意識醸成を行い、市民による環境活動を推進します。 (最終目標と目標年度)				遅れ				

<b>活動計画</b>	家庭から排出された枝や刈草を民間の委託業者を活用し、回収、リサイクル処理を行います。また、剪定枝リサイクルを周知するため、広報活動やリサイクルツアーを行います。	<b>活動実績</b>	啓発・広報の実施回数を増やすことにより、広く事業の周知を図りました。					
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	<b>【活動の状況】</b>		
	広報活動の実施	4 回	目標設定はありません	10 回	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	出前講演やちらし等の配布による広報活動や市民参加型のリサイクルバスツアーを実施します。							
					やや遅れ	<b>順調</b>		
				遅れ				

## 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動は予定通り行い、実施団体が新規に4団体増加しました。また、地域団体が協力して回収を行うことで、地域コミュニティの活性化に繋がりました。剪定枝がリサイクルされることにより、ごみ焼却量の削減につながるとともに、循環型社会の推進に寄与していると考えます。
	<b>【経済性】</b> (同成果を低コストで) <b>【効率性】</b> (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	地域が自主的に取り組むリサイクル活動であり、市民環境力による3R活動を推進する上で必要と考えます。経費の主な用途は、剪定枝の回収と処理費用ですが、回収業務と処理業務を一括契約することにより、コスト削減に努めています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	<b>課題</b>	26年度の活動計画(見直し内容)   その結果目指す成果(26年度の成果目標)
---------------	-----------	--

# PDCAチェックシート（平成24年度実績評価）

担当局	環境局
担当課	循環社会推進課
課長名	敷田

<b>事業名</b>	地域特性型(メニュー選択方式)市民環境活動推進事業(廃食用油リサイクル事業)					施策番号	
						VI - 3 - (1) - ①	
<b>事業概要</b>	地域団体等の自主的な活動により回収される家庭から排出された廃食用油について、収集運搬作業及びリサイクル処理を側面的に支援することにより、循環型社会に向けたリサイクルの推進、ならびに地域団体等による自主的な環境活動の拡大及び地域コミュニティの活性化を図ります。					<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
						( )	
<b>コスト</b>	24年度執行額	25年度当初予算額	<small>(事業費備考)</small>	人件費	目安の金額	課長	人
	221 千円	345 千円			4,875 千円	係長 0.15 人	職員 0.45 人

## 【Plan】計画 →      【Do】実施 →      【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	北九州市循環型社会形成推進基本計画に掲げている「市民等各団体が主体的・協動的に3R・適正処理に取り組むことに通じた持続可能な都市モデル」を目指すため、地域団体が自主的に行う環境活動を推進します。			<b>成果実績</b>	ごみの減量化・資源化に繋がっていますが、回収量が前年度に比べ減少していることから、さらなる3R意識の醸成を図る必要があります。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) <small>(上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)</small>	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	<b>【成果の状況】</b>		
	廃食用油の回収及びリサイクル(単年度)	6,298 ℓ	単年度の目標設定はありません	6,152 ℓ	大変順調			
	地域が市民センター等に設置した回収ボックスを活用し、回収された廃食用油は民間の委託業者によって、バイオディーゼル燃料(BDF)にリサイクルすることにより、家庭ごみ量の減量化を目指します。 <small>(最終目標と目標年度) H32年度に家庭ごみ量の7%削減(対H21年度比)及びリサイクル率35%</small>				順調			
	3Rの意識の醸成				やや遅れ			
地域が自主的に取り組むリサイクル活動により、3Rの意識醸成を行い、市民による環境活動を推進します。 <small>(最終目標と目標年度)</small>			3Rの意識醸成を図ります		遅れ	<b>やや遅れ</b>		

<b>活動計画</b>	家庭から排出された廃食用油を民間の委託業者を活用し、回収、リサイクル処理を行います。また、廃食用油リサイクルを周知するため、広報活動やリサイクルツアーを行います。	<b>活動実績</b>	啓発・広報の実施回数を増やすことにより、広く事業の周知を図りました。
-------------	---	-------------	------------------------------------

<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) <small>(上段: 指標名 下段: 指標の説明)</small>	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	<b>【活動の状況】</b>		
	広報活動の実施	4 回	目標設定はありません	10 回	大変順調			
	出前講演やチラシ等の配布による広報活動や市民参加型のリサイクルバスツアーを実施します。				順調			
					やや遅れ	遅れ	<b>順調</b>	

## 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 <small>※事業手法の有効性、外部要因などの視点</small>	地域が自主的に取り組むリサイクル活動により、コミュニティ活動の活性化が図られており、また、リサイクルされたものが、市民の身近な市のごみ収集車や市営バスの燃料等として利用されることで、循環型社会の構築に向けた市民啓発のための重要な取り組みの事例として有効ですが、廃食用油の回収量が少ないことから、より一層の広報活動が必要であると考えています。
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を)の分析 <small>※民間活力導入の視点</small>	現在は、回収拠点も少ないためルート回収などコスト削減の仕組みまでには至っていませんが、現在の拠点を中心にエリアを拡大し、ルート回収が出来るような対象地域を定めて広報活動を行う必要があると考えます。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	<b>課題</b>	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	循環社会推進課
課長名	敷田

事業名	地域特性型(メニュー選択方式)市民環境活動推進事業(生ごみ処理機設置助成事業)				施策番号	
					VI - 3 - (1) - ①	
事業概要	市民一人ひとりが取り組むことが出来る生ごみの減量化・資源化を目指し、各家庭における電気式生ごみ処理機を使用した生ごみリサイクル活動を推進するため、電気式生ごみ処理機の購入費用を一部助成します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額		課長 0.00 人 係長 0.05 人 職員 0.10 人
	971 千円	642 千円		1,250 千円		

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	電気式生ごみ処理機を使用した生ごみリサイクル活動を推進することにより、家庭ごみの約40%を占める生ごみの減量化・資源化の推進を図ります。			成果実績	多数の市民に対し助成を実施したことにより、3R意識の醸成に繋がっています。	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】	
	生ごみの減量化	— %	単年度の目標設定はありません	計画の中間目標年度(H27)に、達成率等を精査する予定			大変順調 順調
	北九州市循環型社会形成推進基本計画において、家庭ごみ量における生ごみ(厨芥類)の8%削減(対H21年度比)を目指します。 (最終目標と目標年度)H32年度に家庭ごみ量における厨芥類(生ごみ)の8%削減(対H21年度比) (H21年度は、86.044トン)						
	生ごみ減量化を目指した3R意識の醸成	3Rの意識醸成を図ります	順調		やや遅れ 遅れ		
家庭から排出される生ごみの減量を目指し、家庭で出来る3R活動の普及・啓発を行います。							

活動計画	生ごみの資源化・減量化を推進するため、電気式生ごみ処理機の購入を助成します。			活動実績	活動実績は、下記のとおりです。		
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】	
	電気式生ごみ処理機の購入を助成台数	57 台	100 台	49 台 49.0 %			大変順調 順調
	H24年度は、100台分の生ごみ処理機の購入助成を行います。						
					やや遅れ 遅れ	順調	

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	節電の推進等外的要因により、助成金申請者数は49台でしたが、平成12年から累計4,700台の助成を行い、電気式生ごみ処理機の普及・啓発という点では一定の成果があったと考えています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	生ごみの減量化は、大規模堆肥化施設等による堆肥化やガス化等が考えられますが、生ごみの分別回収に関するコストや、施設の建設コスト等が発生します。それらと比較して、本事業は低いコストでより高い効果が得られると考えています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	循環社会推進課
課長名	敷田

事業名	地域特性型(メニュー選択方式)市民環境活動推進事業(生ごみリサイクル事業)				施策番号	
					VI - 3 - (1) - ①	
事業概要	市民一人ひとりが取り組むことが出来る生ごみの減量化・資源化を目指し、各家庭における生ごみコンポスト化容器を使用した生ごみリサイクル活動を推進するため、生ごみコンポスト化の基礎知識を学ぶとともに、コンポスト化容器活用のコツや問題発生時の対処方法等を習得する講座を実施します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	5,064 千円	5,980 千円		9,575 千円	(人件費備考)	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	生ごみコンポスト化容器を使用した生ごみリサイクル活動を推進することにより、家庭ごみの約40%を占める生ごみの減量化・資源化の推進を図ります。			成果実績	多数の市民に対し講座を実施したことにより、3R意識の醸成に繋がっています。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	生ごみの減量化	—	単年度の目標設定はありません	計画の中間目標年度(H27)に、達成率等を精査する予定	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	北九州市循環型社会形成推進基本計画において、家庭ごみ量における生ごみ(厨芥類)の8%削減(対H21年度比)を目指します。 (最終目標と目標年度)H32年度に家庭ごみ量における厨芥類(生ごみ)の8%削減(対H21年度比) (H21年度は、86,044トン)					
	(最終目標と目標年度)				遅れ	順調

活動計画	生ごみコンポスト化容器活用講座を年3回程度実施します。また、地域における生ごみのリサイクル活動を普及させるため、地域生ごみリサイクル講座を実施します。				活動実績	活動実績は、下記のとおりです。
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	生ごみコンポスト化容器活用講座等参加者数(延べ数)	834 名	870 名	872 名	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	生ごみコンポスト化容器の普及と活用を推進するため、生ごみコンポスト化容器活用講座(市主催講座)を実施します。			100.2 %		
	地域生ごみリサイクル講座実施地域数	14 地域	17 地域	16 地域	やや遅れ 遅れ	大変順調
生ごみコンポスト化容器の普及と活用を推進するため、地域生ごみリサイクル講座(地域主催講座)を実施します。	94.1 %					

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	個人や地域が自主的に取り組むリサイクル活動であり、かつ生ごみの減量化・資源化を促進する事業です。生ごみコンポスト化容器活用講座及び地域生ごみリサイクル講座の参加者の増加により、地域コミュニティの活性化や家庭ごみの減量化・資源化の市民の環境意識の醸成に繋がっています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	生ごみの減量化は、大規模堆肥化施設等による堆肥化やガス化等が考えられますが、生ごみの分別回収に関するコストや、施設の建設コスト等が発生します。それらと比較して、本事業は低いコストでより高い効果が得られると考えています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	循環社会推進課
課長名	敷田

事業名	循環型社会を形成するための環づくり支援事業				施策番号	
					VI - 3 - (1) - ①	
事業概要	市民一人ひとりが取り組むことができる家庭ごみの減量化・資源化を目指し、生ごみの水切りの推進や剪定枝等のリサイクル過程を見学するリサイクルツアーの実施等を通じ、家庭ごみの減量化・資源化の推進を図ります。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	1,574 千円	120 千円			5,750 千円	(人件費備考)

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	生ごみの水切りやリサイクルバスツアーの実施を通じ、家庭ごみの減量化・資源化の推進を図ります。			成果実績	事業所の資源化・減量化等の定期的な点検や3R活動に対する表彰を行うことで、3R活動の意識を醸成し向上することに繋がっています。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	生ごみの減量化	—	単年度の目標設定はありません	計画の中間目標年度(H27)に、達成率等を精査する予定	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	北九州市循環型社会形成推進基本計画において、家庭ごみ量における生ごみ(厨芥類)の8%削減(対H21年度比)を目指します。 (最終目標と目標年度)H32年度に家庭ごみ量における厨芥類(生ごみ)の8%削減(対H21年度比) (H21年度は、86,044トン)					
	3Rの意識醸成	—	3R意識の醸成を図ります	—	やや遅れ 遅れ	順調
地域が自主的に取り組むリサイクル活動により、3Rの意識醸成を行い、市民による環境活動を推進します。 (最終目標と目標年度)						

活動計画	リデュース活動推進事業として、生ごみの減量化を図るため、リデュースクッキング講座や生ごみ由来の堆肥の使い方講座の開催、またリサイクル過程見学を行うことでリサイクル活動の契機を図るリサイクルツアーを開催します。 また、家庭や地域で活動することのできる3R活動等を紹介したパンフレット等を作成し、市民啓発を行います。	活動実績	活動実績は、下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	生ごみ由来の堆肥の使い方講座の開催	—	目標設定はありません	4 回	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	生ごみ由来の堆肥の活用方法等について実技を通じた講座を行い、生ごみリサイクルの利点を伝えることで生ごみリサイクルの取り組み契機とします。			%		
	リサイクルツアー開催	—	目標設定はありません	4 回	やや遅れ 遅れ	順調
剪定枝や廃食用油等リサイクル過程見学を行うことでリサイクル活動の契機を図るリサイクルツアーを開催します。						

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	個人や地域がごみの減量化を目標とする講座やツアーに参加することで、実際の過程を体験し、リサイクル運動の重要性を肌で感じることであり、地域コミュニティの活性化や市民の3R意識の醸成に繋がっています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	ごみの減量化を図る啓発事業であり、参加型の事業のため、実際に参加できる人数等に限りはあるが、その参加市民から、より広く啓発活動が広がることにより、ごみのリサイクル等の循環型環境活動の推進となるため、本事業は低いコストでより高い効果が得られると考えています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	循環社会推進課
課長名	敷田

事業名	北九州市民環境パスポート事業				施策番号	
					VI - 3 - (1) - ①	
事業概要	レジ袋発生抑制(リデュース)を図るとともに、市民に楽しみながら環境活動に参加できるきっかけを提供するため、買物の際に参加店でレジ袋を断るとポイントシールがもらえ、20ポイント貯まると参加店で50円の割引券として利用できる「カンパスシール事業」を実施します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	12,445 千円	12,780 千円		3,575 千円	(人件費備考)	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	レジ袋発生抑制(リデュース)を図るとともに、市民に楽しみながら環境活動に参加できるきっかけを提供することにより、家庭ごみの減量化の推進を図ります。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	カンパスシール等によるレジ袋お断り率(単年度)			23.9 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	レジ袋のリデュースによるCO2削減効果に結びつくとともに、市民の身近な環境活動への参加状況を表す指標とします。	23.9 %	27.0 %	88.5 %		
	(最終目標と目標年度)各店舗の独自のサービス(ポイント加算や有料化)を含んだお断り率としてH25年度に27%					順調

活動計画	継続して積極的な広報活動を行い、市民の環境活動への参加を働きかけることにより、平成25年度までに各店舗で独自のサービス(ポイント加算や有料化)を含めたお断り率として27%を目指して取り組んでいきます。	活動実績	活動実績は、下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	広報活動の実施			11 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市民の環境活動への参加を働きかけるために、積極的な広報活動を行います。	9 回	目標設定はありません			
						順調

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	事業開始時は、9.5%だったレジ袋お断り率は、目標の20%を超えて推移しています。事業者や店舗の統合による参加店の減少等によるお断り率の伸び悩みなどの課題もありますが、お断り率が20%を超えていることから一定の成果をあげていると考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	カンパスシール事業は、参加店舗のシール購入代金を原資にしており、本市が担う部分は運営・参画支援の部分であるため、経済性・効率性は高いと考えます。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	循環社会推進課
課長名	敷田

事業名	「北九州市循環型社会形成推進基本計画」推進事業				施策番号	
					VI - 3 - (1) - ②	
事業概要	本市では、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条の規定に基づき「北九州市循環型社会形成推進基本計画」(本市の一般廃棄物処理計画)を策定し、本計画に基づきごみの減量化・資源化、適正処理の推進等を行っています。本事業では本市のごみ処理に関する現状を分析し、より効果的・効率的な施策や啓発・広報の方法の検討を行います。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		人件費
	681 千円	111 千円			2,325 千円	(人件費備考)

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	今後10年間の先駆的な廃棄物行政のあり方を示す「北九州市循環型社会形成推進基本計画」に基づいて、市民、事業者、NPO、行政など地域社会を構成する各主体が連携・協働して取組みを進め、従来の「循環型」の取組みに「低炭素」「自然共生」の取組みを加えた“持続可能な都市のモデル”の実現を目指していきます。	成果実績	平成24年度における単年度目標は設定していませんが、前年度と比較して家庭系ごみの収集量が減少傾向にあります。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	市民1人一日あたりの家庭ごみ量	509 g	単年度の目標設定はありません	集計中	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	平成21年度: 506g ⇒ 平成32年度: 470g以下 (最終目標と目標年度) 470g以下(H32年度)					
	リサイクル率	28.2 %	単年度の目標設定はありません	集計中	やや遅れ	遅れ
平成21年度: 30.4% ⇒ 平成32年度: 35%以上 (最終目標と目標年度) 35%以上(H32年度)						

活動計画	平成23年度に策定した「北九州市循環型社会形成推進基本計画」の目標達成のため、さらなるごみの減量とリサイクル率の向上に向けて、データを集積して最新の現状を分析し、より効果的・効率的な施策や啓発・広報の方法の検討を行います。	活動実績	左記の活動計画に基づき、本市のごみに関するデータ(発生量・処理量・リサイクル量など)の収集・分析及び施策や啓発・広報の検討を行いました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	計画全体の事業実施状況の把握	-	目標設定はありません	各事業のデータ収集等を実施	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	「北九州市循環型社会形成推進基本計画」に基づき実施された各事業について、その内容及び進捗状況等に関するデータを収集します。					
					やや遅れ	順調
				遅れ		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】	本市のごみに関するデータを収集・分析し、下記のような啓発・広報を行い、3Rの取組みを推進しました。				
	【活動の状況】を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	【事例1】現状: 家庭ごみの全重量のうち、約半分が生ごみ ⇒ 問題点: 生ごみが水を含んだ状態で捨てられている ⇒ 啓発・広報: 生ごみの「水切り」に関するチラシ(1万部)を作成・配布 【事例2】現状: プラスチック製容器包装の分別協力量が約44% ⇒ 問題点: 市民がプラスチック製容器包装なのか判断できないため、家庭ごみとして捨てられている ⇒ 啓発・広報: プラスチック製容器包装の分別早見表(32万部)を作成・配布				
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) ※民間活力導入の視点	この計画の策定・管理は、法律上の義務として市に課せられており、市が直接携わることで、一般廃棄物の処理・管理責任を果たす必要があるため、市が各事業の適正な進行管理を行っていくこととします。				

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	産業廃棄物対策室
課長名	井上

事業名	産業廃棄物資源化・減量化技術等支援事業				施策番号	
					VI - 3 - (1) - ③	
事業概要	北九州市内で発生する産業廃棄物の減量化及び適正処理推進のため、処理業者や排出事業者を対象とした講習会を開催します。					事業手法
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.00 人	(人件費備考)
	530 千円	500 千円		350 千円	係長 0.02 人 職員 0.02 人	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	産業廃棄物の処理業者や排出事業者に対し、市内における産業廃棄物の処理等に関する情報を調査・提供することで、市内で発生する産業廃棄物の減量化・適正処理に関する意識の向上を目指します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	産業廃棄物の処理業者や排出事業者を対象とした講習会への参加人数 (単年度)	582 人	800 人	496 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	産業廃棄物の減量化及び適正処理に関する効果的な情報発信を行うための講習会を開催し、処理業者や排出事業者の意識の向上を図ります。過去の実績等を考慮し、市内2,000事業者のうち40%以上の参加を目標とします。 (最終目標と目標年度)800人(毎年度)			62.0 %		
						順調

活動計画	産業廃棄物の減量化・適正処理に関する講習会への参加率向上を図るため、市内に所在する許可処理業者及び多量排出事業者に対して講習会周知文を送付します。	活動実績	成果の状況は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	講習会周知文を送付した許可処理業者及び多量排出事業者数	1,986 事業者	2,000 事業者	1,925	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市内の全ての許可処理業者及び多量排出事業者に対して講習会周知文を送付し、参加人数の増加を目指します。			96.3 %		
						順調

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	活動は予定どおり行いましたが、成果は目標に届きませんでした。しかし、市内に所在する許可処理業者及び多量排出事業者約2,000事業者に対して講習会周知文を送付しており、廃棄物の減量化及び適正処理推進に対する意識啓発は十分に行うことができたと判断しています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	講習会の開催業務は外部委託としていますが、約50万円の委託費で、およそ500人の許可処理業者及び多量排出事業者へ必要な情報を伝達できており、事業の経済性・効率性は高いと考えています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	山本

事業名	北九州エコタウン事業				施策番号	
					VI - 3 - (2) - ①	
事業概要	資源循環型社会の実現に向けて、環境産業の集積化とリサイクル技術開発の拠点化を図るため、北九州エコタウン事業を推進します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	10,928 千円	12,025 千円		4,575 千円	(人件費備考)	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	1997年にスタートしたエコタウン事業は、工場の立地促進を中心に展開してきましたが、リサイクル産業を中心とした幹線産業は、創生期から競争の時代に突入し、高度な技術と経済的価値の高い資源へのリサイクルという視点が重要になっています。よって、市の環境未来技術助成を始めとする産学官の新たな研究開発投資を呼び込むことにより、エコタウン事業の高度化、高付加価値化を図っていきます。また、ビジターズ・インダストリーという観点から視察者の積極的な受入も進めていきます。			成果実績	エコタウンへの視察者数 103,867人
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	エコタウン事業による投資額(単年度)			17 億円	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	エコタウン事業の高度化を図るためには新たな投資が必要であり、投資額を成果指標として設定します。 (最終目標と目標年度) 毎年5億円	8 億円	5 億円	340.0 %		
	北九州エコタウンへの視察者数(単年度)			103,867 人	やや遅れ	順調
エコタウン事業への関心の高さやビジターズ・インダストリーという観点から視察者数を、成果指標として設定しています。 (最終目標と目標年度) 毎年10万人	100,576 人	100,000 人	103.9 %	遅れ		

活動計画	北九州市環境産業推進会議の新エコタウン部会において、エコタウン事業の高度化・高付加価値化に向けた会合を重ねるとともに、新エコタウン部会の下にエコタウン高度化連携研究会やリチウムイオン電池リユース・リサイクル研究会などを設置し、社会システム構築に向けた研究や実証研究等を継続して行っていきます。また、視察についても、エコタウン企業を視察できる定型方コースを設定するなど、視察者が見学しやすい環境を整備していきます。	活動実績	実証研究数			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	実証研究数			12 社	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	実証研究が増加することによりリサイクル産業の高度化や育成を図ることができるため、実証研究の数を活動指標として設定します。	17 社	12 社	100.0 %		
					やや遅れ	順調
				遅れ		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	視察者数や投資額については、順調に伸びてきています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	視察者の増加や民間による新たな投資や新規雇用が行われており、経済・効率性という面においてはかなりの効果がありました。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	山本

事業名	環境産業ネットワーク形成事業				施策番号	
					VI - 3 - (2) - ①	
事業概要	北九州市環境産業推進会議及び5つの部会の運営				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
						( )
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人
	1,582 千円	1,842 千円			3,825 千円	係長 0.10 人 職員 0.30 人

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	「環境が経済を拓く」に取り組みを実践していく為、環境産業の振興について、経済団体、事業者、大学等の各主体が情報を共有し、共に考え、連携して行動することを目的とした「環境産業推進会議」及び5つの部会を設置し、低炭素化に貢献する産業ネットワークを構築します。				成果実績	北九州市環境産業推進会議 登録団体数 559社・団体 登録者数 728名
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	北九州市環境産業推進会議登録団体数	549 団体	600 団体	559 団体			大変順調 順調
	北九州市環境産業推進会議は、環境産業の振興について、行政、事業者、経済団体などの各主体が「情報を共有し、共に考え、連携して行動することを目的として設置された産業ネットワークであるため。 (最終目標と目標年度)H24年度末までに600団体			93.2 %			
	北九州市環境産業推進会議登録者数	679 名	700 名	728 名	やや遅れ	順調	
同上 (最終目標と目標年度)H24年度末までに700名			104.0 %	遅れ			

活動計画	先進的ビジネスの創出など様々な視点から設置した5つの部会を年4回の予定で開催します。各部会の活動を基に、年2回運営委員会を開催し、環境産業推進会議の具体的な行動及び全体の運営並びに活動方針を検討し、低炭素化社会の構築に向け、産業界、学術機関、行政が一体となって取り組みます。	活動実績	24年度は運営委員会を2回開催、各部会は年2回以上開催し総会、合同セミナーを各1回開催しました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	北九州市環境産業推進会議参加者数	980 人	400 人	430 人		
	多くの企業の方が一堂に集まり情報交換を行っていくことは事業を推進していくためにも、また、登録者を増やしていくためにも、非常に重要なことと考えています。			107.5 %		
					やや遅れ	順調
				遅れ		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	登録団体、登録者ともに数を増やしています。推進会議参加者数は、臨時で合同セミナーを2回開催した23年度の実績には及ばないものの、1回の会議に200名以上が参加するなど、推進会議に対する事業者等の期待度が伺えます。また、各部会の下に設置した、リウムイオン電池リユースリサイクル研究会及び北九州エコプレミアム販売拡大支援WGでも将来にむけた具体的な環境産業振興策の検討を重ねています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	各部会及び研究会等の活動により、産業界への省エネ設備の普及促進のために中小企業省エネ設備導入促進事業及び環境産業融資制度を創設しました。特に中小企業省エネ設備促進事業は、設備工事先を市内工事事業者に限定したため、補助交付額の3倍の額が市内工事事業者へ流れることとなりました。また、北九州市エコプレミアム販売拡大支援WGを通じて、産業経済局と連携し、環境配慮型製品の販路開拓・拡大に取り組むなど具体的な展開を図っています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	山本

事業名	レアメタル(リチウムイオン電池)リユースリサイクル拠点形成事業				施策番号	
					VI - 3 - (2) - ①	
事業概要	今後急速な普及が予想される電気自動車やハイブリッド車の使用済みリチウムイオン電池の大量発生を見越し、リユースやリサイクルに関して、研究開発から事業化に至るまでの支援を進めていきます。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額		課長 0.10 人 係長 0.10 人 職員 0.20 人
	4,991 千円	3,000 千円		3,650 千円		

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	北九州エコタウンには、リサイクルに関する技術と知識が集積されています。この特徴を活かし、リチウムイオン電池のリユースやリサイクルに関して、研究開発から事業化に至るまでの支援を進め、リサイクルに関する優位性とリユースに関する研究を融合させたモデルを提案していきます。	成果実績	当事業の成果の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、リチウムイオン電池のリユースやリサイクルに関して、研究開発から事業化に至るまでの支援を進め、リチウムイオン電池産業の拠点化を目指します。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	研究開発から事業化までの支援			-	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	産学官による、リユース・リサイクルの2部会からなる研究会(リチウムイオン電池リユース・リサイクル研究会)を設立し、社会システムの構築を含めた、研究開発から事業化までの支援を進めていきます。 (最終目標と目標年度) リチウムイオン電池産業の拠点化	研究開発から事業化までの支援	研究開発から事業化までの支援		やや遅れ	
(最終目標と目標年度)				遅れ		

活動計画	平成24年度は、各種補助金等も活用しながら、リユース・リサイクル部会とも、将来の事業化に向けた技術開発、調査研究等を進めます。	活動実績	平成23年7月に設立した上記研究会について、平成24年11月、平成25年3月に研究会(総会)を開催し、各部会の研究成果等を報告。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	研究会(総会)の開催回数			2 回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	各研究の進捗状況等に応じ、適宜各部会を開催するとともに、そうした活動状況の報告等を行うため、研究会(総会)を開催します。	2 回	2 回	100.0 %	順調	
					やや遅れ	順調
					遅れ	

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	成果の状況については、各種研究開発の支援を進めたこと、また活動の状況については、各研究の進捗状況等に応じて、上記研究会(総会)2回、部会各3回を開催したことから、いずれも順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	当研究会の事務局を環境未来都市推進室が担当していますが、運営を民間業者等に委託するなど、コスト削減に努めています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	山本

事業名	3R技術高度化研究会			施策番号 VI - 3 - (2) - ②		
	本市の環境政策上推進すべき分野や今後事業化が有望と考えられる分野について、産学官による研究会の設置を含めた研究体制の整備を行い、事業展開を見据えた研究開発や市場性・経済性等の調査、情報交換を支援していきます。 <検討テーマ> ・希少金属・資源のリサイクル ・バイオマスの活用 ・既存リサイクル事業の高度化 など			事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	コスト 事業費 24年度執行額    25年度当初予算額 (事業費備考) 1,155 千円    1,341 千円 目安の金額    課長 0.05 人 1,450 千円    係長 0.05 人 (人件費備考) 職員 0.05 人	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 研究体制を整備し、事業展開を見据えた研究開発や市場性・経済性等の調査、情報交換を支援していく中で、国・NEDO・市等の委託事業や補助金への採択等により、将来の事業化に向けた足掛かりとしていくことを目指します。	成果実績	RO膜(逆浸透膜)のリサイクルに関する研究について、委託事業や補助金への採択等を目指しましたが、平成24年度はそこまでには至りませんでした。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→ 【成果の状況】
	3R高度化研究会から委託事業・補助事業につながった件数(単年度)	0 件	1 件	0 件	
	研究会の活動を通じ、次のステップ(国・NEDO・市等の委託事業や補助金への採択等)に移行できた件数を成果指標として設定します。			0.0 %	
	(最終目標と目標年度) 毎年度1件の採択等を目指します。				やや遅れ

活動計画	RO膜(逆浸透膜)のリサイクルに関する研究の進展に向けて、引き続き支援を進めるとともに、新たな案件で有望なものがあれば、同様の取組みを行います。	活動実績	RO膜(逆浸透膜)のリサイクルに関する研究に関し、引き続き研究の進展に向けて、支援を進めました。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→ 【活動の状況】
	産学官による研究体制の整備件数(単年度)	1 件	1 件	1 件	
	上記活動計画の目安とするため、産学官による研究会の設置を含めた、研究体制の整備件数(活動実施中の件数)を活動指標として設定します。			100.0 %	
					順調

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	成果の状況については、平成24年度は委託事業や補助金への採択等に至ったものがなかったことから、やや遅れとしました。活動の状況については、RO膜(逆浸透膜)のリサイクルに関する研究に関し、引き続き研究の進展に向けた支援を進めたことから、順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	当研究会は、有望な分野については検討を継続し、展望が見えないものについては早々に検討を止めるスクラップ&ビルド方式を採用した合理的な運営を行っており、効率的です。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	山本

事業名	環境未来技術開発助成事業				施策番号	
					VI - 3 - (2) - ②	
事業概要	循環型経済社会及び低炭素社会の実現に向け、市内における先進的かつ実現性の高い環境技術の研究を支援することにより、環境産業の振興を図り、我が国ひいては世界的な環境分野の課題の解決に先導的役割を果たすことを目指します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考) 25年度当初予算額のうち、20,000千円はチャレンジ枠(次世代資源循環型産業拠点形成推進事業)分		目安の金額
	73,286 千円	73,818 千円		6,075 千円		(人件費備考)

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	新規性、独自性に優れ、かつ実現性の高い環境技術の実証研究等に対して、その研究開発費を助成することにより、市内中小企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の集積を図ります。	成果実績	23年度末までの事業化数: 14件 ※24年度末の事業化数については現時点では集計不可		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	本助成事業で助成した研究開発の事業化数(累計)	14 件	15 件	現時点では集計不可 14 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	本事業は、事業化を目指した実証研究等に対する助成であるため、「事業化数」を成果指標に設定します。					
	(最終目標と目標年度) 16件(H25年度末)					

活動計画	平成24年度も、市内中小企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の集積を図るため、本助成制度を引き続き実施します。	活動実績	24年度の採択数: 12件 (うち新規: 6件、継続: 6件) ※15年度から24年度までののべ採択件数: 162件			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	本助成事業の採択件数(単年度)	17 件	12 件	12 件 100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	上記活動計画の目安とするため、本助成事業の採択件数を活動指標として設定します。					

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	成果の状況、活動の状況とも目標を達成していることから、いずれも「順調」としました。 当事業を進めることで、市内中小企業等に技術開発の機会を提供することができ、地域産業の活性化につながっていると考えています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	上記のとおり、事業化数は目標どおり年々増加し、市内環境産業の振興・集積につながっていることから、「順調」としました。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	山本

事業名	北九州エコプレミアム産業創造事業				施策番号	
					VI - 3 - (2) - ③	
事業概要	環境負荷が低いことを新しい付加価値として捉えた商品や技術、産業活動を「エコプレミアム」と定義し、市内の産業・技術分野の取り組みや成果の中から「北九州エコプレミアム」を選定し、市内産業界全体の環境配慮活動を促進します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	11,221 千円	8,432 千円		5,825 千円	(人件費備考)	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	環境への負荷が低いことを新しい付加価値として捉えた製品や技術、産業活動を「エコプレミアム」と定義し、北九州発のエコプレミアムを選定しています。選定された製品・サービスは北九州市がPRのバックアップを行い、販売促進につながることを目的としています。			成果実績	H24年度は、新たに6件を選定しましたが、既選定製品のうち4件を生産中止等で削除しました。しかしながら、いままでに180件を選定し、目標に向けて順調に推移しています。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	エコプレミアム選定件数(単年度)			6 件	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	選定された製品・サービスが、この事業によりどれだけ販売促進につながったかを具体的な数値で表すことは情報が得られないため、選定件数を指標とします。	13 件	10 件	60.0 %		
	(最終目標と目標年度)累計200件選定(H27年度)				やや遅れ	順調
				遅れ		

活動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・200件選定(平成27年度目標)に向けて市内企業の掘り起こしを行っていきます。</li> <li>・紹介カタログを作成するとともに、西日本総合展示場で開催する環境見本市「エコテクノ」に出展しPRします。</li> </ul>	活動実績	H24年度は、緊急雇用創出事業を利用し、市内企業の掘り起こし調査を行いました。また、環境見本市「エコテクノ」や「九州エコフェア」等への出展やエコタウンセンター、消費生活センター等での常設展示などのPR活動を行いました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	北九州エコプレミアムのPR活動			—	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	200件選定(平成27年度)を目標として、市内企業の掘り起こしを行います。また、環境見本市「エコテクノ」への出展、エコタウンセンターでの常設展示や環境産業推進会議でのチラシ配布等、様々なPR活動を行います。	—	—			
					やや遅れ	順調
				遅れ		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動や成果は予定どおり目標を上回るペースで推移しており、平成24年度までにエコプロダクト148件、エコサービス32件、合計180件選定しています。引き続き、北九州エコプレミアムの知名度向上と選定企業の営業活動促進のためPR活動を行い、また、販売促進につながるようなエコプレミアム製品販路開拓事業も併せて行います。なお、産業経済局と連携を図りながら事業を行っていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	事業開始当初は、選定に関わる業務をすべて委託していましたが、平成19年度から委託をやめ、職員が事務を行っており、委託料のコストは削減されています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	山本

事業名	エコアクション21認証・登録支援事業			施策番号	
				VI - 3 - (2) - ③	
事業概要	市内企業の環境に配慮した経営を促進するため、環境省が策定したガイドラインに基づく環境経営システム「エコアクション21」の認証登録を支援するセミナー及び講座を開催します。多くの企業が一斉にエコアクション21に取り組むことにより、関係する企業全体のCO2排出量、廃棄物排出量などの環境負荷の軽減が図られるとともに企業の環境への取組の支援策としても有効な事業です。また、「エコアクション21」はISO14001に比べて運営面・経営面での負担が少なく、中小企業でも取組が容易であるなど、全国で広がっている制度です。				
コスト	事業費	24年度執行額 2,115 千円	25年度当初予算額 315 千円	目安の金額 1,825 千円	課長 0.05 人 係長 0.05 人 職員 0.10 人
					(人件費備考)

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	低炭素化社会の実現には、産業界の取組が必須です。その一つとして、市内企業の環境に配慮した経営を促進するため、エコアクション21の認証登録に向けた支援事業を行い低炭素化社会の実現を目指します。			成果実績	導入セミナー参加 64社 北九州市内認証・登録企業 21社	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	エコアクション21認証・登録企業数(単年度)			21 社			
	認証・登録企業数の増 (最終目標と目標年度)年間登録20社	16 社	15 社	140.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	

活動計画	北九州市内事業者に対し100社を対象に掘り起こし調査を実施、積極的なPRに取組むとともに、エコアクション21取得によるブランド力を高めるための検討を行います。			活動実績	エコアクション21導入セミナー、実践講座への参加を企業訪問等で促しました		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	エコアクション21 導入セミナーの参加依頼のための企業訪問数			100 社			
	エコアクション21のPR、取得によるメリットの広報、掘り起こし調査。企業訪問により、導入セミナー、実践講座への参加を促し、認証・登録企業数増に努めます。	63 社	100 社	100.0 %	大変順調 順調	順調	
	エコアクション21普及活動(導入セミナー参加社数)			64 社	やや遅れ 遅れ		
導入セミナーへの参加社数の増	63 社	100 社	64.0 %				

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	認証登録企業数は、ほぼ目標値でしたが、導入セミナー参加者は目標数に達しませんでした。「エコアクション21」を取得することへの企業へのメリットがはっきりとした数字で表現しにくいこと、また「エコアクション21」自体の認識がまだまだ低いものと考えられます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	平成24年度は北九州テクノサポートとの委託契約の中で、市内企業への訪問や取得予定企業への掘り起こしなどを行うと共に、エコアクション21認証登録事業者の中で特に優良な環境に配慮した取り組みを実施している事業者を、毎年多くの来場者のある環境がテーマのエコテクノ展で「環境にやさしい事業所」として市から感謝状を送るなど、PRにも努めています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	循環社会推進課
課長名	敷田

事業名	北九州市民環境パスポート事業				施策番号	
					VI - 3 - (3) - ③	
事業概要	レジ袋発生抑制(リデュース)を図るとともに、市民に楽しみながら環境活動に参加できるきっかけを提供するため、買物の際に参加店でレジ袋を断るとポイントシールがもらえ、20ポイント貯まると参加店で50円の割引券として利用できる「カンパスシール事業」を実施します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	12,445 千円	12,780 千円		3,575 千円	(人件費備考)	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	レジ袋発生抑制(リデュース)を図るとともに、市民に楽しみながら環境活動に参加できるきっかけを提供することにより、家庭ごみの減量化の推進を図ります。			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	カンパスシールによるレジ袋お断り率(単年度)			23.9 %			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	レジ袋のリデュースによるCO2削減効果に結びつくとともに、市民の身近な環境活動への参加状況を表す指標とします。	23.9 %	27.0 %	88.5 %	順調		
	(最終目標と目標年度)各店舗の独自のサービス(ポイント加算や有料化)を含んだお断り率として平成25年度に27%						

活動計画	継続して積極的な広報活動を行い、市民の環境活動への参加を働きかけることにより、平成25年度までに各店舗で独自のサービス(ポイント加算や有料化)を含めたお断り率として27%を目指して取り組んでいきます。	活動実績	活動実績は、下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	広報活動の実施			11 回		
	市民の環境活動への参加を働きかけるために、積極的な広報活動を行います。	9 回	目標設定はありません		順調	

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	事業開始時は、9.5%だったレジ袋お断り率は、目標の20%を超えて推移しています。事業者や店舗の統合による参加店の減少等によるお断り率の伸び悩みなどの課題もありますが、お断り率が20%を超えていることから一定の成果をあげていると考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	カンパスシール事業は、参加店舗のシール購入代金を原資にしており、本市が担う部分は運営・参画支援の部分であるため、経済性・効率性は高いと考えます。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	循環社会推進課
課長名	敷田

事業名	3R活動推進事業				施策番号	
					VI - 3 - (3) - ③	
事業概要	市内の一般廃棄物大量排出事業者や大規模事業所等の所有者等に対する資源化・減量化計画書の提出による一般廃棄物の減量化・資源化、適正処理の推進や、個人、市民団体、事業者が行う3R活動を奨励する3R活動推進表彰など、廃棄物の発生抑制(Reduce)・再利用(Reuse)・再生使用(Recycle)の3R(スリーアール)活動を推進します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	805 千円	1,176 千円		7,325 千円	(人件費備考)	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	3R活動推進表彰の実施や事業者に対する減量化・資源化に関する計画書の提出等を通じ、3R活動に対する意識の向上やリサイクル率の向上を図ります。			成果実績	事業所の資源化・減量化等の定期的な点検や3R活動に対する表彰を行うことで、3R活動の意識を醸成し向上することに繋がっています。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	事業所から排出される一般廃棄物の資源化率の向上	—	単年度の目標設定はありません	計画の中間目標年度(H27)に、達成率等を精査する予定	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	事業所に係る資源化・減量化計画書を作成することで、各事業所から発生する廃棄物の減量化・資源化や適正処理を定期的に点検し、廃棄物の減量化・資源化率の向上を図ります。 (最終目標と目標年度)H32年度に事業系ごみの8%削減、及び資源化物(事業系)20%増(対H21年度比)	—	3R意識の醸成を図ります	—	やや遅れ	遅れ
	ごみの減量やリサイクルなどの3R活動の推進					
	廃棄物の発生抑制(Reduce)・再利用(Reuse)・再生使用(Recycle)の3R(スリーアール)活動を積極的に取り組んでいる個人、市民団体、事業者を表彰し、これらの活動を奨励します。 (最終目標と目標年度)					

活動計画	事業所から排出される一般廃棄物のリサイクル率の向上を図るため、提出対象事業所の全事業所に資源化・減量化計画書の提出を求めるとともに、訪問調査を行います。また、3R活動に対する意識の向上を図るため、3R活動推進表彰を実施します。				活動実績	活動実績は、下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	事業所から排出される一般廃棄物の適正処理の点検	25 団体	目標設定はありません。	32 団体	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	資源化・減量化計画書の提出に加え、必要に応じて訪問調査を行います。				順調		
	3R活動推進表彰に関する市民への広報活動	10 団体	目標設定はありません。	6 団体	やや遅れ	遅れ	順調
	募集時に、各区・市民センター等へのリーフレット配布のほか、かえるプレス等で3R活動推進賞受賞団体を紹介します。						

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】	H24年度は、受賞団体3団体が子どもの団体や学校関係であり、子ども達の日常生活に3Rが定着してきており、今後の活動の広がりが窺われました。また、条例対象事業所については、訪問調査を実施し、他事業所の取り組み等を紹介することにより、3R意識がさらに高まっていると考えています。
	【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	条例対象事業所に対する減量化・資源化に関する計画書の提出については、市内事業系一般廃棄物排出の主である大量排出事業所や大規模事業所等の事業者が、計画書作成により廃棄物排出の振り返りを行う機会となっており、事業者への廃棄物適正処理の啓発や3R活動の周知・普及の手段として、費用対効果は高いと考えています。また、3R活動推進表彰については、表彰式を単独で行わず、市主催事業(エコライフステージ)の一環として行うなど、事業を遂行するにあたって、コスト削減に努めています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	総務課
課長名	武田

<b>事業名</b>	3R活動推進事業(グリーンコンシューマー推進懇話会)						施策番号	
							VI - 3 - (3) - ③	
<b>事業概要</b>	日常生活に環境保全の視点を取り入れて行動する市民(グリーンコンシューマー)の育成を推進するため、市民、事業者、行政が一体となった「グリーンコンシューマー推進懇話会」を中心に、ノーレジ袋や過剰包装の自粛などを全市的に進めます。						<b>事業手法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
								(人件費備考)
<b>コスト</b>	<b>事業費</b>	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	<b>目安の金額</b>	<b>課長</b>	0.02 人	
		79 千円	338 千円		580 千円	係長	0.02 人	
						職員	0.02 人	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	3Rを進め持続可能な社会の実現を図っていくためには、市民や事業者が日常生活や事業活動の中で長寿命・省エネ・リサイクル性等に配慮した商品を優先的に使用する必要があります。そのため、市民・事業者・行政が連携して環境に配慮した消費者(グリーンコンシューマー)の育成を図る仕組みづくりを進めます。			<b>成果実績</b>	エコ商品の購入やマイバックの持参など市民の3Rに対する意識は向上しています。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【成果の状況】		
	(アンケート調査)環境にやさしいエコ商品・省エネ性能の高い製品の購入・利用が「常に実行」及び「時々実行」の回答の割合  市民が商品等を購入・利用する際、環境問題を配慮した行動を取っているかを図る指標となります。  (最終目標と目標年度) 80.0%(H26年度目標)	75.0 %	増加 (前年度以上)	78.4 %	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	(アンケート調査)マイバックの持参(ノーレジ袋推進)が「常に実行」及び「時々実行」の回答の割合  市民が買い物の際マイバックを持参し、CO2削減努力を意識して行っているかを図る指標となります。  (最終目標と目標年度) 80.0%(H26年度目標)	74.3 %	増加 (前年度以上)	76.8 %	やや遅れ 遅れ	順調		

<b>活動計画</b>	市民、企業、行政が一体となって取組む「北九州グリーンコンシューマー推進懇話会」を中心として、レジ袋削減運動や過剰包装の自粛の全市展開、北九州市3R活動推進表彰、グリーン購入推進運動などを進めます。				<b>活動実績</b>	活動実績は下記のとおり		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績(達成率)	→	【活動の状況】		
	北九州グリーンコンシューマー推進懇話会の開催  グリーンコンシューマー育成を推進するため、各種施策・事業について議論します。	2 回	1 回	1 回 100.0 %	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
					やや遅れ 遅れ	順調		

## 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	アンケート調査における環境にやさしいエコ商品・省エネ性能の高い製品の購入・利用が78.4%、マイバックの持参率も76.8%となり、身近な環境活動として定着しています。グリーンコンシューマーの活動を促進するには、市民・企業・行政の理解と協力が必要であり、同懇話会において意見交換しながら進めていく必要があります。
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	費用としては、委員への報酬のみであり、低コストとなっています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	<b>課題</b>	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	梶原

事業名	市民と自然のふれあい推進事業(自然ネット)				施策番号	
					VI - 4 - (1) - ①	
事業概要	「北九州市自然環境保全ネットワークの会」を運営することにより、自然環境保全の活動を行っている会員相互の情報交換や活動への参加募集、ボランティアの呼びかけ等を行い、多様な自然環境の保全に努めます。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
						( )
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人
	1,955 千円	3,073 千円			2,200 千円	係長 0.05 人 職員 0.15 人

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰)どのような状態にしたいのか	様々な保全活動を促進し、北九州市の自然環境保全に努めます。			成果実績	多くの人に参加してもらうことができました	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	自然環境保全活動参加者数(イベント等の延べ参加者数) 多様な自然環境を保全するためには、市民・市民団体との協働が欠かせませんが、「自然ネット」の活動を促進し、自然ネットだより等の活用により、会員相互の情報の共有を行うことで、様々な保全活動への参加者数を増やします。 (最終目標と目標年度) 様々な保全活動に対し2,000人/年間の参加を目指します。	2,000 人	2,000 人	2,000 人 100.0 %		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
							順調

活動計画	「北九州市自然環境保全ネットワークの会」を運営することにより、自然環境保全の活動を行っている会員相互の情報交換や活動への参加募集、ボランティアの呼びかけ等を行い、多様な自然環境の保全に努めます。また、北九州市の豊かな自然について冊子を作成し、自然環境保全の啓発に努めます。				活動実績	活動をPRし、数多くの方に参加を促すことができました	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	自然ネットだよりの発行 会員相互の情報共有を行い、様々な保全活動への参加を促すため、「自然ネットだより」を発行します。	5 回	6 回	6 回 100.0 %		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
							順調

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	里山保全、自然公園及び海岸清掃や生き物調査などを行うことにより、自然環境保全やそのための啓発などができました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	自然に関する活動は市民団体やNPOとの協働で行っており、市民の力も合わせて行っているため、コスト削減にはつながっていません。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	梶原

事業名	自然・生き物情報整備事業				施策番号	
					VI - 4 - (1) - ①	
事業概要	北九州市の自然環境をいくつかの角度から現地調査を行い、自然環境情報の充実を図り、後世にも多くの恵みをもたらす自然環境の維持に努めていきます。					事業手法
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.01 人	(人件費備考)
	2,362 千円	1,900 千円		1,365 千円	係長 0.05 人 職員 0.10 人	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	都市と自然が共生したまちを目指すとともに、北九州市の多様な自然の保全に努めます。			成果実績	調査を行い、現状の把握ができました
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	北九州市の環境保全 都市と自然が共生したまちを目指すとともに、北九州市の多様な自然の保全に努めます。 (環境保全が目的のため、数値で示すことが困難) (最終目標と目標年度)		都市と自然が共生したまち、多様な自然の保全	—	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック  <b>順調</b>

活動計画	カブトガニ等希少な動植物が生息し、市民の関心の高い曾根干潟の継続調査に取り組むため生物(鳥類、目視など)調査を行います。また、調査を行っている市民団体などから情報収集を行います。	活動実績	曾根干潟の自然環境を保全していくための生物調査、環境調査により、データを着実に積み上げました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	曾根干潟における環境調査 特に曾根干潟の目視調査や鳥類調査など環境調査を継続することにより、現状を把握しながら保全に努めます。	7 回	4 回	6 回 150.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック  <b>順調</b>

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	曾根干潟の生き物調査の結果、環境の大きな変化はありませんでした。継続して調査を行うことで、データを蓄積し、今後の保全活動に役立てていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	市民団体などが行っている調査については、情報収集を行い、調査の重複を避けました。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	梶原

事業名	市民植樹・美しいまちづくり事業				施策番号	
					VI - 4 - (1) - ②	
事業概要	希望する市民に対し、人生の記念日に苗木を配布し、樹木を育てることを感じてもらいます。また、記念樹植樹をきっかけに各家庭の緑を増やすことで、世界の環境首都にふさわしい都市と自然が共生したうのおいのある美しいまちを創ります。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	9,906 千円	4,500 千円		2,000 千円	(人件費備考)	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	希望する市民に対し、人生の記念日に苗木を配布し、樹木を育てることを感じてもらいます。また、記念樹植樹をきっかけに各家庭の緑を増やすことで、世界の環境首都にふさわしい都市と自然が共生したうのおいのある美しいまちを創ります。	成果実績	記念樹という身近な切り口により、緑に関心のある人の底上げを図ることができました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	環境首都100万本植樹プロジェクト促進(累計植樹本数)			418,640 本	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民をはじめ、企業やNPO、行政などさまざまな主体が市内各地に植樹活動を行い、緑化を促進することで都市と自然が共生するまちを創ります。(指標は累計で示す)	352,916 本	335,000 本	125.0 %		
	(最終目標と目標年度)100万本植樹、平成35年度(累計)					順調

活動計画	記念樹の配付を行うことで、本事業の目的を広くPRし、多くの市民に緑を育てる喜びを伝えます。また、市民をはじめ企業やNPO、行政などさまざまな主体に「環境首都100万本植樹プロジェクト」をPRし、多くの主体による植樹活動を推進します。	活動実績	記念樹の配付を行うことで「環境首都100万本植樹プロジェクト」を広くPRすることができました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	わたし記念日～記念樹における苗木の配布数			4,862 本	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	記念樹配布を希望した市民に対して、年間5,000本を配布し、家庭から緑を増やしていく、市民の手による植樹を推進します。(日々の活動が成果へとつながるため、単年度の配布数を活動指標としました)	4,959 本	5,000 本	97.2 %		
						順調

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	記念樹プレゼントという個人に関わる切り口によって、記念樹を植え、緑を増やすことができました。また、緑化は短期間でできるものではなく、緑化(環境)意識もまた短期間で向上しないため、常に啓発する必要があります。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	企業やNPOなどにも、PRをお願いし幅広く広報できるようにしています。また、記念日に関わる写真館などにもポスター掲示します。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	梶原

事業名	鳥がさえずる緑の回廊創成事業				施策番号 VI - 4 - (1) - ②	
	事業概要 廃棄物処分場や工場など自然と隔離されたイメージのある若松区響灘地区を、野鳥など動植物が生息する自然を創出し、産業と自然が調和した地区として再構築を図るとともに、市民のふれあいの場として整備します。市民、NPO、企業が連携して15年間で30万本の苗木を植栽します。				事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.01 人
	7,606 千円	5,700 千円			1,740 千円	係長 0.05 人 職員 0.15 人

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 処分場、工場などの産業用地として市民や自然と隔離されたイメージのある緑の回廊づくり等による環境整備を通して、産業と自然が調和した地区として再構築を図るとともに、市民と自然のふれあいの場として整備を行います。	成果実績	平成24年度末で約21万本の植樹を行いました。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	緑の回廊啓発活動 毎年開催する緑の回廊植樹会を通じて、広く市民・NPO・企業・行政などさまざまな主体にPRし、都市と自然が共生するまちづくりに対する意識を高めます。 (意識の向上が目的のため、数値指標が困難) (最終目標と目標年度)100万本植樹、H35年度(累計)		都市と自然が共生するまちづくりに対して、市民等の意識向上	—	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	緑の回廊における植樹本数 市民・NPO・企業・行政などさまざまな主体により、緑の回廊づくりを進めます。 (最終目標と目標年度) H35年度までに300,000万本(累計)	37,920 本 (累計)	10,000 本 (単年度)	30,846 本 (単年度) %	やや遅れ 遅れ	大変順調

活動計画	15年間で30万本の苗木(どんぐりのなる木)を植栽します。	活動実績	平成24年度末で約21万本の植樹を行いました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	緑の回廊植樹会参加者 市民・NPO・企業・行政などさまざまな主体の参加により、毎年開催する緑の回廊植樹会において、緑の回廊づくりを進めます。	1,500 人	1,500 人	1,500 人 100.0 %	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
					やや遅れ 遅れ	大変順調

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	市民をはじめ、企業やNPO、行政などさまざまな主体が植樹会に参加し、また、企業が独自に自社地における植樹により緑の回廊が広がっています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	植樹苗は「響・どんぐり銀行」を組織し、学校・企業・NPO・市民が協業して種にするどんぐり拾いから育苗まで行っています。また、その植樹も市民らの手によって行われているため、コストは抑えられています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	梶原

事業名	市民と自然のふれあい推進事業(エコツアー)				施策番号	
					VI - 4 - (1) - ③	
事業概要	エコツアー(自然環境講座)の開催や冊子を使ったPRを通じて、市民の自然環境に対する関心を高め、自然への理解や自然を守り育む意識の形成を図ります。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <small>(NPOとの協働による事業実施)</small>
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		人件費
	289 千円	450 千円			課長 0.00 人 係長 0.02 人 職員 0.10 人	(人件費備考)

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 市主催や「北九州市自然環境保全ネットワークの会」との協働でエコツアーを開催することで、市民の自然環境に対する意識向上に努め、自然環境保全に努めます。	成果実績	エコツアーを実施することで参加者の自然環境に対する意識の向上を図ることができました。
----	---	------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		エコツアー(自然環境講座)への参加をきっかけに自然への関心を高める 市主催や「北九州市自然環境保全ネットワークの会」との協働でエコツアーを開催し、自然環境に対する意識向上に努め、自然環境保全に努めます。 (環境保全が目的のため、数値で示すことが困難) (最終目標と目標年度)毎回定員割れしない応募者数を確保		エコツアー参加により関心を高め ます	—	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

活動計画	小倉南区曾根干潟でのカプトガニ産卵観察会や若松区響灘ジオトープでのエコツアーを実施し、エコツアーの参加者を募ります。	活動実績	多くの市民に北九州市の自然環境についてPRできました。
------	--	------	-----------------------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		エコツアー(自然環境講座)への応募者数 市主催や「北九州市自然環境保全ネットワークの会」との協働で開催するエコツアー開催等により、市民と自然とのふれあいを推進していきます。	467 人	200 人	233 人 116.5 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	現在実施しているカプトガニの産卵を観察するエコツアーは、参加希望者も多く市民の自然環境に対する意識の向上に寄与しています。自然環境への関心は短期間で構築できるものではないので、今後もエコツアーを実施する等常に啓発する必要があります。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	NPOなどと協働開催を行っており、コストを抑えるようにしています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	梶原

事業名	響灘ビオトープ運営等事業			施策番号		
				VI - 4 - (1) - ③		
事業概要	本市の豊かな自然環境の保全など、様々な自然分野の取り組みを推進するため、生物多様性基本法に規定される地域戦略として策定した「北九州市生物多様性戦略」の主要プロジェクトに位置づけている響灘ビオトープの運営管理等を行う事業です。絶滅危惧種など希少な動植物が500種類以上も生息する生物の楽園を保全しつつ、市民に見て触れて、自然生態系の仕組みや生物多様性の重要性などが学習できる施設です。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	目安の金額	課長	
	42,251 千円	56,140 千円	13,625 千円	係長	0.70 人	(人件費備考)
				職員	0.50 人	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	響灘ビオトープを適正に管理するため、運営体制を確立します。緑の拠点としての響灘ビオトープを自然環境教育の場として提供するため、必要な整備(園内環境整備、イベント企画等)を行い、生物多様性に富む「都市と自然の共生するまち」を実現します。	成果実績	ビオトープ管理に対し知見のある事業者に運営を委託し適切な管理ができる体制を整え、自然環境教育の場として提供できています。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	生物多様性に富む「都市と自然の共生するまち」の実現	-	単年度目標なし	-	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	緑の拠点として自然とのふれあいの場、自然環境教育の場としてビオトープを活用し、市民の環境に対する意識を高めます。 (啓発が目標であるため数値化は困難)				やや遅れ	
	(最終目標と目標年度)				遅れ	順調

活動計画	オープンした響灘ビオトープの運営管理ができる環境を整備します。また、北九州市の生物多様性の保全等に関するイベントを企画し、市民に自然環境教育の場を提供します。	活動実績	ビオトープオープンイベントをはじめとした自然に関するイベントを開催することで、自然環境教育の場として提供できました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	ビオトープでのイベント回数	-	1 回	1 回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	緑の拠点であるビオトープを知ってもらうことを目的としてイベントを開催し、自然環境教育の場としての活動を進めていきます。			100.0 %	順調	
					やや遅れ	順調
				遅れ		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動の状況としては、ビオトープを自然環境教育の場として広めるためのイベントを開催できたことから、順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	ボランティアや専門家の意見を聞きながら、ビオトープの保全を進めていきます。運営管理については、響灘ビオトープ条例を改正して指定管理者制度を導入をできる状況した上で、民間のノウハウを導入できるように進めていきます。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	監視指導課
課長名	二宮

事業名	不法投棄防止事業				施策番号	
					VI - 4 - (2) - ①	
事業概要	市内の産業廃棄物の不法投棄の未然防止や拡大防止を目的とし、監視パトロール、監視カメラ整備、市民通報員の活用により、早期発見・早期撤去を進めるとともに、警察と連携して実行者へ厳しく対処します。					事業手法
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.20 人 係長 1.10 人 職員 0.30 人	(人件費備考)
	12,291 千円	16,220 千円				

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	産業廃棄物の不法投棄の未然防止、早期発見及び拡大防止を図ります。			成果実績	成果の状況は下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	廃棄物の不法投棄量(単年度)	112 トン	180 トン以下	96 トン			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	市内で不法投棄された廃棄物の量。監視パトロール、監視カメラ設置、市民通報員の活用、警察との連携等の施策の結果、廃棄物の不法投棄が減ったことを表す指標として、不法投棄量を設定しました。 (最終目標と目標年度)180t以下(単年度)			-	大変順調		

活動計画	不法投棄の未然防止及び早期発見のため、監視パトロールを実施します。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	監視パトロールの実施回数	309 件	320 件	319 件		
	不法投棄の未然防止及び早期発見のため、夜間(概ね月2回・3班:84回)、土日(概ね月1回・3班:36回)及び早朝・深夜(民間警備会社:200回)に、不法投棄されやすい箇所を中心に市内全域のパトロールを実施しました。(回数は平成24年度計画)			99.7 %	順調	

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	市による不法投棄の処理量は、年々減少しており、夜間、土・日曜日及び早朝・深夜の不法投棄パトロールによる効果が現れているものと考えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	市内各所にある不法投棄監視重点地区をパトロールするため、巡回範囲が広く、コスト削減は困難です。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境保全課
課長名	作花

事業名	ダイオキシソ類対策事業				施策番号	
					VI - 4 - (2) - ①	
事業概要	ダイオキシソ類対策特別措置法に基づき、大気、水質、底質及び土壌のダイオキシソ類による汚染状況を把握するため、環境測定(環境モニタリング)を行い、調査結果に基づき環境保全施策を検討、実施し、良好な環境の保全に努めます。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	11,166 千円	9,340 千円		3,595 千円	(人件費備考)	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	・市民の健康保護や生活環境の保全 ・良好な大気環境及び水質環境等の維持			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	環境の質の現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	生活環境の保全のため、大気、水質、底質及び土壌について、ダイオキシソ類に係る環境モニタリング計画を立て測定を実施し、環境の質の現状維持に努めます。 (最終目標と目標年度)			—			
					やや遅れ 遅れ	順調	

活動計画	大気(4地点×4回)、水質等(27地点×1回)の環境モニタリングを実施します。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	大気環境モニタリングの実施	4 地点	4 地点	4	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	大気について、ダイオキシソ類に係る環境モニタリング計画を立て測定を実施します。			100.0 %			
	水質等環境モニタリングの実施	27 地点	27 地点	27	やや遅れ 遅れ	順調	
河川、海域等の水質、底質及び土壌について、ダイオキシソ類に係る環境モニタリング計画を立て測定を実施します。	100.0 %						

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	活動について、予定通り調査・測定(環境モニタリング)を実施しました。成果について、測定結果や知見の集積ができ、環境質の現状維持に資することができました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	試料採取及び分析業務を民間事業者に委託し、経費削減に努めています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境保全課
課長名	作花

事業名	環境対策事業				施策番号	
					VI - 4 - (2) - ①	
事業概要	環境基本法等の環境法令や公害防止条例に基づき、大気汚染、水質汚濁、騒音振動等の監視測定(環境モニタリング)等を行い、現状把握します。その結果に基づき、本市の環境保全施策を検討、実施し、環境質の現状維持・向上に努めます。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	66,688 千円	68,638 千円		8,325 千円	(人件費備考)	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	・市民の健康保護や生活環境の保全 ・良好な大気環境及び水質環境等の維持			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	環境の質の現状維持	現状維持	現状維持	現状維持			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	生活環境の保全のため、大気、水質、騒音、振動について、環境モニタリング計画を立て測定を実施し、環境の質の現状維持に努めます。 (最終目標と目標年度)					-	
							順調

活動計画	大気汚染、水質汚濁、騒音振動等の環境モニタリング等を実施(有害大気汚染物質4地点等)します。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	大気環境モニタリングの実施	80 地点	80 地点	80 地点			大変順調 順調
	大気、騒音、振動について、環境モニタリング計画を立て測定を実施します。					100.0 %	
	水環境モニタリングの実施	71 地点	71 地点	71 地点	やや遅れ 遅れ	順調	
河川、海域等の水質について、環境モニタリング計画を立て測定を実施します							100.0 %

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動について、予定通り調査・測定(環境モニタリング)を実施しました。成果について、測定結果や知見の集積ができ、環境質の現状維持に資することができました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	試料採取及び分析業務を民間事業者へ委託し、経費削減に努めています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境保全課
課長名	作花

事業名	大気汚染常時監視システム整備事業				施策番号	
					VI - 4 - (2) - ①	
事業概要	大気汚染防止法22条の規定に基づく環境大気汚染状況の常時監視を行うため、公害監視センター及び市内21ヶ所に設置した常時監視測定局から成る測定環境網を整備します。調査結果を本市の環境保全の推進に役立てるとともに、環境の質の現状維持に努めています。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	36,864 千円	10,584 千円		6,075 千円	(人件費備考)	

## 【Plan】計画 →      【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	・市民の健康保護や生活環境の保全 ・良好な大気環境の維持			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	環境の質の現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	二酸化いおう等による大気汚染の状況把握のため、連続測定を実施し、環境の質の現状維持に努めます。						
	(最終目標と目標年度)			—		順調	

活動計画	・公害監視センター、測定局9局の保守(H20-24) ・測定局7局の借り入れ及び保守(H18-24) ・測定局5局の借り入れ及び保守(H20-26) ※大気汚染常時監視システムの一括更新については、別事業にて平成25年度に更新設計、平成26年度に更新作業、平成27年度より新システムの稼働を計画している。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	大気汚染常時監視の測定環境の整備	22 地点	22 地点	22 地点	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	大気汚染常時監視システムについて、更新計画に基づき、効率的な測定環境の整備に努めています。					
				100.0 %		順調

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動について、予定通り調査・測定(環境モニタリング)を実施しました。成果について、測定結果や知見の集積ができ、環境質の現状維持に資することができました。
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	大気汚染常時監視システムについて、更新計画を策定し、支出の平準化を図るなど適切な支出に努めています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境保全課
課長名	作花

事業名	新規法規制物質対策事業				施策番号	
					VI - 4 - (2) - ①	
事業概要	大気汚染防止法第22条の規定に基づく環境大気汚染状況の常時監視を行うため、平成21年9月に環境基準が新たに設定された微小粒子状物質(PM2.5)について、測定体制を整備し、成分分析を行うものです。常時監視により知見の集積を図るとともに、環境質の現状維持に努めます。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
事業費		8,140 千円	8,000 千円		6,220 千円	係長 0.10 人 職員 0.65 人 (人件費備考)

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	・市民の健康保護や生活環境の保全 ・良好な大気環境の維持		成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	環境の質の現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	PM2.5による大気汚染の状況把握のため常時測定を行い、環境の質の現状維持に努めます。 (最終目標と目標年度)			—		
						順調

活動計画	測定網の整備計画に基づき、平成24年度は2カ所のPM2.5測定局を整備します。平成22年度から25年度までの4年間で市内に7カ所のPM2.5測定局から成る測定網を整備します。 ※平成22年度整備分の1ヶ所は、別事業にて整備したもの	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	大気汚染常時監視の測定環境の整備	2 地点	2 地点	2 地点	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	整備した測定局において、順次環境測定を開始します。			100.0 %		
						順調

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動について、予定通り測定体制を整備し、成分分析を実施しました。成果について、予定どおり測定結果や知見の集積が出来ました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	測定網の整備計画を策定し、支出の平準化を図るなど適切な支出に努めています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	梶原

事業名	ノーマイカー普及戦略事業			施策番号 VI - 4 - (2) - ②		
	事業概要 過度なマイカー利用を抑制し、環境にやさしい公共交通機関を積極的な利用を促進します。			事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人
	3,597 千円	500 千円			465 千円	係長 0.20 人 職員 0.20 人

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 過度なマイカー利用を抑制し、環境にやさしい公共交通機関を積極的な利用を促進し、自動車から排出されるCO2を削減します。	成果実績	成果の状況は以下の通りです。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	ノーマイカーデー参加者の数(単年度)	74 社	74 社	75 社	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	マイカー通勤者を主な対象として、参加企業数及び参加者の増加を図ります。 (最終目標と目標年度)			101.4 %		
	ノーマイカーデー実施によるCO2削減量(単年度)	71 t	71 t	120 t	やや遅れ 遅れ	順調
マイカー利用から公共交通機関を利用したことによるCO2の削減量 (最終目標と目標年度)	169.0 %					

活動計画	H23年度の10月から毎週水曜日をノーマイカーデーとしており、市内企業及び市民に広く参加を呼びかけます。特に10月・11月の推進月間には市内飲食店で割引などの特典が受けられるなど楽しみながら取り組む仕組みとします。	活動実績	成果の状況は以下の通りです。、H24年度は回覧板へのチラシの折り込みやドライバーにPRするため主要道路の歩道橋に横断幕を設置など新たなPRを行いました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	市内企業や飲食店、交通事業者などへの協力依頼	市内企業への参加依頼	効果的なPR	様々な媒体を利用した効果的なPRを行った	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	ノーマイカーデー参加者を募るために市内企業への参加依頼や、JRやモレール、バスなどの駅や駅周辺でのチラシ・ポスターの掲示やのぼり旗の掲示など幅広く普及啓発を行います。			やや遅れ		
					遅れ	順調

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	上記のPRに加え、更なる普及啓発策として、H24年度は回覧板へのチラシの折り込みやドライバーにPRするため主要道路の歩道橋に横断幕を設置など新たなPRを行いました。その結果、CO2の削減量は増加しており、活動の状況は「順調」といえます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	H24年度は、PRの手段としていろいろな方法を施行してみました。今後は、どの手法がよいか内容を精査しコストがかからずPRできる方法を継続していきます。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	梶原

事業名	エコドライブ推進事業			施策番号		
				VI - 4 - (2) - ②		
事業概要	自動車から排出されるCO2削減のため、企業内でのエコドライブ活動を支援するとともに市民へのエコドライブの普及啓発を図ります。					事業手法
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10 人	(人件費備考)
	5,024 千円	765 千円		8,900 千円	係長 0.50 人 職員 0.40 人	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	自動車から排出されるCO2の削減			成果実績	成果の状況は以下の通りです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	エコドラ北九州プロジェクト参加事業者のCO2削減量 (単年度)			216 t			大変順調 順調
	参加事業者のCO2の削減量 (最終目標と目標年度)	196 t	196 t	110.2 %	やや遅れ 遅れ	順調	

活動計画	市内事業者へのエコドライブ活動の普及のため、「エコドラ北九州プロジェクト」を実施し、エコドライブ活動の支援を行います。優良活動企業には市からの認定や表彰を実施します。また市民向けに「エコドラ燃費グランプリ」や出前講演、アイドリングストップ運動を行います。			活動実績	成果の状況は以下の通りです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	エコドラ北九州プロジェクト参加事業者数			40 社		
	エコドライブ活動に取り組む市内事業者数	36 社	36 社	111.1 %	やや遅れ 遅れ	順調
	市民向けのエコドライブの普及啓発 (各活動の参加者の合計)			980 人		
	アイドリングストップ運動への参加者数、個人向け燃費グランプリ参加者数、出前講演の受講者数。	532 人	-	-		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	エコドラ北九州プロジェクトの参加事業者が増加しCO2削減効果も向上しました。また表彰を実施することで事業者の意欲が高まりました。今年度から県警主催の「安全運転管理者講習会」での講演やエコアクション21取得予定事業者や取得事業者向け講習会での講演を行い、活動参加事業者の拡大を図りました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	H19年度から5カ年計画で構築したモデル普及のため、必要最小限の経費でセミナー等を実施し普及啓発を行いました。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	山本

事業名	公用車における低公害車普及事業				施策番号	
					VI - 4 - (2) - ②	
事業概要	市が率先して低公害車を導入することで広告塔としての役割を果たし、市民、企業への普及啓発を図るとともに公用車の低炭素化を図るものです。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
						( )
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.10 人
	36,395 千円	31,124 千円			係長	0.60 人
				職員	0.30 人	(人件費備考)

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	環境性能に優れた電気自動車やプラグインハイブリッド自動車を公用車に導入し、自動車から排出されるCO2を削減するとともに、日常での業務の移動やイベントなどでのPRを通じて、民間での導入についても推進します。			成果実績	成果の状況は以下の通りです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	民間での次世代自動車(電気自動車、プラグインハイブリッド車)の普及台数(累計)	80 台	130 台	324 台			大変順調 順調
	市内における次世代自動車(電気自動車、プラグインハイブリッド車)の普及台数 (最終目標と目標年度) H25年度までに300台導入			249.2 %			
	電気自動車へ転換した場合のCO2削減量(累計) 電気自動車導入台数×1.85t(ガソリン車から電気自動車へ転換した場合のCO2排出係数) (最終目標と目標年度) H25年度までに555t削減(300台の導入)	148 t	241 t	599 t	やや遅れ 遅れ	順調	
				248.5 %			

活動計画	24年度は、電気自動車33台を市各部署へ導入します。また、小学生への電気自動車教室、環境イベント(エコライフステージ)での展示などを実施し、市民向けのPRに努めます。	活動実績	成果の状況は以下の通りです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	次世代自動車(電気自動車、プラグインハイブリッド車)の導入台数	8 台	33 台	35 台		
	24年度は、区役所を中心に電気自動車等33台を導入します。			106.1 %		
	電気自動車を活用した市民へのPR回数	3 回	5 回	5 回	やや遅れ 遅れ	順調
わっしょい百万夏祭りウェルカムパレードや小学生への電気自動車教室など市民へのPRイベントに電気自動車を活用します。	100.0 %					

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	25年度までに市内における次世代自動車300台の導入を目標に事業を進めてきましたが、24年度に前倒し達成できました。その他、職員の通常業務やイベント(わっしょい百万夏祭りウェルカムパレード参加、小学生への電気自動車教室、エコライフステージなど)で積極的にPRを実施しました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	導入時期が合わせられるものに関しては、同時に競争入札を行い、スケールメリットが出せるような方法での導入を行っています。また、購入ではなく、リースでの導入を行い、維持管理に関する経費を削減できるような仕組みとしています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境未来都市推進室
課長名	山本

事業名	電気自動車等導入及び充電インフラ整備助成事業				施策番号	
					VI - 4 - (2) - ②	
事業概要	環境に優しい電気自動車やプラグインハイブリッド自動車の普及のため、市民や事業者の車両導入経費並びに充電設備工事費の一部を助成します。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	13,217 千円	5,000 千円		8,900 千円	(人件費備考)	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	電気自動車等の普及を推進するため、市内事業者を対象に購入費の助成をするものです。また、電気自動車等の普及に必要な充電インフラ設備の一部を助成するものです。			成果実績	市内電気自動車等普及台数【324台】 電気自動車等への転換によるCO2削減量【599t】	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	市内における電気自動車等の普及台数(累計)			324 台	大変順調 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市内の電気自動車等の普及台数及び普及に必要な充電インフラの設置箇所数 (最終目標と目標年度)H28年度までに市内で6,000台	80 台	130 台	249.2 %			
	電気自動車へ転換した場合のCO2削減量[市内普及分](累計)			599 t	やや遅れ 遅れ	順調	
324台(平成25年3月末の電気自動車等普及台数)×1.85t(ガソリン車から電気自動車へ転換した場合のCO2排出係数) (最終目標と目標年度)H28年度までに11,100t削減	148 t	241 t	248.5 %				

活動計画	電気自動車1台あたり、車両本体価格の8%(上限25万円)の助成を行いました。また充電インフラ工事費の2分の1(上限:急速充電器:100万円、倍速充電器20万円)の助成を行いました。	活動実績	成果の状況は以下の通りです。				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	電気自動車等の助成件数			53 台	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	市内事業者に対する電気自動車等の購入助成を行います。	20 台	50 台	106.0 %			
	充電インフラ整備助成件数			倍速3 基	やや遅れ 遅れ	順調	
市内事業者に対する充電インフラ工事費等の助成を行います。	急速3 基	急速2 倍速5 基	-				

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	電気自動車等の助成については、応募開始から2ヶ月ほどで目標台数に達し、自動車販売店への聞き取りでも、本事業が普及に対して一定の効果があつたと理解できます。一方、充電インフラ整備助成については、倍速充電器の申請があつたものの、急速充電器の申請はなく、電気自動車の普及がなかなか進まない中での設置者のメリットが、不明確であることの影響が大きいと言えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	電気自動車等の助成については、依然として車両自体が高額であることに加えて、走行可能距離がガソリン車と比較して圧倒的に短いこともあり、助成金額を下げることに對しては、普及を目指す上では、慎重に検討する必要があります。充電インフラに関しては、設置者の費用回収のシステムが確立しておらず、積極的な設置を見込むことが難しいため、引き続き助成制度を継続する必要があると言えます。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	監視指導課
課長名	二宮

事業名	工場・事業場監視事業				施策番号	
					VI - 4 - (2) - ③	
事業概要	市内の工場・事業場に対し、大気汚染防止法・水質汚濁防止法に基づいて、立入検査及び排ガス・排水中の規制項目に関する測定を実施し、事業者の環境法令の遵守を監視するとともに、環境管理の取り組みを促進するよう促すものです。また、一般市民からの公害関係苦情・要望を受け、発生源指導を行うものです。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	22,293 千円	21,424 千円			56,300 千円	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	大気汚染防止法、水質汚濁法等の環境法令の規制を受ける工場・事業場に対して、法令遵守の徹底を図ります。			成果実績	成果の状況は下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	公害に関する苦情・要望件数(単年度)	291 件	400 件以下	266 件			
	大気、水質、悪臭、騒音等公害に関する市民からの苦情・要望件数。 安心して暮らせる快適なまちづくりを示す指標として設定しました。 (最終目標と目標年度)			—			
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調	

活動計画	工場・事業場に対する施設・運転管理状況等確認のための立入検査及び排ガス・排水等の測定				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	工場・事業場に対する立入検査、測定の実施件数(大気、悪臭及び水質に限る)	484 件	420 件	495 件			
	立入検査や行政測定の対象とする工場・事業場及び検体数延べ約600のうち平成24年度は420件について対応することを目標としました。			117.9 %			
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調	

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	工場・事業場に関する苦情件数は、近年減少傾向にあり、工場・事業場に対する継続的な立入・測定の効果が現れていると思われます。 平成24年度は、立入・調査件数が増加し、事業場の環境保全に関する意識向上に役に立ったと考えます。 今後も、立入体制を継続して強化する方針です。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	工場・事業場の場所について、経路や時間帯を有効活用し、複数まとめて立入・調査をするようにし、効率化を図っています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境国際戦略課
課長名	久保

事業名	環境国際協力推進事業				施策番号	
					VII - 1 - (3) - ①	
事業概要	途上国技術者を受け入れる国際研修や経験豊かな市内企業技術者等を諸外国都市に派遣し、現地で相手都市も主体的に関わった実践的な技術指導を実施します。また、国内外の関係機関と協働・連携した調査、情報収集や発信を行うとともに、各種都市間ネットワークを活用したプロジェクトを実施します。更には国際機関等と密に連携して、協力対象国や都市の「緑の成長」にも資する環境国際協力を目指すものです。				事業手法 ( ) (人件費備考)	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)			目安の金額
事業費	12,932 千円	96,000 千円			6,650 千円	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を) どのような状態にしたいのか	国、国際機関等の補助事業を活用しながら、環境国際協力の実施を通じた地球環境保全、地球規模での持続可能な社会実現、北九州地域の活性化に資することにより、世界の環境首都の実現を目指します。	成果実績	・インドネシア・バリクパパンにおいて技術輸出を見据えた環境学習プログラム開発事業を実施 ・マレーシア国における廃棄物管理業務の効率化事業 ・インドネシア・スラバヤ市における分散型排水処理施設整備事業 ・ブラジル国における廃棄物管理推進事業		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	戦略的国際環境協力事業の件数(単年度)			4 件	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	本市が有する都市間ネットワークを活用した戦略的な環境分野に関するプロジェクトを実施し、国際機関等と連携を密にして、協力対象国や都市の「緑の成長」にも資する環境国際協力を目指します。 (最終目標と目標年度)平成28年までに年間事業数6件を目指します。	3 件	3 件	133.3 %		
					やや遅れ	大変順調
				遅れ		

活動計画	独立行政法人国際協力機構の草の根事業(地域提案型)及び財団法人自治体国際化協会の自治体国際協力促進事業を活用し、廃棄物分野や環境教育分野において事業を展開して行きます。			活動実績	H24.12にバリクパパン市にて、環境学習に関するワークショップを開催しました。 H25.2にハントワジャヤ特別市にて、環境関連セミナーを現地カウンターパートと共に開催しました。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	バリクパパン特別市に対する環境教育イベント実施回数			1 回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	バリクパパン特別市での協カイベントの実施するなど、環境国際協力の推進を図ります。	-	1 回	100.0 %			
	マレーシア国ハントワジャヤ特別市での環境セミナーへの参加者数			213 人	やや遅れ	大変順調	
ハントワジャヤ特別市で政府、教育機関、市民を対象とする環境関連セミナーを開催し、北九州市の政策発表、マレーシア国での取組事例、環境意識改善を行います。	-	150 人	142.0 %				

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	環境教育の分野においてインドネシア・バリクパパン市の環境意識改善に貢献しました。また、マレーシア国ハントワジャヤ特別市で廃棄物管理の効率化に向けた、専門家の育成や政策提案などを行うなど活動成果も出ていることから、成果の状況、活動の状況ともに大変順調としています。 なお、環境国際協力推進事業において、インドネシア国スラバヤ市で実施した「生ごみ堆肥化事業」などでは、そこで培った友好関係が発展し、平成24年11月12日に同市と「環境姉妹都市(グリーンシスターシティ)」に関する覚書を締結するに至りました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	独立行政法人国際協力機構の草の根事業(地域提案型)及び財団法人自治体国際化協会による補助事業を活用することで、本市の財政負担を軽減しています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境国際戦略課
課長名	久保

事業名	アジアの環境人材育成拠点形成事業				施策番号	
					VII - 1 - (3) - ①	
事業概要	アジアの途上国やその都市が自ラ力で環境改善の取組を進めることができるよう、人材育成に向けてJICA等国の支援や連携により、実践的な国際環境研修事業を推進していくものです。 本市の環境国際協力の原点である環境人材育成は、「世界の環境首都」を目指す本市の取り組みの一環であり、海外からの研修員を受け入れることにより、世界的規模で進んでいる環境問題解決の一助を担うとともに、現地の環境改善や海外諸都市とのネットワーク構築、ひいては環境国際ビジネスへの事業展開に繋がるものです。					
コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目金の金額	課長 0.10人
	2,371 千円	2,435 千円			4,400 千円	係長 0.10人 職員 0.30人
						事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( ) (人件費備考)

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	環境問題に直面しているアジア地域の行政官を対象に研修事業を行い、現地での環境改善において中心的な人材育成を図るとともに市職員・関係機関職員の能力開発を行うことで、アジアの環境人材育成拠点を目指します。			成果実績	平成24年度 900人受入 (内 内訳: 市:479人 KITA:421人)	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	アジアの環境人材育成のための研修員等の受入数(単年度)	431 人	420 人	900 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	アジアの途上国やその都市が自ラ力で環境改善の取組を進めることができるよう、本市において環境人材育成を行います。あわせて、本市の優れた環境人材を海外において指導できるよう育成します。 (最終目標と目標年度)H24年度～H28年度 2,200人受入			214.3 %			
							大変順調

活動計画	平成24年度から平成28年度までの5年間に、2,200人の研修員を受け入れるため、国内外での研修誘致活動を行います。			活動実績	研修誘致のため国内外へ職員を4回派遣しました。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	国内外での北九州市への研修誘致	-	-	4 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	市職員を国内外に派遣し、公害を克服した本市の技術、ノウハウや環境政策のPR、研修誘致を行います。			%			
							順調

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	研修生受け入れについては、目標である420人を達成しました。環境未来都市・グリーンアジア国際戦略総合特区やOECDグリーンシティプログラムのモデル都市への選定などにより、国内外から注目を集めた結果だと考えており、成果の状況を大変順調、活動の状況を順調としています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	(公財)北九州国際技術協力協会や(独)国際協力機構などと連携することで、コストの軽減を図りました。また、国内外への出張に併せ、環境政策のPRを行うとともに、本市への研修誘致を行いました。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# PDCAチェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境国際戦略課
課長名	吉村

<b>事業名</b>	アジア低炭素化センター推進事業						施策番号 VII - 1 - (3) - ①
<b>事業概要</b>	環境モデル都市に掲げた温暖化ガス削減目標を達成するため、平成22年6月に開設された「アジア低炭素化センター」の事業を推進し、環境に資する多様な技術等を海外に移転することで、地域経済の活性化を推進していくものです。						<b>事業手法</b> <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
<b>コスト</b>	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 2.45人 係長 3.40人 職員 3.40人	
	45,323 千円	240,896 千円			87,675 千円		担当課のみ。ただし、担当課以外に指定管理者等多くの関係部署が関わっています。

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市内企業が有する環境技術をパッケージ化し、アジア諸都市のニーズに即した技術輸出を行うことで、企業のビジネス支援を行います。様々な事業を通じて環境国際ビジネスの海外展開を推進し、アジア地域の低炭素化社会の実現に寄与します。		<b>成果実績</b>	単年度の成果を数値検証することは困難ですが、FS調査事業やビジネスマッチング、北九州モデルの構築などを通じて、着実に環境国際ビジネスを推進しています。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> <small>(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)</small>	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	アジア地域でのCO2排出量を削減	—	単年度目標設定なし	—	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	2050年までに、本市の2005年比で、150%相当のCO2排出量を、アジア地域で削減することを目標とします。  (最終目標と目標年度)150%削減(2050年)					やや遅れ	
						遅れ	順調

<b>活動計画</b>	国からの調査受託事業などを活用するなど、市内企業とともに各種のプロジェクトを実施します。また海外でのビジネス展開を図るための国内外の商談会への参加支援などを実施します。さらに、インドネシア・スラバヤ市と環境姉妹都市を締結するなど、海外の各機関、各都市との連携協力を図ります。			<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> <small>(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)</small>	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	プロジェクト推進数	30 件	35 件	37 件 105.7 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	国からの調査受託事業を活用するなど、市内企業とともに各種のプロジェクトを実施する。				やや遅れ	
	企業協議、ビジネスマッチング数	572 件	430 件	580 件 134.9 %	遅れ	順調

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<p><b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>現時点において海外でのCO2削減量を数値で表すことは困難ですが、国からの調査受託事業や国内外への商談会への参加支援などを活用して、市内企業とともに各種の事業を行いました。また、平成24年度は海外都市の持続可能なまちづくりを支援するため、本市の有する技術・ノウハウを体系的に整理した「北九州モデル」を構築し、着実に環境国際ビジネスの推進に寄与したと判断しました。成果の状況については、国等に採択された調査受託事業の支援を行うとともに、海外で開催された商談会や市内で開催したエコテクノでの商談会を通じて、ビジネスマッチングを行うなど、有効性の高い活動ができたと考え順調と判断しました。</p> <p><b>「経済性」</b>(同成果を低コストで) <b>「効率性」</b>(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>ビジネス展開に必要な現地調査活動等に関して、本年度は多くの国等の事業に採択され、調査受託事業を活用することで、本市の負担額の削減に努めています。</p>

以下、予算案作成時に記入

【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入					
<b>見直し状況等</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;"><b>課題</b></td> <td>26年度の活動計画(見直し内容)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その結果目指す成果(26年度の成果目標)</td> </tr> </table>	<b>課題</b>	26年度の活動計画(見直し内容)		その結果目指す成果(26年度の成果目標)
<b>課題</b>	26年度の活動計画(見直し内容)				
	その結果目指す成果(26年度の成果目標)				

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境国際戦略課
課長名	本島

事業名	中小企業アジア環境ビジネス展開支援事業				施策番号	
					VII - 1 - (3) - ①	
事業概要	アジア地域等の海外に低炭素化技術の輸出を目指す市内中小企業を対象に、自社が所有する既存の技術・製品を、海外でのニーズに合わせた現地での実証試験、または事業可能性調査(FS)に要する費用の一部を助成し、市内企業の海外への技術輸出の推進を図るものです。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	14,749 千円	8,750 千円		2,325 千円	(人件費備考) 担当課のみ。ただし業務の一部を委託しています。	

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	アジア地域等の海外に低炭素化技術の輸出を目指す市内中小企業を対象に、自社が所有する既存の技術・製品を、海外でのニーズに合わせた現地での実証試験、または事業可能性調査(FS)に要する費用の一部を助成し、市内企業の海外への技術輸出の推進を図ります。	成果実績	市内中小企業の海外進出に寄与しました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	海外での実証事業等の進出数(単年度) 本事業は、市内企業の海外への技術輸出の推進を目的として費用の一部を助成するもので、「海外での実証事業等の進出数」を成果指標とします。なお、本来はビジネスでの進出数が指標として望ましいのですが、まずは実証事業等の実績を着実に積み重ねることで、将来的なビジネス進出につなげたいと考えています。 (最終目標と目標年度)H27年度まで 10件	2 件	2 件	4 件 200.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック  大変順調

活動計画	7月から事業の公募を行い、8月に採択企業を決定します。各企業の事業進捗状況の確認を行い、経費の執行状況についても適宜検査します。また、各企業の事業完了後に事業内容の報告を受けるとともに精算を行います。	活動実績	実証枠3件のほか、24年度より新設したFS(事業可能性調査)枠を1件採択しました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	申請書のダウンロード数 本事業の認知度を判断します。事業を広く周知することで、市内企業の海外展開への意欲向上を図ります。	9 件	10 件	15 件 150.0 %	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	採択企業の事業の進捗状況確認件数 採択企業の事業の進捗状況を確認することで、事業の適正な推進を図ります。	2 件	4 件	4 件 100.0 %	やや遅れ 遅れ	順調

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 成果の状況、活動の状況ともに概ね順調です。 24年度は実証枠4件、FS枠1件の申請件数のうち、実証枠3件、FS枠1件を採択しました。
「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	企業の採択にあたっては、産学官各界よりの審査員による公平・適正な審査を行うとともに、事業の進捗状況等の調査を外部の専門家に委託することで、迅速で効率的な事業運営を行っています。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境国際戦略課
課長名	久保

事業名	経済協力開発機構(OECD)グリーンシティプログラム推進事業				施策番号	
					VII - 1 - (3) - ①	
事業概要	OECD グリーンシティプログラムにおけるアジア初のモデル都市として、「北九州レポート」を基に、アジアを中心に世界に向けた情報発信や政策提言を行い、「世界の環境首都」の都市ブランド構築を目的としています。				事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考)		目安の金額
	8,056 千円	15,200 千円			14,500 千円	(人件費備考)

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	本市の環境分野や経済分野に関する政策や実績などがOECDによって世界的に情報発信され、世界のグリーン成長を促進するとともに、環境分野における本市の都市ブランド力が向上し、環境分野の国際ネットワークが拡大することを目指します。	成果実績	OECDによる北九州レポートの作成に際し、本市の環境関係の取組状況等を情報提供するなどの活動を行い、北九州レポートの作成に寄与し、本市の取組が世界的に発信されるための準備を整えました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	本市の認知度の向上		本市の都市ブランド力の向上		大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	OECDグリーンシティプログラムにおいて、本市の取組みをより深く理解してもらうため、OECD本部及び加盟国における本市の認知度向上を図ります。最終的にはOECDレポートを国内外に向けて発信するため、レポート作成に必要な資料提供、OECDとの協議を行います。 (最終目標と目標年度) H25 報告書の世界的発信				順調	
					やや遅れ	順調
				遅れ		

活動計画	OECDがグリーンシティプログラムの報告書を取りまとめるにあたり、本市に関する追加情報等を提供していきます。OECD本部で開催される会合などに出席し、本市の取組みをPRしていきます。	活動実績	フランス・パリのOECD本部で開催された会合などに出席し、意見表明等を行いました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	OECD本部及び加盟国への本市の取組みのPR	—	1 回	2 回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	OECD本部で開催される会合などに出席し、本市の取組みをPRします。			200.0 %	順調	
	OECDへの資料・情報提供及びOECDとの協議	—	100 回	285 回	やや遅れ	順調
OECDに対して必要な資料・情報の提供を行うとともに、OECDとの協議を行います。				285.0 %		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	フランス・パリのOECD本部で開催されたOECD作業部会に産業界や市民の代表等から構成される北九州市派遣団を派遣したり、本市職員がOECD本部職員に対するセミナーを実施したりするなど、OECDに様々な角度から本市の取組みをPRし、また、本市の取組みについての情報提供などを行うことで本市の認知度の向上を図ることができたため、成果の状況、活動の状況ともに順調としています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	行政からの出席者は、関係部局の意見を集約するなどにより、最小限の人数に留め、また、クリアパリ事務所を活用するなどして低コスト化を図りました。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)

# P D C A チェックシート (平成 24 年度実績評価)

担当局	環境局
担当課	環境国際戦略課
課長名	佐々木

事業名	グリーンシティ輸出のための北九州モデル構築事業				施策番号	
					VII - 1 - (3) - ①	
事業概要	持続可能な環境配慮型都市(グリーンシティ)づくりに必要な、本市の行政ノウハウと民間の技術・製品を体系的に整理した「北九州モデル」を作成します。「北九州モデル」とそのPRツールを活用して、都市化が進むアジア地域で環境インフラビジネスを推進します。 ※「北九州モデル」の概要:「廃棄物管理」「エネルギー管理」「上下水管理」「環境保全」の4分野からなり、新興国が環境配慮型都市づくりのマスタープランを作成するための支援ツールとなるもの。					
	コスト	24年度執行額	25年度当初予算額	(事業費備考) 平成23年度繰越 48,446千円 平成24年 15,317千円	人件費	目安の金額
	15,317 千円	10,000 千円			14,500 千円	(人件費備考) 担当課のみ。ただし、業務の一部を委託しています。
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他					

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	「北九州モデル」とそのPRツールを活用して、都市化が進むアジア地域で環境インフラビジネスを推進し、市内企業の海外進出を支援します。それにより市内企業の海外展開が推進され、地元企業の業績が拡大し、ひいては雇用の拡大や市税収入の増加に繋がります。			成果実績	半年度の成果を数値検証することは困難ですが、「北九州モデル」を活用し、成果が達成できるよう着実に推進します。
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	「北九州モデル」を活用したグリーンシティの輸出(累計)	-	単年度目標設定なし	-	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	「北九州モデル」を活用して、市内企業の優れた環境技術と本市の環境都市インフラに係るノウハウをパッケージ化して、アジア都市にグリーンシティを輸出します。				順調	
	(最終目標と目標年度) H28年度までに3都市に輸出				やや遅れ	順調
				遅れ		

活動計画	8月:「北九州モデル」を作成するための業務委託を締結 8月~2月末 本市環境行政のノウハウを体系的に整理するためのヒアリング等調査を実施、「北九州モデル」を作成 2月:「北九州モデル」PRツール業務委託を締結 2月~3月末 PRツールとなる紹介DVDを2本作成	活動実績	2月末:「北九州モデル」が完成 3月末:PRツールとなる紹介DVDを2本完成			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	23年度実績	24年度目標	24年度実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	「北九州モデル」及びPRツールの作成	-	輸出のための支援ツールを作成	-	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	グリーンシティ輸出の支援ツールである「北九州モデル」及びPR用DVDを作成します。				順調	
					やや遅れ	順調
				遅れ		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	グリーンシティの輸出を円滑に進めるため、平成24年度には支援ツールである「北九州モデル」とPR用DVDを当初予定のとおり作成しました。平成24年度の取り組みは、グリーンシティの輸出のためのマーケティングを行う上で必要不可欠な取り組みであり、事業も計画通り進んでいるため、順調と判断しました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	環境未来都市先導的モデル事業費補助金の交付を平成23年度(平成24年度へ繰越)、平成24年度、それぞれ23,089千円、7,301千円を受けて事業を実施しました。事業費のほぼ半額を国の補助金で賄っており、経済的な経費負担が実現しました。

以下、予算案作成時に記入

## 【Action】→【Plan】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	26年度の活動計画(見直し内容)
		その結果目指す成果(26年度の成果目標)